

元総社蒼海遺跡群（4）

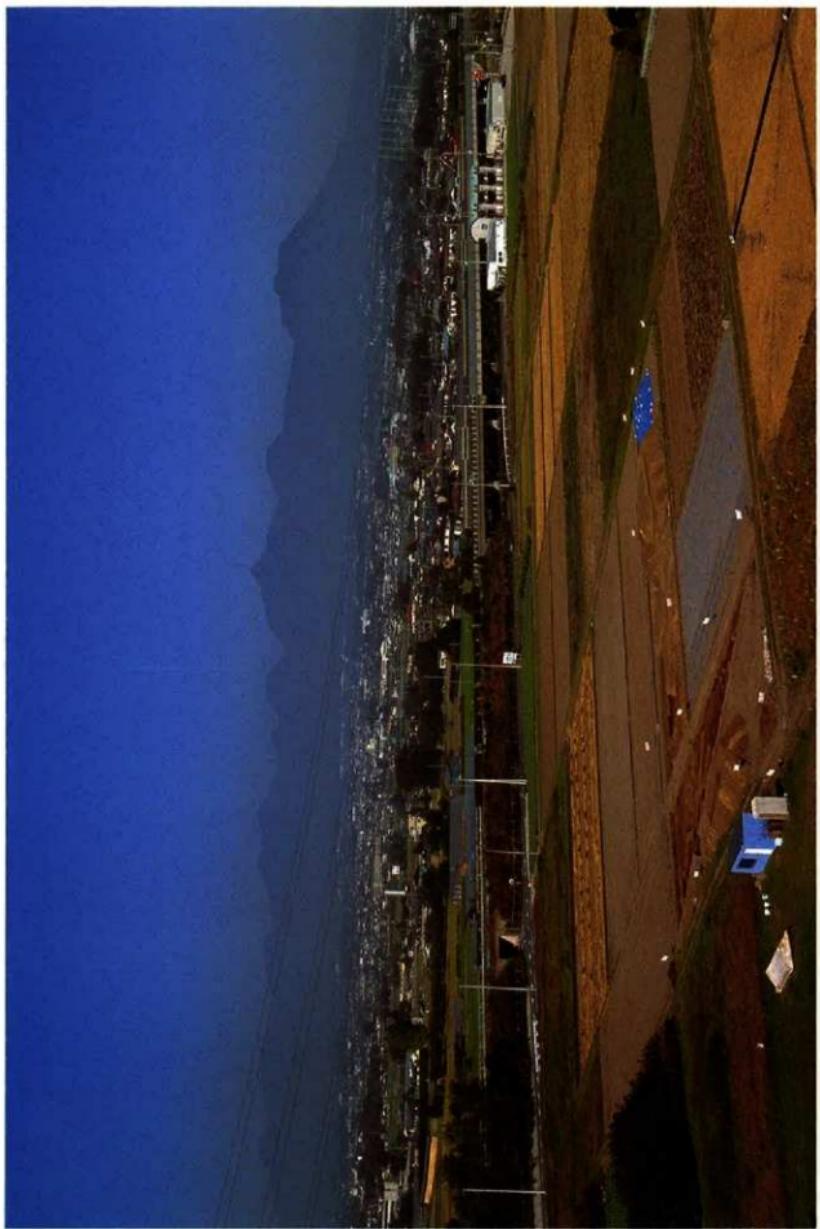
前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2006・3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

調査区海岸（南東から）





H-19号住居跡遺物出土状況（西から）



H-19号住居跡出土遺物

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される追憶の山であります。その悠久と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国古墳文化の中心地として栄え、今でも9基もの国史跡指定となる古墳が存在します。

続く律令制の時代に入ると、總社古墳群から連続と続く山王庵寺、上野国府、上野国分僧寺、上野国分尼寺など「クニ」の中核施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる瓶橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と前橋を結ぶシルクロードが開かれ、文化交流が始まりました。このように本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました元總社蒼海遺跡群の発掘調査は区画整理事業に伴うもので、上野国府を解明する重要な目的があります。調査により、国府と推定される元總社町から群馬町の国分寺一帯まで集落が存在することが判明いたしました。これらは今後、分析が進めば、「国府のマチ」として解釈されるものと期待されます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました元總社地区の皆さん、市区画整理第二課、調査に従事されました皆さんに厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　根岸　雅

例 言

1. 本報告書は、前橋市都市計画事業元総社査定地地区調査事業に伴う元総社遺跡群(4)発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所 蕃馬県前橋市元総社町1713 他

発掘調査期間 平成17年9月9日～平成17年11月25日

整理・報告書作成期間 平成17年11月26日～平成18年3月3日

発掘・整理担当者 近藤雅順・池田史人(発掘調査係員)

4. 本書の原稿執筆・編集は近藤・池田が行った。

5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

木村孝充・後藤進・佐藤佳子・下境・弥・下境米治・城田邦男・曾我仁・高澤厚志・内藤旭

内藤よし・中島利夫・西山勝久・西山光彦・峰岸あや子

6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1. 指図中に使用した北は、座標北である。

2. 指図に建設省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮、長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:6,000前橋市現形図を使用した。

3. 本遺跡の略称は、17A130-10である。

4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

J…縄文時代の堅穴住居跡 F…炉跡 H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡 T…堅穴状遺構

W…溝跡 U…埋設土器 JD…縄文時代の上坑 D…土坑 P…ピット I…井戸跡

5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構 全体図…1:200 住居跡・堅穴状遺構・溝跡・土坑・ピット・井戸跡…1:30・1:60・1:120
電・炉断面図…1:30

遺物 土器…1/3・1/4 石器・石製品・土製品…2/3・1/2・1/3 鉄器・鉄製品…1/2
瓦…1/2・1/6

6. 上器の器種において、本報告書では、口径12.0cm以下、器高4.0cm以下、橢円整形・酸化焰焼成の壺形土器を「かわらけ」と呼称する。

7. 計測値については、()は現存値、[]は復元値を表す。

8. セクション図のPは遺物、Sは石を表す。

9. セクション注記の記号は、縦まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。

○…縦まり・粘性非常にあり、○…縦まり・粘性あり、△…縦まり・粘性ややあり、×…縦まり・粘性なし

10. 遺構平面図の-----は推定線を表す。

11. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構断面図 構築面…■

遺物実測図 須恵器断面…■ 灰釉陶器断面…■ 灰釉陶器表面…■

綠釉陶器断面…■ 煤付着…■ 黏土付着…■

漆付着…■ 赤色塗彩…■

12. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石:供給火山・浅間山、1108年)

Cr-FP (榛名ニッ岳伊香保テフラ:供給火山・榛名山、6世紀中葉)

Cr-FA (榛名ニッ岳渋川テフラ:供給火山・榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石:供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉)

目 次

はじめに.....	i
I 調査に至る経緯.....	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地.....	1
2 歴史的環境.....	1
III 調査方針と経過	
1 調査方針.....	7
2 調査経過.....	7
IV 基本層序.....	9
V 遺構と遺物	
1 積穴住居跡.....	10
2 積穴状遺構.....	14
3 溝跡.....	14
4 土坑・ピット・井戸跡.....	15
5 グリッド等出土遺物.....	15
VI まとめ.....	25

図 版

図1 調査区遠景（南東から）

- 2 H-19号住居跡前遺物出土状況（西から）
- 3 H-19号住居跡出土遺物

- PL. 1 J-1・2号住居跡、U-1号煙突土器
2 調査区全景、H-1・2・7号住居跡
3 H-3・4・5号住居跡
4 II-6・8・9号住居跡、調査区北側全景
5 H-10・11・12号住居跡
6 H-14・16・17・18号住居跡
7 H-19号住居跡
8 H-20、W-1～3号溝跡、I-1号井戸跡
9 J-1号住居跡、U-1号土坑出土遺物

- 10 J-2号住居跡出土遺物
- 11 II-1・2・4号住居跡出土遺物
- 12 H-4・5・9・10号住居跡出土遺物
- 13 H-10・11・12・15・16号住居跡出土遺物
- 14 H-16・18・19号住居跡出土遺物
- 15 H-19号住居跡出土遺物
- 16 H-19・20・21号住居跡、溝跡、土坑出土遺物
- 17 石器・石製品・土製品
- 18 鉄器・鉄製品・瓦

挿 図

Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図

- 2 周辺遺跡図
- 3 元總社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
- 4 基本層序
- 5 元總社蒼海遺跡（4）全体図
- 6 J-1・2号住居跡
- 7 H-1・3・7号住居跡
- 8 II-2号住居跡
- 9 H-4・5号住居跡
- 10 H-8・9号住居跡
- 11 H-6・10号住居跡
- 12 II-11号住居跡
- 13 H-12号住居跡
- 14 H-13・14・15号住居跡
- 15 H-16・17号住居跡
- 16 II-18・20号住居跡
- 17 H-19号住居跡
- 18 H-21・22号住居跡
- 19 T-1号竪穴状遺構、W-1溝跡
- 20 W-2・6号溝跡
- 21 W-3～5号溝跡

- 22 U-1・JD-2号土坑、D-1～9号土坑
- 23 D-10～13号土坑、P-1～11号ピット、I-1号井戸跡
- 24 J-1号住居跡、U-1号土坑出土遺物
- 25 J-2号住居跡出土遺物
- 26 H-1～3号住居跡出土遺物
- 27 H-4・5号住居跡出土遺物
- 28 H-10・11号住居跡出土遺物
- 29 H-12・15・16号住居跡出土遺物
- 30 H-18・19号住居跡出土遺物
- 31 H-19号住居跡出土遺物
- 32 H-19・20・21号住居跡出土遺物
- 33 T-1号竪穴状遺構、溝跡、土坑出土遺物
- 34 石器・石製品・土製品
- 35 鉄器・鉄製品・文字瓦
- 36 瓦(1)
- 37 瓦(2)
- 38 瓦(3)
- 39 瓦(4)
- 40 瓦(5)
- 41 瓦(6)

表

Tab. 1 元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

- 2 竪穴住居跡一覧表
- 3 溝跡計測表
- 4 土坑・ピット・井戸跡計測表
- 5 繩文時代出土土器観察表

- 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
- 7 石器観察表
- 8 石製品・土製品観察表
- 9 鉄器・鉄製品観察表
- 10 瓦観察表

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、6年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成17年7月15日付けで、前橋市長 高木政夫より前橋都市計画事業元總社蒼海上地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受けて、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 横岸雅に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成17年8月26日、調査依頼者である前橋市長 高木政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 横岸雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、9月9日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元總社蒼海遺跡群（4）」（遺跡コード：17A130-10）の「元總社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（4）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で区されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。總社・元總社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元總社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国總社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや人規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野四府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と統いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

绳文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼守中間地



Fig. 1 元絶社舊跡位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のうちに北に広がる總社古墳群が挙げられる。越社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の總社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廐守跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的な中心地としての様相を呈していく。律令制における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「國」・「邑尉」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元総社守田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された開泉橋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府城の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元総社小見内Ⅲ遺跡や元総社小見内Ⅳ遺跡から、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる面内鏡、巡方（腰帶具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守藤代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の繩張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの繩張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

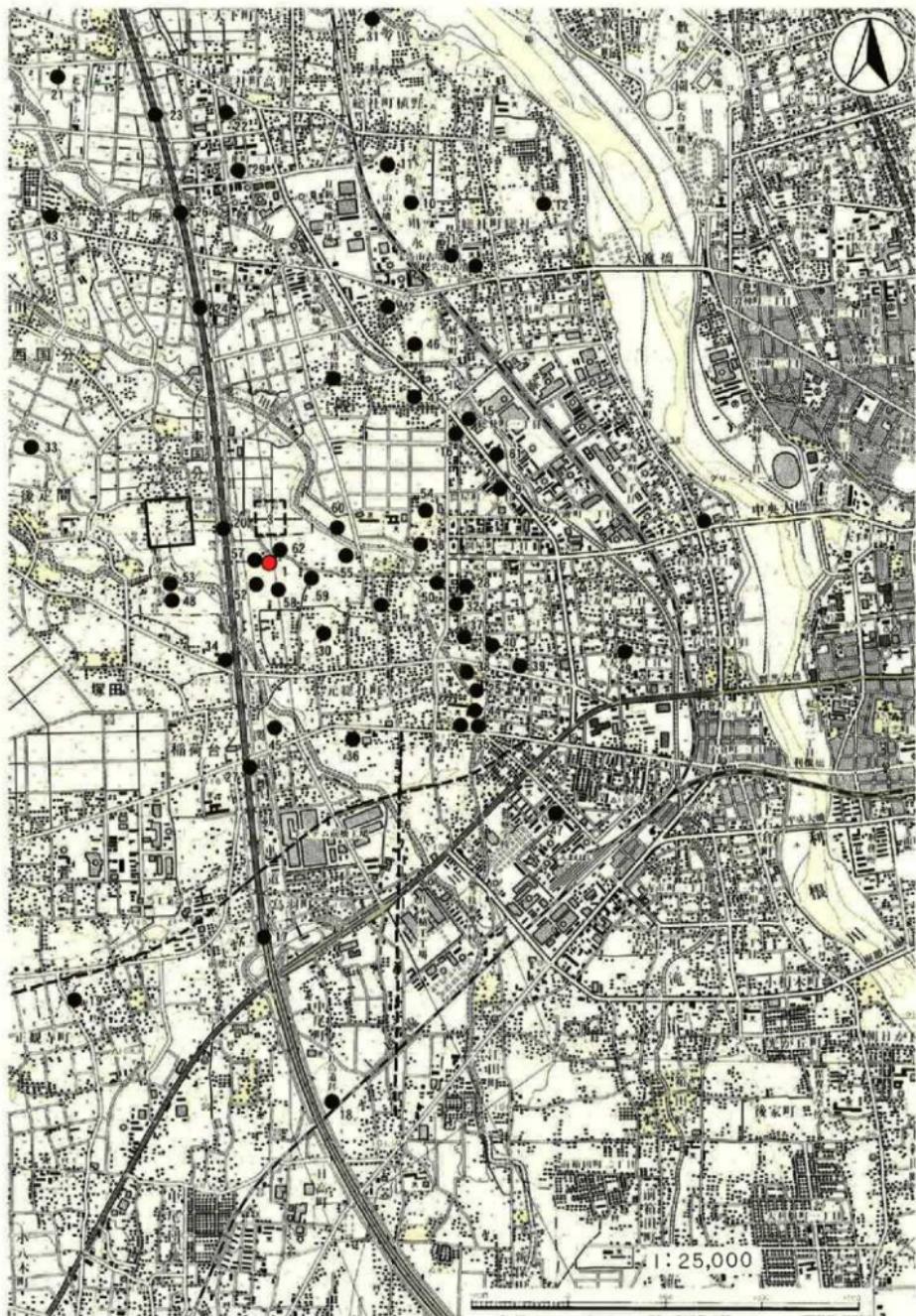


Fig. 2 周辺道路図

Tab. 1 元総社苔海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社苔海遺跡群（4）	2005	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分寺跡	（1999）	奈良：西面隅・東南隅基壇
4	山王麻寺跡	（1974）	山壇：塔心礎・根巻石
5	東山道（難定）		
6	日高道（難定）		
7	土山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6C中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（8C初）
9	稻荷山古墳	1988	古墳：円墳（6C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7C初）
11	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6C末～7C初）
12	遙見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7C末）
14	元總社小学校跡付近跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周縁跡
15	延業道路東遺跡	1966	編文：住居跡
16	延業道路西遺跡		編文：住居跡
17	中尾遺跡（事業用）	1976	奈良・平安：住居跡
18	H高遺跡（事業用）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具・平安：条里制水田跡
19	正觀寺遺跡 I～IV（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
20	上野国分僧寺跡・尼寺中間地城（事業用）	1980～83	編文：住居跡・亂石遺跡・弥生：住居跡・方形周溝墓・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・溝状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	編文：ビット・奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業用）	1980～84	編文：屋外堆肥・弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・廐列・中世：住居跡・溝跡
24	国分塙遺跡（事業用）	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	国分塙Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	国分塙田代跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・岳軒・中世：土塁塹
25	元総社明神跡 I～XⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形・中世：住居跡・溝跡・天日茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	編文：土坑・集石遺構・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥刺遺跡（事業用）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神籠石）
28	閑泉橋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～7m、下幅3.24m、深さ2m）
29	柿木遺跡・II遺跡	1983, 88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
	越前桜ヶ丘遺跡・II遺跡	1985, 87	奈良・平安：住居跡
32	閑良櫛南遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
33	後丸町遺跡 I～III（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
34	深田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	火神遺跡・山遺跡	1986, 88	奈良・平安：住居跡
37	星遺跡・II遺跡	1986, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：堀跡・石敷遺構
38	大友星遺跡・II遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堀越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堀越II遺跡	1988	平安：住居跡
41	呂秦寺跡向遺跡・II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：堀跡
43	焼野谷遺跡	1988	編文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
	熊野谷II・III遺跡	1989	平安：住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺物・出土遺物
44	元總社寺田遺跡I～III (事業団)	1988～91	古墳：木臼跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎半・墨書き器・中世：溝跡
45	弥勒遺跡・II遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡I～VI	1992～ 2000	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元總社福集遺跡	1993	縄文：上坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野四分寺參道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	總社開闢明神北II遺跡 總社開闢明神北II遺跡	1999 2001 2004	古墳：墓跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡 古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡 古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡
51	元總社宅地遺跡I～23トレー ンチ	2000	古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構・中世：溝跡・近世：住居跡・五輪塔・陶器
52	元總社小見遺跡	2000	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元總社西川遺跡(事業団)	2000	古墳：住居跡・昌跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
54	總社甲福荷塚大道西遺跡 總社甲福荷塚大道西II遺跡	2001 2001	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：昌跡・近世：溝跡 古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・近世：溝跡
55	元總社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：井戸跡
56	總社甲福荷塚大道西II遺跡 總社開闢明神北Ⅲ遺跡	2002 2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・昌跡・溝跡 縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	總社甲福荷塚大道内IV遺跡	2003	古墳：溝跡・中世：高跡
57	元總社小見II遺跡	2002	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡・道路状遺構
	元總社小見IV遺跡	2003	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社小見V遺跡	2003	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
	元總社小見VI遺跡	2004	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	元總社小見VII遺跡	2004	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
58	元總社小見III遺跡	2002	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・道路状遺構
	元總社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
59	元總社小見内IV遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：土壤基・掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見内Ⅲ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：窓穴状遺構
	元總社小見内IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社小見内X遺跡	2004	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土探鉢坑・金片・金粒・中世：溝跡・土壙基
60	元總社北川遺跡(事業団)	2002～04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・昌跡・中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	招荷塚道東遺跡(事業団)	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・電機葉材採掘痕・井戸跡
62	元總社小見内VII遺跡	2003	縄文：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：昌跡・溝跡

*調査年度の後の（ ）は調査開始年度を表す。
*遺跡名の後の（事業団）は岐阜県與呂郡文化財審査事業團を表す。

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は約448m²である。グリッド座標については、国家座標（日本測地系）X = +44.000・Y = -72.200を基点（X 0・Y 0）とする4mピッチのものを使用し、西から東へ X44、X45、X46…、北から南へ Y117、Y118、Y119…となり、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡の X49・Y124の公共座標は次のとおりである。

日本測地系 X = 143504.000 Y = -72004.000

世界測地系 X = +43858.908 Y = -72295.753

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易通り方測量を用い、遺構平面図は原則として 1/20、住居跡電・炉は 1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

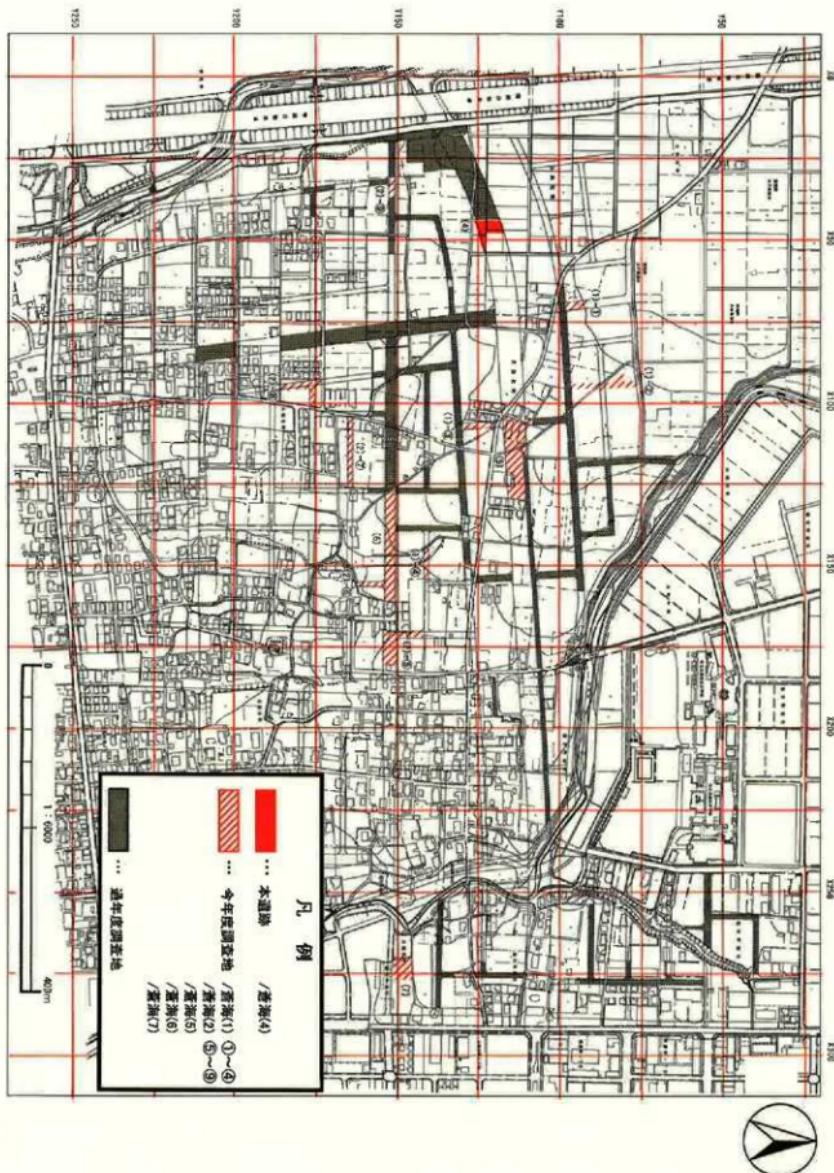
2 調査経過

本調査は 9月 9日より現地調査を開始した。調査地は畑作地であるため耕作土と遺構面の土とを分ける必要があった。したがって、まず、重機（バックフォー0.4m³）にて約20cm程現耕作上を掘削し一ヵ所に集めた。その後、更に約20cm程掘り下げ As-B 軽石混土層を取り除き、As-C-Hr-FP 軽石を含む黄褐色土の面において遺構確認調査を行った。9月14日には杭打ち測量を行い遺構の掘り下げ・精査開始に至った。

調査区は北西から南東方向に向かって次第に低くなるので、調査は北側より進めることとした。北側は奈良・平安時代の遺構がやや高い密度で検出され、遺構の新旧関係の判断に苦心した。南側は遺構の密度が少し低くなり、また、西部は遺構が浅くスムースに調査が進んだ。

11月 2日にハイライダー（23m）による調査区全景撮影を行い、11月 4日から二回目・遺構構築状況等の調査を行った。北側・南側で縄文時代の遺構が検出されたが、地山と遺構覆土との違いが分かりづらく遺構確認に時間を要した。また、瓦等を多量に使用している電も確認できた。そして、精査の結果、圓筒形穴住居跡 2軒、土師窯穴住居跡 2軒、竪穴状遺構 1軒、溝跡 6条、縄文土坑 2基、土坑 13基、ビット 11基、井戸跡 1基を検出した。11月 25日に調査を終了し、その後調査区の埋め戻しを行った。

12月 20日より文化財保護課庁舎に戻り、整理作業を開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納を行い、3月 3日にすべての作業を終了した。



IV 基本層序

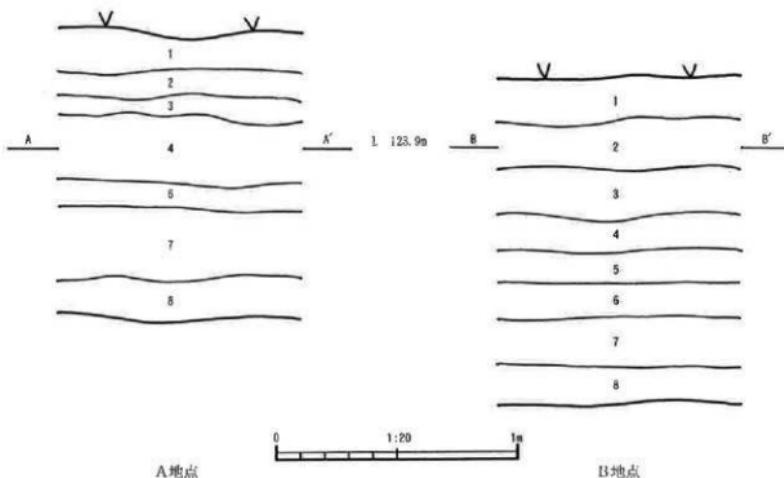


Fig. 4 基本層序

本遺跡地内のA地点、B地点の地層の堆積は、下記のとおりである。

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1 灰黃褐色細砂層 (10YR4/2) | 現耕作土 |
| 2 褐色細砂層 (7.5YR4/3) | 現代の水出跡 |
| 3 灰黃褐色粗砂層 (10YR4/2) | 縮まり○ 粘性△
As-B 混土層 |
| 4 にぶい黄褐色細砂層 (10YR4/3) | 縮まり○ 粘性○
As C・Hr FP20% |
| 5 黒褐色細砂層 (10YR3/2) | 縮まり○ 粘性○ (B地点に存在)
As-C10% |
| 6 暗褐色微砂層 (10YR3/3) | 縮まり○ 粘性◎
白色・赤色の軽石 1% (總社砂層) |
| 7 にぶい黄褐色微砂層 (10YR5/4) | 縮まり○ 粘性○
赤色の軽石 2% (總社砂層) |
| 8 明黄褐色微砂層 (2.5YR6/6) | 縮まり○ 粘性△
(總社砂層) |

V 遺構と遺物

1 積穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig. 6・24・34、PL. 1・9・14)

位置 X47・48、Y123・124グリッド 主軸方向 N-42°-E 形状等 四丸方形と推測される。東西(4.36)m、南北(2.60)m、壁現高58cmを測る。面積(5.95)m² 床面 ほぼ平坦な床面。北西隅に底部を除去した埋設土器有。炉 検出されず。重複 H-17、W-3、JD-2と重複しており、新旧関係は本遺構・JD-2、H-17、W-3の順である。出土遺物 繩文土器109点・石類9点。そのうち、深鉢8点、石錐1点、削器1点、打製石斧1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から縄文時代前期(諸磯c式)と考えられる。

J-2号住居跡 (Fig. 6・25・34、PL. 1・9・14)

位置 X45・46、Y124・125グリッド 主軸方向 N-22°-E 形状等 四丸方形と推定される。東西(4.56)m、南北(3.74)m、壁現高70cmを測る。面積(11.32)m² 床面 ほぼ平坦な床面。南側に底部を除去した埋設土器有。炉 南西部(F1)と中央やや南(F2)の2ヶ所より地床炉が検出された。F1は長軸36cm、短軸28cmの円形で深さ11cmを図り、F2は長軸40cm、短軸33cmの円形で深さ8.5cmを図る。重複 H-19、W-2・3・6と重複しており、新旧関係は本遺構→H-19、W-2・3・6の順である。出土遺物 繩文土器375点・石類20点。そのうち、深鉢14点、小壺1点、石錐1点、打製石斧1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から縄文時代前期(諸磯c式)と考えられる。

H-1号住居跡 (Fig. 7・26、PL. 2・10)

位置 X44、Y121・122グリッド 主軸方向 N-110°-E 形状等 方形と推測される。東西(3.14)m、南北(2.20)m、壁現高36cmを測る。面積(5.52)m² 床面 中央部をH-7に切られるが、残っている部分は平坦で堅緻な床面。竈 南壁セクションの東側部で褐色粘土ブロックが認められたが検出されず。重複 H-7・8、D-7・12と重複しており、新旧関係はH-8、D-12→本遺構→H-7→D-7の順である。出土遺物 繩文土器1点・土師器150点・須恵器114点・鉄類1点・灰釉陶器2点。そのうち、环3点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig. 8・26・36、PL. 2・10)

位置 X45・46、Y118・119グリッド 主軸方向 N-99°-E 形状等 長方形。東西3.28m、南北[4.16]m、壁現高54cmを測る。面積[12.20]m² 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-104°-E、全長113cm、最大幅76cm、焚口部幅34cmを測る。構築材として、粘土、両袖と燃焼部壁に瓦、支脚に川原石を使用している。また、掘り方部は瓦・遺物を混ぜた15~20cmの粘土を貼付している。重複 H-4、W-2、D-5と重複しており、新旧関係はW-2→本遺構→H-4→D-5の順である。出土遺物 繩文土器7点・土師器438点・須恵器322点・瓦29点・鉄類2点・灰釉陶器9点。そのうち、环3点・高台碗4点、羽釜1点、瓦5点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 7・26、PL. 3)

位置 X44・45、Y119・120グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 方形と推測される。東西(2.86)m、南北(4.28)m、壁現高61cmを測る。面積(10.38)m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-82°-E、全長120cm、最大幅100cm、焚口部幅54cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-5・9・14と重複しており、新旧関係はH-14→本遺構→H-5・9の順である。出土遺

物 繩文土器 2 点・土師器 80 点・須恵器 15 点・瓦 2 点。そのうち、坏 2 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 7 世紀代と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.9・27・34・35・37、PL.3・10・14)

位置 X45・46、Y118・119グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 長方形。東西 2.92m、南北 3.34m、壁現高 44cm を測る。面積 9.13m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向 N-104°-E、全長 92cm、最大幅 64cm、焚口部幅 34cm を測る。構築材として、粘土、両袖に川原石、燃焼部壁に瓦、天井部に凝灰岩を使用している。また、燃焼部掘り方には川原石を混ぜた 20cm 程の粘土を貼付している。重複 H-2、W-2、D-5 と重複しており、新旧関係は W-2 → II-2 → 木造構→ D-5 の順である。出土遺物 繩文土器 21 点・土師器 206 点・須恵器 156 点・瓦 10 点・石類 1 点・鉄類 3 点・灰釉陶器 6 点・綠釉陶器 1 点・土製品 1 点。そのうち、高台皿 1 点、坏 2 点、高台碗 2 点、臺 2 点、紡錘車 1 点、土製凹盤 1 点、飾り金具 1 点、釘 2 点、瓦 3 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から II-2 とそれほど時期差はない 10 世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.9・27・37、PL.4・10)

位置 X44、Y120・121グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推測される。東西 (0.53) m、南北 (3.74) m、壁現高 45cm を測る。面積 (1.55) m² 床面 平坦で堅緻な貼り床。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向 N-93°-E、全長 78cm、最大幅 69cm、焚口部幅 40cm を測る。構築材として、粘土、支脚に瓦を使用している。重複 H-3・14 と重複しており、新旧関係は H-14 → H-3 → 本造構の順である。出土遺物 土師器 28 点・瓦 1 点。そのうち、鉢 1 点、臺 1 点、瓦 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 8 世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.11、PL.4)

位置 X46・47、Y120・121グリッド 主軸方向 N-66°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.30) m、南北 (3.50) m、壁現高 53cm を測る。面積 (4.47) m² 床面 全体的に平坦で堅緻な床面。竈 検出されず。重複 H-11、D-9 と重複しており、新旧関係は木造構→H-11、D-9 の順である。出土遺物 繩文土器 10 点・土師器 44 点・須恵器 7 点・瓦 3 点 備考 時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下以降から 9 世紀中葉と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.7、PL.2)

位置 X44、Y122グリッド 主軸方向 N-117°-E 形状等 方形と推測される。東西 (1.60) m、南北 (1.29) m、壁現高 38cm を測る。面積 (1.41) m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-1・8、D-7 と重複しており、新旧関係は H-8 → II-1 → 木造構→ D-7 の順である。出土遺物 繩文土器 4 点・土師器 25 点・須恵器 25 点・瓦 4 点。 備考 山上遺物から H-1 とそれほど時期差はないと思われるが、埋土や重複関係から 9 世紀中葉から As-B 降下以前と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.10、PL.4)

位置 X44、Y121・122グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 方形と推測される。東西 (0.68) m、南北 (2.80) m、壁現高 54cm を測る。面積 (1.16) m² 床面 平坦な床面。竈 東壁より検出され、主軸方向 N-75°-E、全長 (86) cm、最大幅 (60) cm を測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-1・7、D-7 と重複しており、新旧関係は木造構→H-1・7→D-7 の順である。出土遺物 土師器 1 点・須恵器 1 点。備考 時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下以降から 9 世紀中葉と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.10・27・34、PL. 4・10・11・14)

位置 X44・45、Y120・121グリッド 主軸方向 N-107°-E 形状等 長方形。東西3.20m、南北4.50m、壁現高40cmを測る。面積 13.23m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-114° E、全長81cm、最大幅73cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 II-3・14と重複しており、新旧関係はH-14→H-3→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器23点・土師器470点・須恵器136点・瓦8点・石類5点・鉄類1点。そのうち、坏6点、白玉1点、紡錘車1点、磁石1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.11・28・34・35・37、PL. 5・11・14)

位置 X46・47、Y119・120グリッド 主軸方向 N-113°-E 形状等 長方形。東西(3.50)m、南北(4.60)m、壁現高43cmを測る。面積(14.00)m² 床面 全体的に平坦で堅緻な貼り床。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-109° E、全長(78)cm、最大幅136cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-13・15、D-9と重複しており、新旧関係はH-13→H-15→本遺構→D-9の順である。出土遺物 繩文土器20点・土師器430点・須恵器177点・瓦6点・石類1点・土製品2点・鉄類3点。そのうち、蓋2点、坏3点、鉢1点、甕1点、紡錘車1点、土鍋1点、刀子2点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.12・28・34・37・38・39、PL. 5・11)

位置 X46・47、Y120～122グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形。東西3.88m、南北4.34m、壁現高62cmを測る。面積 15.37m² 床面 平坦で堅緻な床面。西壁寄りに堅緻な高まり有り。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-90° Eであり、全長130cm、最大幅117cm、焚口部幅58cmを測る。構築材として、粘土、両袖および燃焼部壁に瓦を使用している。重複 H-6、W-2と重複しており、新旧関係はH-6・W-2→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器34点・土師器761点・須恵器257点・瓦55点・石類4点・灰釉陶器2点。そのうち、坏6点、高台椀2点、甕2点、白玉2点、土鍋1点、瓦9点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig.13・29・35・39、PL. 5・11・14)

位置 X50・51、Y123・124グリッド 主軸方向 N-102° E 形状等 長方形。東西2.66m、南北[3.72]m、壁現高62cmを測る。面積[9.14]m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-97° Eであり、全長110cm、最大幅65cm、焚口部幅44cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-16、W-4と重複しており、新旧関係はH-16→本遺構→W-4の順である。出土遺物 繩文土器54点・土師器581点・須恵器147点・瓦6点・石類2点・土製品1点・鉄類3点。そのうち、坏3点、高台椀1点、甕1点、釘3点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.14)

位置 X46・47、Y118・119グリッド 主軸方向 N-45°-W 形状等 方形と推定される。東西(4.30)m、南北(3.42)m、壁現高66cmを測る。面積(8.30)m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-10・15と重複しており、新旧関係は本遺構→H-15→H-10の順である。出土遺物 繩文土器4点・土師器29点・須恵器9点。備考 時期は埋土や重複関係から、上限はHr-FP降下以降、下限は8世紀と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.14、PL. 6)

位置 X44・45、Y120・121グリッド 主軸方向 N-72°-E 形状等 方形と推定される。東西(4.16)m、南北(4.24)m、壁現高58cmを測る。面積(11.06)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、

主軸方向N-70°-Eであり、全長89cm、最大幅87cm、焚口部幅32cmを測り、掘り方はほぼ方形。構築材として、粘土を使用している。重複 H-3・5・9と重複しており、新旧関係は本造構→H-3→H-5・9の順である。出土遺物 繩文土器27点・土師器308点・須恵器89点・瓦1点・鉄類1点。また、285gと410gの菰編み石2個。備考 時期は埋土や重複関係から、上限はHr-FP下限以降、下限は8世紀と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig.14・29、PL.11)

位置 X47、Y118-119グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.22)m、南北(3.66)m、壁現高53cmを測る。面積(2.25)m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-10-13と重複しており、新旧関係はII-13→本造構→II-10の順である。出土遺物 土師器1点・須恵器1点。また、225g～555gの菰編み石3個。そのうち、环1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から7世紀後半から8世紀前半と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig.15・29・34、PL.6・11・12・14)

位置 X49～51、Y123グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 方形と推定される。東西(4.72)m、南北(2.64)m、壁現高51cmを測る。面積(8.04)m² 床面 平坦で堅敏な床面。竈 検出されず。重複 II-12、W-4と重複しており、新旧関係は本造構→H-12→W-4の順である。出土遺物 繩文土器10点・土師器286点・須恵器31点・瓦2点・石類4点・鉄類1点・灰釉陶器1点。また、500g～930gの菰編み石11個。そのうち、环4点、小甕1点、小型甕1点、惣1点、甕2点、石製模造品2点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-17号住居跡 (Fig.15・34、PL.6・14)

位置 X47-48、Y123～125グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 方形と推定される。東西(4.91)m、南北(4.06)m、壁現高63cmを測る。面積(17.61)m² 床面 中央部をH-20に切られるが、残存部は平坦で堅敏な床面。竈 東壁より検出され、主軸方向N-79°-E、全長160cm、最大幅101cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 J-1、JD-2、H-20と重複しており、新旧関係はJ-1→JD-2→本造構→H-20の順である。出土遺物 繩文土器65点・土師器79点・須恵器18点・石類6点。また、455gと535gの菰編み石2個。そのうち、臼玉1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物、重複関係からII-20より古いがそれほど時期差ではなく、6世紀代と考えられる。

H-18号住居跡 (Fig.16・30・34、PL.6・12)

位置 X45-46、Y123-124グリッド 主軸方向 N-117°-E 形状等 長方形。東西(3.10)m、南北(4.28)m、壁現高24cmを測る。面積(11.25)m² 床面 平坦な床面で竈前は堅敏。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-113°-E、全長(91)cm、最大幅(84)cm、焚口部幅(53)cmを測る。構築材として、粘土、袖および支脚に川原石を使用している。重複 W-2、I-1、P-7と重複しており、新旧関係はW-2→本造構→I-1→P-7の順である。出土遺物 繩文土器68点・土師器173点・須恵器124点・瓦18点・石類6点・灰釉陶器3点。そのうち、环1点、大甕1点、瓶1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-19号住居跡 (Fig.17・30・31・32・34・35・39・40、PL.7・12・13・14・15・16)

位置 X45-46、Y124-125グリッド 主軸方向 N-119°-E 形状等 長方形。東西(3.30)m、南北(3.50)m、壁現高34cmを測る。面積(9.23)m² 床面 平坦な床面で竈前は堅敏。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-118°-E、全長108cm、最大幅96cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、粘土、両袖に瓦・凝灰岩・土器など、天井に瓦・凝灰岩、また煙道に瓦を使用している。重複 J-2、W-6、I-1と重複しており、

新山関係はJ-2→W-6→本遺構→I-1の順である。出土遺物 繩文土器83点・土師器309点・須恵器389点・瓦48点・石類3点・鉄類7点・灰釉陶器11点。また、7870gの平らな石、110g～600gの菰編み石7個。そのうち、かわらけ1点、壺3点、高台椀12点、小鉢1点、甕1点、羽釜2点、瓶1点、土製円盤1点、鉄錠1点、刀子1点、瓦5点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig.16・32、PL. 8・13)

位置 X47・48、Y124・125グリッド 主軸方向 N-126°W 形状等 方形と推定される。東西(2.74)m、南北(2.86)m、壁現高52cmを測る。面積(6.44)m² 床面 平坦な床面。竈 西壁より検出され、主軸方向N-129°-W、全長(104)cm、最大幅(62)cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-17と重複しており、新山関係はH-17→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器130点・土師器157点・須恵器36点・石類14点。そのうち、壺2点、高壺1点、長胴甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-21号住居跡 (Fig.18・32・34、PL.13・14)

位置 X44・45、Y124～126グリッド 主軸方向 N-71°E 形状等 方形と推定される。東西(3.78)m、南北(4.20)m、壁現高60cmを測る。面積(7.91)m² 床面 平坦な床面。竈 南壁より検出され、主軸方向N-178°-W、全長(72)cm、最大幅(54)cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 W-6、D-11と重複しており、新山関係は本遺構→D-11の順である。(W-6との重複については不明) 出土遺物 繩文土器109点・土師器54点・須恵器16点・瓦2点・石類4点。そのうち、壺2点、甕1点、白玉1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.18)

位置 X47・48、Y123グリッド 主軸方向 N-53°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.78)m、南北(1.38)m、壁現高66cmを測る。面積(0.94)m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 検出されず。重複 W-3と重複しており、新山関係は本遺構→W-3の順である。備考 時期は埴土や重複関係から、上限はHr FP降下以降、下限はAs-B降下以前と考えられる。

2 穴状遺構

T-1号穴状遺構 (Fig.19・33)

位置 X48・49、Y123・124グリッド 主軸方向 N-49°-E 形状等 長方形。東西2.30m、南北2.50m、壁現高59cmを測る。面積 4.56m² 床面 ほぼ平坦な床面。出土遺物 繩文土器13点・土師器45点・須恵器6点。そのうち、壺2点、甕2点を図示した。備考 時期差がある遺物がほぼ同じ所から出土している。時期は埋土からHr FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

3 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.19・33、PL. 8)

位置 X45～47、Y117・118グリッド 主軸方向 N-87°-W 形状等 V字形。長さ8.0m、深さ143cm、最大上幅(308)cm、最大下幅50cmを測る。重複 W-2と重複しており、新山関係はW-2→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器11点・土師器117点・須恵器46点・瓦16点・石類1点・鉄類1点・綠釉陶器1点。そのうち、綠釉陶器1点を図示した。備考 流水の痕跡無し。断面形はV字形であるが薺研掘りに近い。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.20、PL.8)

位置 X45~46、Y118~125グリッド 主軸方向 N-2°-W 形状等 U字形。長さ北側16.2m・南側9.2m、深さ34cm、最大上幅114cm、最大下幅65cmを測る。重複 J-2、II-2・4・11・18、W-1・3と重複しており、新旧関係はJ-2→本遺構→H-2・4・11・18、W-1・3の順である。出土遺物 繩文土器89点・土師器121点・須恵器51点・瓦6点。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下以降から9世紀と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.21・33・41、PL.8・13)

位置 X45~48、Y123~125グリッド 主軸方向 N-45°-E 形状等 U字形。長さ13.5m、深さ42cm、最大上幅114cm、最大下幅40cmを測る。重複 J-1・2、H-22、W-2・6と重複しており、新旧関係はJ-1・2、H-22、W-2・6→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器172点・土師器136点・須恵器178点・瓦94点・石類7点。そのうち、高台皿1点・高台楕1点・瓦8点を図示した。備考 流水の痕跡無し。床面近くから時期差のある壊れた遺物が多く検出されている。時期は埋土から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

W-4号溝跡 (Fig.21・33)

位置 X49~52、Y123グリッド 主軸方向 N-78°-W 形状等 U字形。長さ15.0m、深さ43cm、最大上幅85cm、最大下幅56cmを測る。重複 H-12・16、W-5と重複しており、新旧関係はH-12・16、W-5→本遺構の順である。出土遺物 繩文土器19点・土師器58点・須恵器15点・瓦3点・石類1点。そのうち、坏1点を図示した。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土から As-B 降下以降と考えられる。

W-5号溝跡 (Fig.21)

位置 X52、Y123グリッド 主軸方向 N-4°-W 形状等 U字形。長さ2.5m、深さ35cm、最大上幅106cm、最大下幅50cmを測る。重複 W-4と重複しており、新旧関係は本遺構→W-4の順である。出土遺物 繩文土器11点・土師器18点・須恵器10点・瓦1点。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土や重複関係から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

W-6号溝跡 (Fig.20)

位置 X45~46、Y125グリッド 主軸方向 N-80°-W 形状等 U字形。長さ4.4m、深さ18cm、最大上幅75cm、最大下幅45cmを測る。重複 H-19・21、W-3と重複しており、新旧関係は本遺構→W-3の順である。(H-21との重複については不明) 出土遺物 繩文土器10点・土師器3点・瓦1点。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土や重複関係から Hr FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

4 土坑・ピット・井戸跡 (Fig.22・23・24・33、PL.8・9・13)

土坑・ピット・井戸跡については、Tab.4 土坑・ピット・井戸跡計測表 (P17) を参照のこと。

なお、U-1の繩文深鉢1点、D-9の高台皿1点、D-11の坏1点・高台皿2点を図示した。

5 グリッド等出土遺物 (Fig.33・34・41、PL.14)

遺物は、繩文土器557点・土師器754点・須恵器321点・瓦69点・石類46点・鉄類5点・灰釉陶器7点を出土した。そのうち、坏1点・蓋1点・瓦1点・石匙1点を図示した。

Tab. 2 穴穴住居跡一覧表

遺構名	位 置	規模 (m)		壁面高 (東西) (南北)	面積 (m ²)	主軸方向	内 容		周 囲	主な出土遺物		
		東西	南北				位置	構築材		土器類	須恵器	その他
J-1	X47・48、Y123・124	(4.39)	(2.60)	58	(3.95)	N-42°-E	-	-	-	-	-	漆器・石器・削製石斧
J-2	X45・46、Y124・125	(4.56)	(3.74)	70	(11.32)	N-22°-E	南西・中央やや南	地枕灰	-	-	-	漆鉢・石器・削製石斧
H-1	X44、Y121・122	(3.14)	(2.20)	36	(5.92)	N-119°-E	-	-	-	坏	坏	-
H-2	X45・46、Y118・119	3.28	[4.16]	54	[12.20]	N-99°-E	東壁中央や南	粘土・瓦・川原石	○	-	坏	瓦台輪・羽扇
H-3	X44・45、Y119・120	(2.86)	(4.28)	61	(10.38)	N-81°-E	東壁中央やや南	粘土	-	坏	-	-
H-4	X45・46、Y118・119	2.92	3.34	44	9.13	N-100°-E	東壁中央やや南	粘土・瓦・砾灰岩	-	坏	瓦台輪・瓦	瓦
H-5	X44、Y120・121	(0.52)	(2.74)	45	(1.55)	N-87°-E	東壁中央やや南	粘土	-	坏	-	瓦
H-6	X46・47、Y120・121	(2.30)	(3.50)	53	(4.47)	N-66°-E	-	-	-	-	-	-
H-7	X44、Y120	(1.60)	(1.29)	38	(1.41)	N-117°-E	-	-	-	-	-	-
H-8	X44、Y121・122	(0.69)	(2.80)	54	(1.16)	N-76°-E	東壁	粘土	-	-	-	-
H-9	X44・45、Y120・121	3.26	4.50	40	13.23	N-107°-E	東壁中央や南	粘土	-	坏	坏	臼玉・柄鋸車
H-10	X46・47、Y119・120	(3.50)	(4.60)	43	(14.00)	N-115°-E	東壁中央やや南	粘土	○	坏	瓦	瓦台輪・刀子
H-11	X46・47、Y120・122	3.88	4.34	62	15.37	N-91°-E	東壁中央や南	粘土・瓦	-	坏	坏	白瓦・瓦
H-12	X59・61、Y123・124	2.06	[3.72]	62	(9.14)	N-102°-E	東壁中央やや南	粘土	-	坏	坏	瓦台輪・瓦
H-13	X46・47、Y118・119	(4.30)	(3.42)	66	(6.30)	N-45°-E	-	-	-	-	-	-
H-14	X44・45、Y120・121	(4.16)	(4.24)	56	(11.06)	N-72°-E	東壁中央やや南	粘土	-	-	-	-
H-15	X47、Y118・119	(1.22)	(3.66)	53	(2.23)	N-74°-E	-	-	-	坏	坏	-
H-16	X49・51、Y123	(4.72)	(2.64)	51	(8.04)	N-75°-E	-	-	○	坏	坏	小舟
H-17	X47・48、Y123・125	(4.91)	(4.06)	63	(17.81)	N-75°-E	東壁	粘土	-	-	-	臼玉
H-18	X45・46、Y123・124	(3.10)	(4.28)	24	(11.25)	N-117°-E	東壁中央や南	粘土・石	-	坏	大壺	砾石
H-19	X45・46、Y124・125	3.39	(5.50)	34	(9.23)	N-119°-E	東壁中央や南	粘土・瓦・砾灰岩	○	坏	瓦台輪・羽扇	瓦
H-20	X47・48、Y124・125	(2.70)	(2.86)	52	(6.44)	N-126°-W	西壁	粘土	-	坏	坏	-
H-21	X44・45、Y124・125	(3.79)	(4.20)	60	(7.91)	N-71°-E	南壁	粘土	-	坏	-	臼玉
H-22	X47・48、Y123	(1.78)	(1.38)	66	(0.94)	N-53°-E	-	-	-	-	-	-
T-1	X48・49、Y123・124	2.36	2.60	59	4.56	N-69°-E	-	-	-	坏	坏	-

Tab. 3 溝跡計測表

遺構名	位 置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方位	断面形	備 考 (時期)
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X45~47 Y117~118	8.0	143	134	(308)	-	50	28	N-87°-W	V字形	中世以降
W-2	X45・46 Y118~125	16.2 (北側) 9.2 (南側) 25.4 (合計)	34	18	114	90	65	30	N-2°-W	U字形	古 代
W-3	X45~48 Y123~125	13.5	42	29	114	34	40	8	N-45°-E	U字形	古 代
W-4	X49~52 Y123	15.0	43	28	85	50	56	24	N-78°-W	U字形	中世以降
W-5	X52 Y123	2.5	35	13	106	93	50	42	N-4°-W	U字形	古 代
W-6	X45・46 Y125	4.4	18	13	75	70	45	30	N-80°-W	U字形	古 代

Tab.4 土坑・ピット・井戸跡計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形 状	備考(出土遺物)
U-1	X45、Y120	36	35	22	円形	繩59・石1
JD-2	X48、Y123・124	224	114	93	楕円形	繩24・須1・石2
D-1	X44、Y120	81	50	26	楕円形	
D-2	X46、Y119	98	82	60	楕円形	土6・須19・瓦1
D-3	X46、Y120・121	84	83	21	円形	上21・須8・瓦1・石1
D-4	X45、Y119	109	80	15.5	楕円形	
D-5	X45、Y119	110	99	24.5	楕円形	
D-6	X44・45、Y118	100	(42)	39	(半円)	繩1・土1・須4
D-7	X44、Y122	90	(36)	47	(半円)	
D-8	X45、Y122	112	100	73	円形	土4・須5・灰3
D-9	X47、Y120	131	63	19	楕円形	土10・須7
D-10	X46、Y123	135	100	24.5	楕円形	繩4・土6・須5・石5
D-11	X44、Y125	125	104	40	楕円形	須2・灰1
D-12	X44、Y121・122	(90)	90	22	(楕円形)	土4・須5
D-13	X44、Y118・119	145	103	45	楕円形	繩1・土16・須8
P-1	X44、Y119・120	38	32	25	楕円形	
P-2	X45、Y119	48	38	22	楕円形	
P-3	X45、Y119	50	32	34.5	楕円形	
P-4	X44、Y120	48	43	30	円形	
P-5	X46・47、Y120	60	35	18	楕円形	土12・須3
P-6	X45、Y118	43	37	62.5	円形	
P-7	X46、Y124	40	30	43.5	楕円形	
P-8	X45、Y122	56	47	37.5	楕円形	繩1・土2・須1
P-9	X45、Y121	42	40	42.5	円形	土2
P-10	X44、Y121	47	40	39.5	円形	
P-11	X44、Y121	37	31	29.5	円形	
I-1	X45・46、Y124	200	175	—	円形	繩18・土33・須34・瓦5・灰3

※繩…縄文土器、土…土師器、須…須恵器、灰…灰陶器、石…石類(黒曜石を含む)

Tab. 5 銅文時代出土上器觀察表

番号	銅器種 属位	器種	①口徑 ②高さ	③底上部 底成 ④底存底	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	J-1 深鉢 床底	①[29.7] ②(15.9)	①縦肋②良好 ③によい青緑色④破片	底部を除去。口唇部：内面に幅1.4cmの粘土筋を貼付し、口唇部と の間に2個一対の透し孔を10单位設置。透かし孔中央に刺日の 入った耳たぶ状粘土を貼付。内面に斜位。口唇部に矢羽根状の集 合沈線を施文し、棒状・ボタン状粘土を貼付。口縫から瓶部にかけて 横位の集合沈線が施文され、崩紋文様帶とを西す。脚部： 4単位の文様構成。矢羽根状粘土と、底位の集合沈線で区画し、同 に木葉状の集合沈線を充填。地文には、RI.斜綱文が施文される。	埋設土器	諸職C	
2	J-1 深鉢 床底	①- ②-	①縦肋②良好 ③褐色④破片	半截竹管による横位・縱位・斜位の平行沈線を施文。	38	諸職C	
3	J-1 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③によい褐色④破片	半截竹管による斜位・横位の平行沈線を施文。	20	諸職C	
4	J-1 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③褐色④破片	半截竹管による斜位・格子目状の平行沈線を施文。	諸職C		
5	J-1 深鉢 埋土	①- ②-	①中肋②良好 ③黄褐色④破片	半截竹管による横位・縱位・斜位の平行沈線を施文後、ボタン状 粘土を貼付。	諸職C		
6	J-1 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③褐色④破片	半截竹管による横位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。	43	諸職C	
7	J-1 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③褐色④破片	帶部を付した後に半截竹管による横位の平行沈線を施文後、ボタ ン状粘土を貼付。	諸職C		
8	J-1 深鉢 埋土	①- ②-	①中肋②良好③によい黄 褐色④破片	半截竹管による横位の平行沈線を施文後、棒状・ボタン状粘土を 貼付。	諸職C		
9	J-2 深鉢 床底	①(28.5) ②(20.3)	①縦肋②良好 ③によい黄褐色④1/2	底部を除去。口縫部：内面に幅1.6cmの軸十筋を貼付。内面と口唇 部上部に半截竹管による斜位の平行沈線。その下部に横位の平行 沈線を施文後、口唇部に耳たぶ状・ボタン状粘土を貼付。脚部： 4単位の文様構成。矢羽根状粘土と縦位の集合沈線で区画し、同 に木葉状の集合沈線を充填。ただし、支脚割付の失敗により、歯 位区画は3単位構成となっている。	埋設土器	諸職C	
10	J-2 小鉢 床底	① 3.2 ② 3.8	①縦肋②良好 ③によい黄褐色④完形	有孔小鉢。口唇部直径3mmの孔が8箇所。その下部に円形の粘土を 6ヶ所に貼付。ただし、うち一つは欠損。円形粘土には中央に斜 みが入る。	94	諸職C ミニチュア	
11	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好③によい黄 褐色④リム破片	口唇部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位の平行沈線を 施文後、ボタン状粘土を貼付。	諸職C		
12	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③褐色④口縫破片	口唇部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位の平行沈線を 施文後、ボタン状粘土を貼付。	諸職C		
13	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③褐色④口縫破片	口唇部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位・斜位の平行沈 線を施文後、ボタン状粘土を貼付。造形に斜孔有。	4	諸職C	
14	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好③によい黄 褐色④山縫破片	山縫部上部に半截竹管による斜位の平行沈線、その下部に横位の 平行沈線を施文後、耳たぶ状・ボタン状粘土を貼付。	諸職C		
15	J-2 深鉢 床底	①- ②-	①縦肋②良好③によい黄 褐色④口縫破片	口縫部上部・半截竹管による集合沈線、その下部に横位の 平行沈線を施文。	123	諸職C	
16	J-2 深鉢 床底	①- ②-	①縦肋②良好 ③褐色④口縫破片	口縫部上部に半截竹管による横位の平行沈線を施文後、棒状・ボ タン状・耳たぶ状粘土を貼付。その下部に斜位の平行沈線を施文。 内面良く研磨。	110	諸職C	
17	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③明黄褐色④口縫破片	口縫部内面に幅1.2cmの粘土筋を貼付し、口唇部との間に透かし孔 を設置。口唇部内・外間に半截竹管による矢羽根状の集合沈線を 施文後、棒状・ボタン状粘土を貼付。棒状粘土と平行沈線を施文。 その下部に横位の集合沈線を施文し、間に斜目文が入る。	諸職C		
18	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①中肋②良好 ③灰黃褐色④山縫破片	口唇部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位・斜位の平行沈 線を施文後。ボタン状・耳たぶ状粘土を貼付。	83	諸職C	
19	J-2 深鉢 床底	①- ②-	①中肋②良好 ③灰黃褐色④口縫破片	口縫部に2段の凸凹文。その間に半截竹管による横位の平行沈 線を施文。その下部に半截竹管による横位・縱位・斜位の平行沈 線を施文。	8	諸職C	
20	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③灰褐色④被片	突起部か。内面・外間に半截竹管による横位・斜位の平行沈 線を施文。	諸職C		
21	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③によい黄褐色④被片	地文にL字彫。半截竹管による横位・纵状の平行沈線を施文。	諸職C		
22	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③によい黄褐色④被片	半截竹管による斜位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。	諸職C		
23	J-2 深鉢 埋土	①- ②-	①縦肋②良好 ③によい黄褐色④被片	半截竹管による斜位の平行沈線を施文後、ボタン状・耳たぶ状 粘土を貼付。	諸職C		
24	U-1 深鉢	①[25.5] ②34.1	①縦肋②良好 ③褐色④1/2	底部を除去。表裏問手が対に付く。口縫部：無文帶。底部により 斜部文様部とを向す。脚部：全脚が逆立字彫の沈線で区画され、 間に斜目文の沈線が入る。内面にはRI.斜綱文を充填。	加曾利K4		

注) 属位は、「床底」：床より10cm以上の層位からの検出。理土：床より10cm以上の層位からの検出の2枚目に分けた。

①目：測定の値位はcmである。底存底を「」、復元值を「」としてある。

②高さ：埋土（0.9m以下）、中段（1.0～1.5m以下）、高段（2.0m以上）とし、特徴的な物語がある場合に物語名等を記載した。

③底成：横良・良好・不良の二段階とした。

④底存底：土器外表面で剥落し、色名は新井鶴雄土色名（小川・竹原1976）によった。

Tab. 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	遺跡分類	器種	①口絆 ②腹高	③底面 ④色彩⑤存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	H-1 床直 土器部	壺	①(12.8) ②2.9	①縦輪②良好 ③灰白色①/5	口縁・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：平底、内面磨で、外面削り。	55	
2	H-1 床直 土器部	壺	①(11.8) ②4.0	①縦輪②良好 ③灰白色①/3	輪縫整形。口縁・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：径5.6cmの平底、内面磨で、外面削り系切り。	53ほか	
3	H-1 床直 土器部	壺	①(14.0) ②3.3	①縦輪②良好 ③灰白色①/3	輪縫整形。口縁・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：径8.9cmの平底、内面磨で、外面削り系切り。	59ほか	
4	H-2 壺 電内 土器部	壺	①(12.0) ④4.2	①縦輪②良好 ③にい黄褐色①/2	輪縫整形。口縁・体部：外縁・内縫端部や肥厚、内・外面磨で。底部：径5.6cmの平底、内面磨で、外面削り系切り。	180ほか	
5	H-2 壺 床直 土器部	壺	①(12.1) ②4.3	①縦輪②良好 ③灰褐色①/2	輪縫整形。口縁・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：径5.7cmの平底、内面磨で、外面削り系切り。	260ほか	
6	H-2 壺 埋土 土器部	壺	①(14.9) ④4.7	①縦輪②良好 ③にい黄褐色④破片	輪縫整形。口縁・体部：縁やかに外縁・内・外面磨で。体部外縁に2本の沈れがある状状況。底部：欠損。	46	体部外面文様
7	H-2 高台鏡 床直 土器部	壺	①(13.5) ⑤5.0	①中縫②良好 ③にい黄褐色④完形	輪縫整形。口縁・体部：外縁から口縫端部やや外反・やや肥厚、内・外面磨で。底部：内面磨で、回転系切り後付け高台。	233	酸化焰焼成
8	H-2 高台鏡 床直 土器部	壺	①(13.2) ②4.8	①縦輪②良好 ③にい黄褐色①/2	輪縫整形。口縁・体部：外縁から口縫端部やや外反、内・外面磨で。底部：内面磨で、回転系切り後付け高台。	274	酸化焰焼成
9	H-2 高台鏡 電内 土器部	壺	①(12.8) ③5.2	①中縫②良好 ③灰黄色①/4	輪縫整形。口縁・体部：外縁から口縫端部やや外反、内・外面磨で。底部：内面磨で、回転系切り後付け高台。	221	酸化焰焼成
10	H-2 高台鏡 床直 火 土器部	壺	①(13.8) ④4.0	①中縫②良好 ③灰白色①/2	輪縫整形。口縁・体部：大きめ外縁・体部端部近く外反、内・外面磨で。高台部：三日月高台。釉薬は墨毛道り。	74	
11	H-2 羽 箭 電内 土器部	壺	①(19.1) ④24.8	①縦輪②良好 ③にい黄褐色①/2	輪縫整形。口縁・体部：外縁に付く。制部：内・外面磨で、外下面に斜め窪削り。底部：径5.2cmの平底。	214ほか	酸化焰焼成
12	H-3 床直 土器部	壺	①(16.3) ②3.0	①縦輪②良好 ③横白④破片	口縫整形：大きめ外縁、内・外面磨で。底部：浅い丸底気味、内面黒で、外面削り。	H-14-2	
13	H-3 床直 土器部	壺	①(16.2) ②3.2	①中縫②良好 ③横白④破片	口縫整形：外縁、内・外面磨で。底部：浅い丸底気味、内面黒で、外面削り。	22	
14	H-4 高台鏡 床直 火 土	壺	①(12.8) ②2.8	①縦輪②良好 ③灰白色④ほぼ完形	輪縫整形。口縁・体部：大きめ外縁、内・外面磨で。高台部：三日月高台。釉薬は滑らか。	62	
15	H-4 壺 電内 土器部	壺	①(13.0) ②4.5	①中縫②良好 ③にい黄褐色①/3	輪縫整形。口縁・体部：外縁から口縫端部やや外反気味、内・外面磨で。底部：径6.7cmの平底、内面磨で、外面削り系切り。	59	
16	H-4 壺 埋土 土器部	壺	①(13.6) ③3.6	①中縫②良好 ③灰褐色④破片	輪縫整形。口縁・体部：外縁から口縫端部やや外反気味、内・外面磨で。底部：欠損。	3	体部内外面磨削
17	H-4 高台鏡 電内 土器部	壺	①(11.8) ④4.5	①中縫②良好 ③横色④1/2	輪縫整形。口縁・体部：外縁から口縫端部やや外反、内・外面磨で。底部：内面磨で、回転系切り後付け高台。	H-2-115	酸化焰焼成
18	H-4 高台鏡 埋土 土器部	壺	①(12.6) ③4.7	①中縫②良好 ③オリーブ黒色①/3	輪縫整形。口縁・体部：外縁から口縫端部やや外反、内・外面磨で。底部：内面磨で、回転系切り後付け高台。	23	酸化焰焼成、漆付着
19	H-4 壺 床直 土器部	壺	①(19.7) ②25.6	①中縫②良好 ③橙色④ほど完形	口縫整形：外縁・内・外面横擦で。調部：やや膨らみ上位が最大拡大。底部：径4.7cmの平底。	35ほか	
20	H-5 鉢 電内 土器部	鉢	①(22.9) ④8.0	①縦輪②良好 ③橙色④破片	口縫部：大きく外反、内・外面横擦で。底部上位：内面磨で、外カマドは		
21	H-5 堀内 土器部	鉢	①(20.5) ④(19.7)	①中縫②良好 ③橙色④2/3	口縫部：縁やかに外縁、内・外面横擦で。調部：上位がやや膨らみ上位とほぼ同径。内面磨で、外面斜め窪削り。底部：欠損。	カマド	
22	H-9 壺 床直 土器部	壺	①(11.8) ③3.2	①縦輪②良好 ③明赤褐色④2/3	口縫整形：外縁・内・外面横擦で。底部：平底、内面磨で、外面削り。	105	
23	H-9 壺 床直 土器部	壺	①(12.0) ③3.6	①縦輪②良好 ③灰褐色①/3	口縫・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：平底、内面磨で、外面削り。	32	
24	H-9 壺 床直 土器部	壺	①(11.2) ③3.8	①縦輪②良好 ③明赤褐色④3/4	口縫・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：平底、内面磨で、外面削り。	51ほか	
25	H-9 壺 床直 土器部	壺	①(14.9) ④4.7	①縦輪②良好 ③にい黄褐色④1/3	輪縫整形。口縁・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：径7.6cmの平底、内面磨で、外面削り系切り。	152ほか	
26	H-9 壺 床直 土器部	壺	①(10.4) ③3.2	①縦輪②良好 ③灰褐色①/3	輪縫整形。口縁・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：径7.1cmの平底、内面磨で、外西面削り系切り。	35ほか	
27	H-9 壺 貯糞穴 土器部	壺	①(13.5) ③3.6	①縦輪②良好 ③灰褐色②/3	輪縫整形。口縁・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：径7.0cmの平底、内面磨で、外面削り系切り。	P5	体部外面整備
28	H-10 壺 床直 土器部	壺	①(17.0) ③2.5	①中縫②良好 ③灰褐色④ほど完形	輪縫整形。天井部：水平から縁やかに傾斜、内・外面磨で、返り無。描み：無。	142	
29	H-10 壺 床直 土器部	壺	①(16.0) ③3.2	①中縫②良好 ③灰褐色④ほど完形	輪縫整形。大井部：水平から縁やかに傾斜、内・外面磨で、返り無。描み：無。	195	
30	H-10 壺 床直 土器部	壺	①(12.2) ③3.7	①縦輪②良好 ③橙色④4/5	口縁・体部：外縁・内・外面横擦で。底部：平底、内面磨で、外面削り。	186	

番号	測量番号 測定位置	基準	①口径 ②深さ	④船底⑤底成 ⑥色調⑦調査度	表面の特徴・様形・測量技術	登録番号	備考
31	H-10 床直 土壌器	① [10.6] ② 3.6	③船底④良好 ⑤褐色⑥1/4	口縁・体部：直立気味、内・外面横擦で。底部：平底、内面擦で、外面観割り。	120		
32	H-10 床直 須波器	① [13.8] ② 3.6	③船底④良好 ⑤褐色⑥2/3	輪轂形。口縁・体部：外縁、内・外面横擦で。底部：幅7.6cmの平底、内面擦で、外面上部斜削り。	135ほか		
33	H-10 木直 須波器	① 22.6 ② 11.5	③中粒④良好 ⑤褐色⑥はげ光沢	輪轂形。口縁部：内縁、内・外面横擦で。底部：深い丸底、内面擦で、外面上部斜削り。	194ほか		
34	H-10 床直 土壌器	① [21.6] ② (8.1)	③船底④良好 ⑤褐色⑥片断	口縁部：直立から外縁、内・外面横擦で。洞部上位：やや膨らみ内面擦で、外面上部斜削り。底部：欠損。	187ほか		
35	II-11 坪 埋土 土壌器	① [11.9] ② 3.5	③中粒④良好 ⑤褐色⑥1/2	口縁・体部：外縁、内・外面横擦で。底部：半底、内面擦で、外面上部斜削り。	135ほか		
36	II-11 坪 埋土 土壌器	① - ② -	③中粒④良好 ⑤褐色⑥4片	底部内面擦有。	104ほか	底部内面墨	
37	H-11 塗上 須波器	① [14.6] ② 3.7	③船底④良好 ⑤灰白色⑥1/2	輪轂形。口縁・体部：外縁、内・外面横擦で。底部：幅7.1cmの平底、内面擦で、外面上部斜削り。	173ほか		
38	H-11 坪 埋土 須波器	① [12.8] ② (3.8)	③中粒④良好 ⑤灰白色⑥1/3	輪轂形。口縁・体部：外縁、内・外面横擦で。底部：幅8.9cmの平底、内面擦で、外面上部斜削り。	1011		
39	H-11 坪 床直 須波器	① [13.8] ② 3.4	③船底④良好 ⑤灰白色⑥1/3	輪轂形。口縁・体部：外縁、内・外面横擦で。底部：幅8.2cmの平底、内面擦で、外面上部斜削り。内面赤色物付着。	230	内面赤色物付着	
40	H-11 床下 須波器	① - ② (1.3)	③船底④良好 ⑤灰白色⑥施部破片	輪轂形。口縁・体部：欠損；底部：幅7.8cmの平底、内面擦で、外面上部斜削り。内面赤色物付着。	63ほか	内面赤色物付着	
41	II-11 高台傾 理土 須波器	① [14.2] ② 5.2	③船底④良好 ⑤灰白色⑥2/3	輪轂形。口縁・体部：外縁、内・外面横擦で。底部：内面擦で、西脇斜切り後付け合板。	63ほか		
42	II-11 高台傾 理土 次植	① [15.2] ② 4.1	③船底④良好 ⑤オーライグリーン⑥1/2	輪轂形。口縁・体部：大きなく外縁、U字縫端部斜削りえ、内・外面横擦で。高台部：角丸台。	30		
43	H-11 床直 土壌器	① [20.0] ② (10.0)	③船底④良好 ⑤灰白色⑥1/3	口縁部：直立から外縁、内・外面横擦で。洞部上位：やや膨らみ内面擦で、外面上部斜削り。底部：欠損。	180ほか		
44	H-11 坪 埋土 土壌器	① [19.1] ② (8.4)	③船底④良好 ⑤灰白色⑥破片	口縁部：直立氣味から外縁、内・外面横擦で。洞部上位：やや膨らみ内面擦で、外面上部斜削り。底部：欠損。	60ほか		
45	H-12 坪 床直 土壌器	① [10.8] ② 3.7	③船底④良好 ⑤褐色⑥1/2	口縁・体部：直立氣味、内・外面横擦で。底部：平底、内面擦で、外面上部斜削り。	125ほか		
46	H-12 坪 床直 土壌器	① [12.6] ② 3.6	③船底④良好 ⑤にぼい橙色⑥1/3	口縁・体部：外縁、内・外面横擦で。底部：平底、内面擦で、外面上部斜削り。	131		
47	H-12 坪 床直 土壌器	① [13.0] ② 3.4	③船底④良好 ⑤灰白色⑥1/2	輪轂形。口縁・体部：外縁、内・外面横擦で。底部：幅7.2cmの平底、内面擦で、外面上部斜削り後観察。	3ほか		
48	H-12 高台傾 理土 須波器	① - ② (3.4)	③船底④良好 ⑤灰白色⑥底部	輪轂形。口縁・体部：欠損；底部：内面擦で、ト軸斜切り後付け高台。	7		
49	II-12 塗内 十脚器	① [32.2] ② (18.0)	③にぼい褐色④1/5	U字縫部：緩やかに外縁、内・外面横擦で。洞部：中位がやや膨らみ口縫とはほに間接、内面擦で、外面上部斜削り。底部：欠損。	カマド		
50	II-15 坪 床直 土壌器	① [11.6] ② 3.4	③船底④良好 ⑤褐色⑥1/2	口縁部：外縁、内・外面横擦で。底部：浅い丸底氣味、内面擦で、外面上部斜削り。	H-13-1		
51	H-15 床直 須波器	① [28.2] ② (4.3)	③船底④良好 ⑤褐色⑥破片	輪轂形。天井部：緩やかに斜傾から底部垂下、内・外面横擦で、底割り無し、摘み：欠損。	1		
52	H-16 坪 床直 土壌器	① 11.6 ② 4.6	③船底④良好 ⑤褐色⑥光沢	口縫部：直立氣味、内・外面横擦で。交換点に軟石。底部：丸底、内面擦で、外面上部斜削り。	133		
53	H-16 坪 床直 土壌器	① 12.6 ② 4.0	③船底④良好 ⑤にぼい橙色⑥ほぼ完形	口縫部：やや外縁、内・外面横擦で。交換点に軟石。底部：浅い丸底、内面擦で、外面上部斜削り。	134		
54	H-16 坪 床直 土壌器	① 11.8 ② 4.1	③船底④良好 ⑤褐色⑥4/5	口縫部：やや外縁、内・外面横擦で。交換点に軟石。底部：浅い丸底、内面擦で、外面上部斜削り。	130		
55	H-16 坪 床直 土壌器	① [10.8] ② (4.4)	③船底④良好 ⑤褐色⑥1/3	U字縫部：やや外縁、内・外面横擦で。交換点に軟石。底部：丸底、内面擦で、外面上部斜削り。	118		
56	II-16 小等 埋土 土壌器	① [9.8] ② (7.5)	③船底④良好 ⑤褐色⑥1/3	輪轂形。口縁部：直立・内・外面横擦で。体部：内面擦で、外面上部斜削り、下位斜削り。底部：欠損。	36ほか		
57	H-16 小型器 床直 土壌器	① 12.8 ② 9.6	③中粒④ほぼ完形	口縫部：短く直立、内・外面横擦で。洞部：内面擦で、外面上部斜削り。底部：平底。	135		
58	H-16 床直 土壌器	① 12.3 ② 12.9	③船底④良好 ⑤褐色⑥ほぼ完形	口縫部：短く直立、内・外面横擦で。洞部：内面擦で、外面上部斜削り。底部：丸底氣味、発成後2.5cmの空孔。	131	夢の軒用	
59	H-16 床直 土壌器	① 16.0 ② (20.0)	③中粒④良好 ⑤にぼい黄橙色⑥1/2	口縫部：短く外縁、内・外面横擦で。洞部：中位がやや膨らみ口縫とはほに間接、内面擦で、外面上部斜削り、下位窓き。底部：欠損。	100ほか		
60	II-16 東 床直 土壌器	① [18.8] ② (10.0)	③にぼい黄橙色⑥1/6	U字縫部：器皿大径、大きく外縁、内・外面横擦で。洞部：内面擦で、外面上部斜削り。底部：欠損。	120		

番号	造形部位	器種	①口径 ②底面	①胎土②焼成 ③断面存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
61	H-18 竈内	坏 須恵器	①(12.4) ②4.1	①輪郭②良好 ③よい黄褐色④1/2	輪廓整形。口縁・体部：外傾、内・外面糊で。底部：径6.0cmの平底、内面糊で、外周回転糸切り。	カマド か	
62	H-18 竈内	大 須恵器	①(1) ②(13.3)	①中板②良好 ③灰褐色④底付	輪廓整形。口縁・体部：欠損。底部：内・外面糊で。胴部・武部：欠損。	カマドほ か	
63	H-19 床底	かわらけ 須恵器	①(1) ②(1.5)	①中板②良好 ③灰白色④底部	輪廓整形。口縁・体部：欠損。底部：内・外面糊で、外周回転糸切り。	12	標準用か
64	H-19 床底	坏 須恵器	①(11.9) ②3.7	①中板②良好 ③オリーブ色④完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾。口縁端部や肥厚、内・外面糊で。底部：径6.1cmの平底、内面糊で、外周回転糸切り。	178	いぶし焼成
65	H-19 床底	坏 須恵器	①(12.1) ②3.9	①中板②良好 ③真褐色④ほぼ完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾、内・外面糊で。底部：径5.9cmの平底、内面糊で、外周回転糸切り。	84	
66	H-19 貯蔵火 須恵器	坏 須恵器	①(16.2) ②6.7	①相模②良好 ③灰白色④4/5	輪廓整形。口縁・体部：外傾し深い体部、内・外面糊で。底部：径7.0cmの平底、内面糊で、外周回転糸切り。	260ほか	
67	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(12.9) ②5.4	①相模②良好 ③よい褐色④完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾。底部：内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	230	
68	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(15.2) ②7.2	①輪郭②良好 ③灰褐色④完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾し深い体部、内・外面糊で。底部：内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	249ほか	
69	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(13.4) ②4.8	①中板②良好 ③灰褐色④完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反・やや肥厚、内・外周回転糸切り後付け高台。	204	酸化焰焼成
70	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(13.6) ②5.0	①中板②良好 ③よい褐色④完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反・肥厚、内・外周回転糸切り後付け高台。	250	酸化焰焼成
71	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(13.6) ②5.4	①中板②良好 ③灰褐色④完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反・肥厚、内・外周回転糸切り後付け高台。	177	酸化焰・い ぶし焼成
72	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(13.1) ②5.3	①中板②良好 ③灰褐色④完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾から口縁端部や外反・内・外面糊で。両面に墨書き。底部：内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	179	酸化焰焼成 体部凹 面墨書き
73	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(12.7) ②5.4	①相模②良好 ③灰黄色④ほぼ完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾から口縁端部や外反・肥厚、内・外周回転糸切り後付け高台。	175	酸化焰焼成
74	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(12.5) ②4.8	①中板②良好 ③灰白色④4/5	輪廓整形。口縁・体部：外傾から口縁端部や外反・内・外周回転糸切り後付け高台。	35	酸化焰焼成
75	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(13.8) ②5.0	①中板②良好 ③灰黄色④ほぼ完形	輪廓整形。口縁・体部：外傾・内・外周回転糸切り後付け高台。	209	酸化焰焼成
76	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(12.8) ②5.2	①中板②良好 ③灰褐色④2/3	輪廓整形。口縁・体部：外傾、内・外周回転糸切り後付け高台。	228ほか	酸化焰焼成
77	H-19 高台脚 須恵器	高台脚 須恵器	①(14.0) ②5.2	①中板②良好 ③よい黄褐色④1/2	輪廓整形。口縁・体部：外傾・内・外周回転糸切り後付け高台。	176	酸化焰焼成
78	H-19 高心脚 須恵器	高心脚 須恵器	①(19.0) ②7.5	①輪郭②良好 ③オリーブ色④1/2	輪廓整形。口縁・体部：外傾し深い体部、内・外面糊で。底部：内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	34ほか	
79	H-19 小 貯蔵火 土師器	小 土師器	①(8.7) ②7.9	①中板②良好 ③灰白色④ほぼ完形	口縁部：ほぼ直立、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：やや外傾、内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。全体的に大きくなむ。	248	還元焰焼成
80	H-19 窓 土師器	窓 土師器	①(19.0) ②(23.5)	①中板②良好 ③よい赤褐色④3/4	口縁部：直立から大き外傾、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：やや膨らみ内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。底部：径3.4cmの平底。	108ほか	
81	H-19 羽 土師器	羽 土師器	①(17.2) ②(25.3)	①中板②良好 ③よい褐色④底部欠損	輪廓整形。口縁部：内傾・内・外周回転糸切り後付け高台。底部：やや膨らみ内面糊で、外面上位糊で。下位茎割り。	197ほか	酸化焰焼成
82	H-19 羽 土師器	羽 土師器	①(18.9) ②29.6	①中板②良好 ③よい黄褐色④1/2	輪廓整形。口縁部：ほぼ直立、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：断面三角形状でほぼ水平に付く。脚部：内面糊で、外周・下位糊で。下位茎割り。	139ほか	酸化焰焼成
83	H-19 瓶 須恵器	瓶 須恵器	①(31.3) ②35.8	①中板②良好 ③灰褐色④1/2	輪廓整形。口縁部：ほぼ直立、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：断面三角形状でほぼ水平に付く。脚部：内・外周回転糸切り後付け高台。下位糊で、内面糊と外周糊が異なる点のみ有り。脚部：水平方向に大きく外反。	264ほか	
84	H-20 坏 土師器	坏 土師器	①(12.4) ②4.8	①輪郭②良好 ③輪郭④3/4	口縁部：外傾・内・外周回転糸切り後付け高台。底部：丸底、内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	H-17 58 ほか	
85	H-20 坏 土師器	坏 土師器	①(12.3) ②4.4	①輪郭②良好 ③橙色④1/3	口縁部：やや外反気味、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：丸底、内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	H-17 79 ほか	
86	H-20 窓 土師器	窓 土師器	①(15.2) ②4.0	①中板②良好 ③よい黄褐色④破片	坏部：丸底・外傾。口縁部や外底、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	H-17-39 ほか	
87	H-20 長持型 土師器	長持型 土師器	①(23.6) ②(17.4)	①輪郭②良好 ③青色④破片	口縁部：巻豪人径。大き外傾、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：内面糊で、内面糊と外周糊が異なる点のみ有り。底部：欠損。	H-17-116 ほか	
88	H-21 坏 土師器	坏 土師器	①(12.9) ②(3.7)	①輪郭②良好 ③青色④1/2	口縁部：やや外傾、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：下半を欠損。丸底、内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	33ほか	
89	H-21 坏 土師器	坏 土師器	①(13.0) ②(3.8)	①輪郭②良好 ③青色④破片	口縁部：短く、ほぼ直立、内・外周回転糸切り後付け高台。底部：下半を欠損。丸底、内面糊で、外周回転糸切り後付け高台。	13	

番号	測定部位	器種	①口徑 ②層位	③成形 ④色調⑤表面度	器種の特徴・整形・調査技術	登錄番号	備考
90	H-21 床底 土壌器	壺	①[14.0] ②(13.6)	①中鉗②良好 ③褐色④破片	口縁部：内傾から腰やかに外反、肥厚、内・外面横溝で。肩部：大きく述べられ、外側斜め削り。底部：欠損。	床	
91	T-1 埋土 土壌器	壺	①[13.4] ②(3.7)	①中鉗②良好 ③にぼい褐色④破片	口縁部：やや外側、内・外面横溝で。支点に接有。底部：下半を欠損。丸底、内面溝で、外側削り。	覆土	
92	T-1 埋土 土壌器	壺	①[13.0] ②(2.7)	①中鉗②良好 ③暗灰褐色④破片	口縁部：直くやや内傾脇、内・外面横溝で。底部：下半を欠損。浅い丸底、内面溝で、外側削り。	覆土	
93	T-1 埋土 土壌器	壺	①[18.0] ②(16.3)	①中鉗②良好 ③にぼい褐色④1/6	口縁部：直立腰から腰やかに外反、内・外面横溝で。胴部：下半を欠損。大きく述べられ、内面溝で、外側削り。	覆土	
94	T-1 埋土 土壌器	壺	①[11.6] ②(3.7)	①中鉗②良好 ③にぼい黃褐色④破片	口縁部：直立から外反、やや肥厚、内・外面横溝で。胴部・底部：欠損。	反土	
95	W-1 高台陶 埋土 土壌器	壺	① 一 ② (1.6)	①中鉗②良好 ③オーリーブ黄色④破片	底部のみ。	覆土	
96	W-3 高台陶 底座器	壺	①[14.8] ② 2.8	①中鉗②良好 ③灰色④底部	壺體整形。口縁・体部：大きく外縁、内・外面溝で。底部：内面溝で、外面回転糸切り後付け高台。	28	
97	W-3 高台陶 埋土 土壌器	壺	① 12.8 ② 4.9	①中鉗②良好 ③オーリーブ黄④3/4	壺體整形。口縁・体部：外縁、口縁端部や肥厚、内・外面溝で。底部：内面溝で、外面回転糸切り後付け高台。	覆土	酸化焰焼成
98	W-4 埋土 土壌器	壺	① 一 ② (1.1)	①中鉗②良好 ③淡黄色④破片	壺體整形。口縁・体部：欠損。底部：径、7.4]cmの平底。内面溝で、外面回転糸切り。背面に墨書き。	覆土	底部背面墨 青
99	D-9 高台Ⅲ 底座器	壺	① 12.8 ② 3.0	①中鉗②良好 ③灰色④完形	壺體整形。口縁・体部：大きく直線的に外縁、内・外面溝で。底部：内面溝で、外側削り糸切り後付け高台。	1	
100	D-11 高台Ⅲ 底座 土壌器	壺	① 12.5 ② 2.7	①中鉗②良好 ③灰白色④完形	壺體整形。口縁・体部：大きく外縁、口縁端部や外反気味、内・外面溝で。底部：内面溝で、高台部：断面三角形の低い高台を付す。底裏は済りがり。	3	
101	D-11 高台 底座器	壺	① 11.8 ② 3.8	①中鉗②良好 ③灰色④光形	壺體整形。口縁・体部：外縁から口縁端部や外反、内・外面溝で。底部：径、6.0cmの平底。内面溝で、外面回転糸切り。	1	
102	D-11 高台陶 底座 土壌器	壺	① 12.4 ② 7.4	①中鉗②良好 ③褐色④1/2	壺體整形。口縁・体部：外縁やや深い体部、内・外面溝で。底部：底厚、内面溝で。高台部：直線的に開く高い高台を付す。	2	酸化焰焼成
103	X47 Y124 支撑 土壌器	壺	①[12.4] ②(2.8) ③にぼい褐色④破片	①中鉗②良好 ③にぼい褐色④破片	口縁部：直立から強く外反、内・外面横溝で。底部：下半を欠損。浅い丸底、内面溝で、外側削り。口縁部および内面を赤絞。		赤色塗形、 比企型か
104	支撑 土壌器	壺	① ②(2.4)	①中鉗②良好 ③にぼい黃褐色④破片	壺體整形。天井部：下半を欠損。内・外面溝で。内面黒色處理。底み：高く直線的に開く稜状底み。	内黑	

注) ①層位は、「床底」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より1cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。窓内の検出については「窓内」と記載した。

②口径：最高の部位はcmである。現存値を（ ）、復元値を〔 〕で示した。

③底土は、粗粒 (0.9mm以上)、中粒 (1.0~1.9mm以下)、細粒 (2.0mm以上) とし、特徴的な物質が入る場合に該当名等を記載した。

④焼成は、神良、舟良、不良の三段階とした。

⑤色調は、上級外表面で観察し、色名は新規西平上色鏡（小山・竹原1978）によった。

Tab.7 石器観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	保存度	登録番号	備考
1	J-1・堆土	石斧	3.2	1.6	0.8	2.2	無縫石	ほぼ完形		
2	J-1・堆土	斧	12.5	6.3	2.1	170.0	黒色頁岩	完形		
3	J-1・堆土	打製石斧	(6.0)	(5.1)	(1.5)	59.0	黑色頁岩	不明		
4	J-2・堆土	石斧	2.0	1.1	0.3	0.5	無縫石	ほぼ完形		
5	J-2・床直	打製石斧	(6.5)	(5.3)	(1.7)	55.5	黒色頁岩	不明	9	
6	X45、Y125	石斧	4.1	2.6	1.0	11.6	チャート	ほぼ完形		

(1)層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「堆土」：床面より10cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

(2)最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.8 石製品・土製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	保存度	登録番号	備考
1	II-4・堆土	土器要皿	2.3	2.1	0.5	3.1	須恵器	不明		外表面自然。
2	H-9・床直	玉	1.8	1.6	0.9	4.2	滑石	完形	100	
3	H-9・堆土	土器要皿	(5.3)	(2.8)	(1.7)	(25.4)		1/2	61	外表面磨き。
4	H-9・床直	石	8.4	5.3	2.6	135.0	滑石	不明	50	4面使用。
5	H-10・床直	土器要皿	3.8	4.0	1.3	20.6	滑石	35		外表面磨き。
6	H-10・堆土上	玉	(3.1)	(2.5)	(2.6)	(13.8)		1/2	179	
7	H-11・床直	玉	1.5	1.5	0.4	0.9	滑石	完形	1054	
8	H-11・床直	玉	1.4	1.3	0.6	1.6	滑石	完形	1060	
9	H-11・堆土	土器要皿	3.5	2.0	2.0	15.4		完形	1053	
10	H-16・床直	石製模造品	(3.9)	2.5	0.5	(6.8)	滑石	不明	132A	穿孔有。
11	H-16・床直	石製模造品	(2.9)	(2.3)	0.4	(2.8)	滑石	不明	132B	穿孔有。
12	H-17・堆土	玉	1.5	1.5	0.5	1.4	滑石	完形	102	
13	H-18・堆土	石	3.6	2.5	1.7	16.2	凝灰岩	不明		穿孔有。
14	H-19・堆土	上要皿	3.1	3.2	1.1	14.0	陶土上器	不明		加賀利E。
15	H-21・堆土	玉	1.3	1.3	0.6	1.5	滑石	完形	17	

(1)層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「堆土」：床面より10cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

(2)最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.9 鉄器・鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	保存度	登録番号	備考
1	II-4・床直	釣り金具	(8.6)	1.5	0.3	14.0	破片	17	中央2ヶ所に長さ2.0cmの釣具。
2	H-4・床直	釣	6.1	0.4	0.5	8.6	光形	26	
3	H-4・堆土内	釣	9.6	0.5	0.4	22.6	ほぼ完形	70	
4	H-10・床直	刀子	21.9	1.8	0.4	35.8	光形	139	
5	H-10・床直	刀子	17.6	1.3	0.3	17.6	ほぼ完形	190	
6	H-12・堆土	釣	9.5	0.6	0.7	22.4	ほぼ完形	76	
7	H-12・床直	釣	10.2	0.7	0.7	21.6	ほぼ完形	143	
8	H-12・堆土	釣	8.1	0.6	0.6	15.4	ほぼ完形		
9	H-19・床直	鉄	(5.4)	(2.3)	0.5	12.8	破片	107	包被(のかづぎ)部か。
10	H-19・床直	直刀子	(9.2)	1.4	0.3	9.4	破片	221	

(1)層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「堆土」：床面より10cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

(2)最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.10 瓦観察表

番号	遺構・層位	器種	①長さ ②幅 ③厚さ	④脚⑤集成 ⑥色調⑦保存度	瓦種の特徴・並形・演繹技術	登録番号	備考
1	H-2・平瓦 窓内	①(30.5) ②(2.1)	④脚⑤集成 ⑥灰褐色⑦破片	一枚作り。凹面：布日台。凸面：無で。瓦書き文字有。側面：面取り2面。	258	瓦書き文字	
2	H-2・平瓦 窓内	①(27.4) ②(2.1)	④脚⑤集成 ⑥灰褐色⑦破片	一枚作り。凹面：布日台。凸面：無で。側面：面取り2面。	259		
3	H-2・平瓦 窓内	①(23.7) ②(2.1)	④脚⑤集成 ⑥灰褐色⑦破片	一枚作り。幅24.5cm。凹面：布日台。凸面：無で。側面：面取り2面。凹面取りを行なうとする。	244ほか		
4	H-2・平瓦 窓内	①(26.0) ②(1.3)	④脚⑤集成 ⑥灰褐色⑦破片	一枚作り。凹面：布日台。内面：斜面丸削り。側面：面取り2面。	256ほか		
5	H-2・平瓦 窓内	①(20.8) ②(1.7)	④脚⑤集成 ⑥灰褐色⑦破片	一枚作り。凹面：布日台。内面：鏡叩き後削で。側面：面取り3面。	254		

番号	品種名 層位	認識	①長さ ②厚さ	①樹皮②死皮 ③褐色④破片	各種の特徴・整形・調理技術	登録番号	備考
6	H-4 床内	平 瓦	①(30.3) ② 2.4	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：荒削り後擦で。側面：曲取り2回。	73	右壁に使用
7	H-4 床内	丸 瓦	①(23.3) ② 2.9	①樹皮②良好 ③褐色④破片	行基式。凹面：荒削り。凹面：布目有。荒書き文字有。側面：曲取り2回。	72	左壁に使用 荒書き文字
8	H-4 床直	平 瓦	①(15.6) ② 2.0	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：擦で。荒書き文字有。側面：曲取り2回。	11	荒書き文字
9	H-5 床内	平 瓦	①(22.0) ② 1.4	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。凹面：布目有。擦で。側面：曲取り2回。	35	支脚に使用 か
10	H-10 床直	平 瓦	①(17.8) ② 2.4	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：擦で。荒書き文字有。側面：曲取り2回。	5	荒書き文字
11	H-11 床底	平 瓦	① 42.6 ② 1.7	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：荒削り後擦で。側面：曲取り2回。	244ほか	貯蔵穴に使 用
12	H-11 床内	平 瓦	①(23.3) ② 1.6	①樹皮②良好 ③褐色④破片	荒書き作り。凹面：擦で。荒書き文字有。側面：曲取り2回。	254	右壁に使用
13	H-11 床内	平 瓦	①(22.5) ② 1.6	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：擦で。	237	
14	H-11 床底	平 瓦	①(21.6) ② 2.4	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：平行叩き目文字有。側面：曲取り2回。	243	貯蔵穴に使 用
15	H-11 床内	平 瓦	①(13.8) ② 2.7	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：擦で。荒書き文字有。側面：曲取り2回。	232	荒書き文字
16	H-11 床内	丸 瓦	①(24.4) ② 1.1	①樹皮②良好 ③褐色④破片	玉縁式。凹面：擦で。側面：布目有。側面：曲取り2回。	238	
17	H-11 床底	丸 瓦	① 39.4 ② 1.5	①樹皮②良好 ③褐色④破片	行基式。凹面：擦で。側面：布目有。乾燥時のあたり痕有。側面：曲取り2回。	242	貯蔵穴に使 用
18	H-11 床内	丸 瓦	① 39.2 ② 1.2	①樹皮②良好 ③オーリーブ黒色④1/2	行基式。凹面：擦で。側面：布目有。側面：曲取り2回。	253ほか	
19	H-11 床内	丸 瓦	①(23.5) ② 1.4	①樹皮②良好 ③褐色④破片	行基式。凹面：擦で。側面：布目有。側面：曲取り2回。	247ほか	
20	H-12 床底	丸 瓦	①(20.1) ② 1.2	①樹皮②良好 ③褐色④破片	石英多く含む。凹面：擦で。荒書き文字有。側面：布目有。側面：曲取り2回。	46	荒書き文字
21	H-19 床内	平 瓦	① 40.5 ② 3.0	①樹皮②良好 ③褐色④ぼか光沢	一枚作り。凹面：布目有。凸面：荒削り後擦で。側面：曲取り3回。下部隅を斜めに面取り。重量5370g。	273	左壁に使用
22	H-19 床内	平 瓦	①(39.1) ② 2.0	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。凹面：布目有。擦で。凸面：擦で。側面：曲取り2回。	275	右壁に使用
23	H-19 床内	平 瓦	① 38.0 ② 2.1	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。凹面：布目有。擦で。凸面：斜行叩き目痕有。擦で。側面：曲取り2回。	237	天井部に使 用
24	H-19 床内	平 瓦	①(30.0) ② 2.5	①樹皮②良好 ③褐色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：擦で。側面：曲取り2回。	270	押印部下部に使 用
25	H-19 床内	平 瓦	①(26.4) ② 2.0	①樹皮②良好 ③白色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：擦で。荒書き文字有。	232ほか	荒書き文字
26	W-3 床内	平 瓦	① - ② 3.2	①中粒②良好 ③褐色④破片	軒瓦か。凹面：布目有。凸面：擦で。側面：曲取り3回。	12	
27	W-3 床内	平 瓦	① - ② 2.1	①樹皮②良好 ③褐色④破片	凹面：布目有。擦で。凸面：擦で。	6	荒書き文字
28	W-3 床内	平 瓦	① - ② 2.3	①中粒②良好 ③褐色④破片	石英多く含む。凹面：布目有。凸面：平行叩き目文字有。側面：曲取り2回。	8	
29	W-3 床内	平 瓦	① - ② 2.1	①中粒②良好 ③褐色④破片	石英多く含む。凹面：布目有。凸面：擦で。荒書き文字有。		荒書き文字
30	W-3 床内	平 瓦	① - ② 1.7	①樹皮②良好 ③白色④破片	凹面：布目有。擦で。凸面：斜行叩き後擦で。側面：曲取り1回。		
31	W-3 床内	平 瓦	① - ② 1.4	①樹皮②良好 ③褐色④破片	凹面：布目有。凸面：斜行叩き目文有。		
32	W-3 丸	丸 瓦	① - ② 1.6	①樹皮②良好 ③褐色④破片	玉縁式。凹面：擦で。側面：布目有。側面：曲取り3回。	16ほか	
33	W-3 丸	丸 瓦	① - ② 1.5	①樹皮②良好 ③褐色④破片	行基式。凹面：擦で。側面：布目有。側面：曲取り2回。		
34	X-46 Y125	平 瓦	① - ② 4.0	①中粒②良好 ③褐色④破片	軒瓦か。凹面：布目有。凸面：擦で。荒書き文字有。側面：曲取り1回。		荒書き文字

注) ①層位は、「床底」:床面より10cm以上の位置からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の位置からの検出の2段階に分けた。床内の検出については「床内」と記載した。

②長さ、厚さの単位はmmである。現存値を()、復元値を[]で示した。

③砕片は、崩壊(0.5mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、各個的な微物が入る場合に微物名等を記載した。

④施成は、種類・良好・不良の3段階とした。

⑤色調は外表面で観察し、色名は動物原産土陶(小山・竹添1976)によった。

VI まとめ

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、遺跡内の微地形は北西から南東に向かって次第に低くなる。調査区の地層は、①30~40cmの現耕作土層、②10~20cmのAs-B混土層、③20~30cmのAs-C-HR-FP混土層、④15cmのAs-C混土層、⑤黄褐色砂質土層（統社砂層）で、東側では②層が厚く堆積し、また、④層も東側だけにある。遺構は⑥層まで掘り込んで構築されている。

本遺跡からは绳文時代前期から平安時代・中世の各時代にわたる資料が得られた。この中で量的な主体を占めるのは9世紀の遺構と遺物である。

本遺跡は推定畠府城の西側に位置し、また、調査区の西には国分僧寺、北には国分尼寺が存在する。ここでは、元統社・舊海遺跡群の從来の分類に従い、I期（～7世紀前半：律令期以前）、II期（7世紀～10世紀初頭：律令期）、III期（10世紀前半～：律令期以後）の3期に大別して集落跡を概観する。

I期（～7世紀前半）

绳文時代の遺構は、竪穴住居跡が2軒、住居外埋設土器が1基、土坑が1基検出された。2軒の竪穴住居跡は諸磯C式土器を伴う前期のものであり、底部を除去した上器を埋設している。住居外埋設土器は中期の加曾利E4式土器でこれも底部を除去している。周辺の遺跡でも前期と中期の竪穴住居跡等が検出されており、この辺りを中心に集落が広がっていたと考えられる。

古墳時代の遺構は、後期の竪穴住居跡が4軒検出された。4軒のうち3軒は東竈で、1軒が西竈である。竈は構築材として粘土を使用しており、東竈の住居跡の主軸方向はN-75°EからN-87°Eである。竈は構築材として粘土を使用しており、東竈の住居跡の主軸方向はN-75°EからN-87°Eである。

II期（7世紀～10世紀初頭）

この時期に該当する竪穴住居跡は、時期の想定できたもので10軒検出された。

7世紀から8世紀代の竪穴住居跡は3軒で、主軸方向はN-74°EからN-87°Eである。

9世紀代の竪穴住居跡は7軒で、主軸方向はN-76°EからN-117°Eである。

また、住居跡の規模は、9世紀代のものは東西辺2.5mから3m代にまとまる。

竈は、構築材として主に粘土を使用しているが、瓦も使用するようになる。9世紀中葉と想定されるII-11号竪穴住居跡は、竈の両袖および燃焼部壁、さらに貯蔵穴の上部（蓋のように）に瓦を使用している。また、この住居からは、内面に赤色物が付着した壊2点も出土している。

住居内での瓦の使用については、今後、国分僧寺・国分尼寺の衰退と関連させて検討していく必要があるであろう。

III期（10世紀前半～）

この時期に該当する竪穴住居跡は3軒検出され、時期は10世紀前半と想定される。

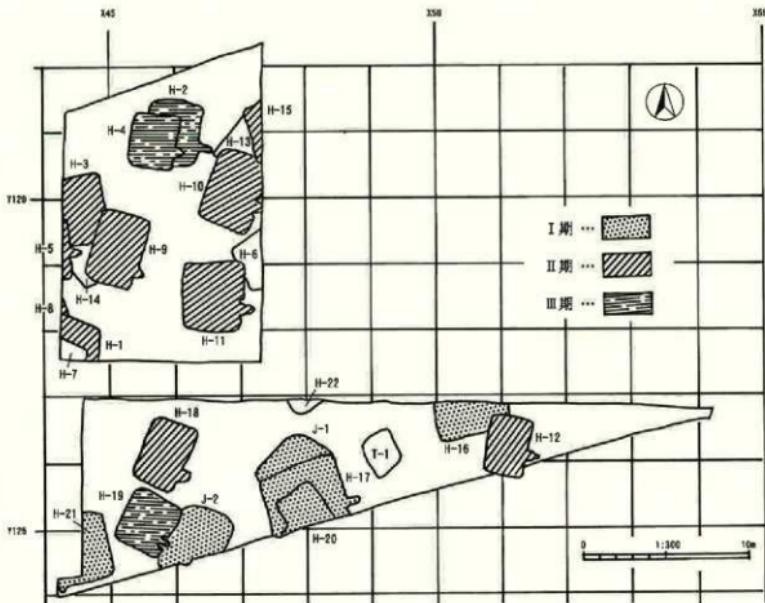
主軸方向はN-99°EからN-119°Eであり、規模は住居跡の東西辺で3m前後である。出土遺物は、崩れ

た高台の付く高台廻が多くなり、羽釜が共伴する。また、竈の構築材としての瓦の使用も継続し、II-19号竪穴住居跡は両袖・天井・煙道下部に使用している。

10世紀前半以降の遺構としては、As-B(浅間B軽石)が覆土に入る溝跡・井戸跡等が検出された。この中でW-1号溝跡は、部分的な検出であるが、直線的・断面形が薬研掘りに近い・深さが1.4mにもなることから、何らかの施設に伴う遺構の可能性も考えられる。

本遺跡地周辺では、I期の縄文時代より人々の生活が営まれている。そして、II期からIII期にかけては、さらに多くの人々が連続して生活を続いている。

今後も継続していく元總社蒼海遺跡群の発掘調査により、国府・国分僧寺・国分尼寺、さらには蒼海城と周辺集落の関わりがより明らかになっていくことを期待したい。



時期別の竪穴住居跡配置図

〈引用参考文献〉

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「中尾」 前橋馬込埋蔵文化財調査事業団 1984年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「余井宮前遺跡II」 前橋馬込埋蔵文化財調査事業団 1986年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野国分寺古・尼寺中間地城1～8」 前橋市埋蔵文化財調査事業団 1986年～
- 群馬県教育委員会 「史跡上野国分寺跡」 1988年
- 東京都埋蔵文化財センター 「資料目録6」 鎌倉・鎌倉市教育文化財団・東京都埋蔵文化財センター 1991年
- 山武考古学研究所編 「總社開泉明神北遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999年
- 真鍋明男・飯田祐二編 「上野国分寺寺域確認調査」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 鈴木雅治・高橋一彦編 「五總社甲子田地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査II」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 山武考古学研究所編 元總社舊御遺跡群「元總社小見遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 山武考古学研究所編 元總社舊御遺跡群「元總社小見内田遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 齊木一敏・近藤雅彦編 元總社舊御遺跡群「元總社甲子田遺跡・總社開泉明神北II遺跡・總社甲子田遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 齊木一敏・高坂麻子編 元總社舊御遺跡群「元總社小見内IV遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 高橋一彦・近藤雅彦編 元總社舊御遺跡群「總社甲子田荷塚大道西田遺跡・總社開泉明神北III遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編 元總社舊御遺跡群「元總社小見II遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編 元總社舊御遺跡群「元總社小見III遺跡・元總社小見作V遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 高橋一彦・高坂麻子編 元總社舊御遺跡群「元總社小見V遺跡・元總社小見VI遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 高橋一彦・高坂麻子編 元總社舊御遺跡群「元總社小見IV遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 近藤雅彦・種原信太郎編 元總社舊御遺跡群「元總社小見内VII遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 近藤雅彦・種原信太郎編 元總社舊御遺跡群「元總社小見内VI遺跡・總社甲子田荷塚大道VII遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 山武考古学研究所編 元總社舊御遺跡群「元總社小見IX遺跡・總社甲子田荷塚大道VIII遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
- スナガ庫埋蔵調査株式会社編 「元總社舊御遺跡群(3)」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年

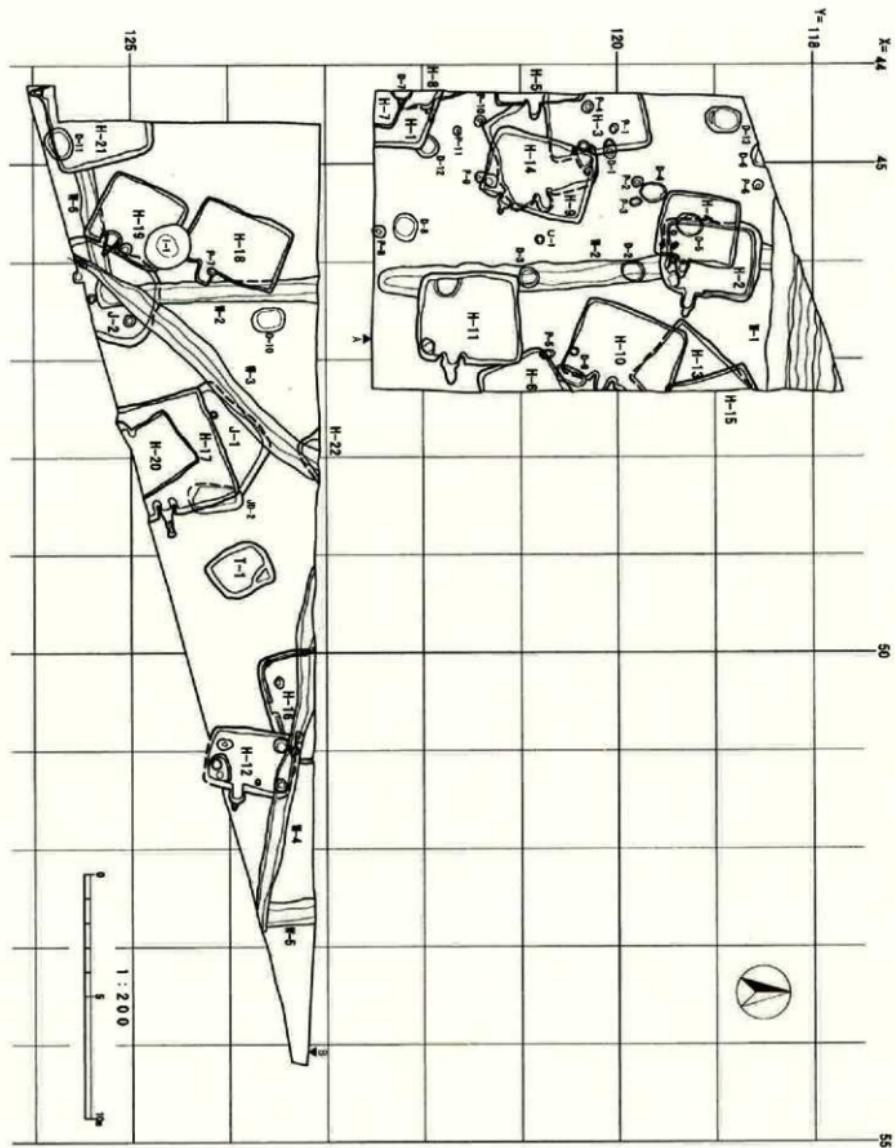


Fig. 5 元続社舊跡 (4) 全体図

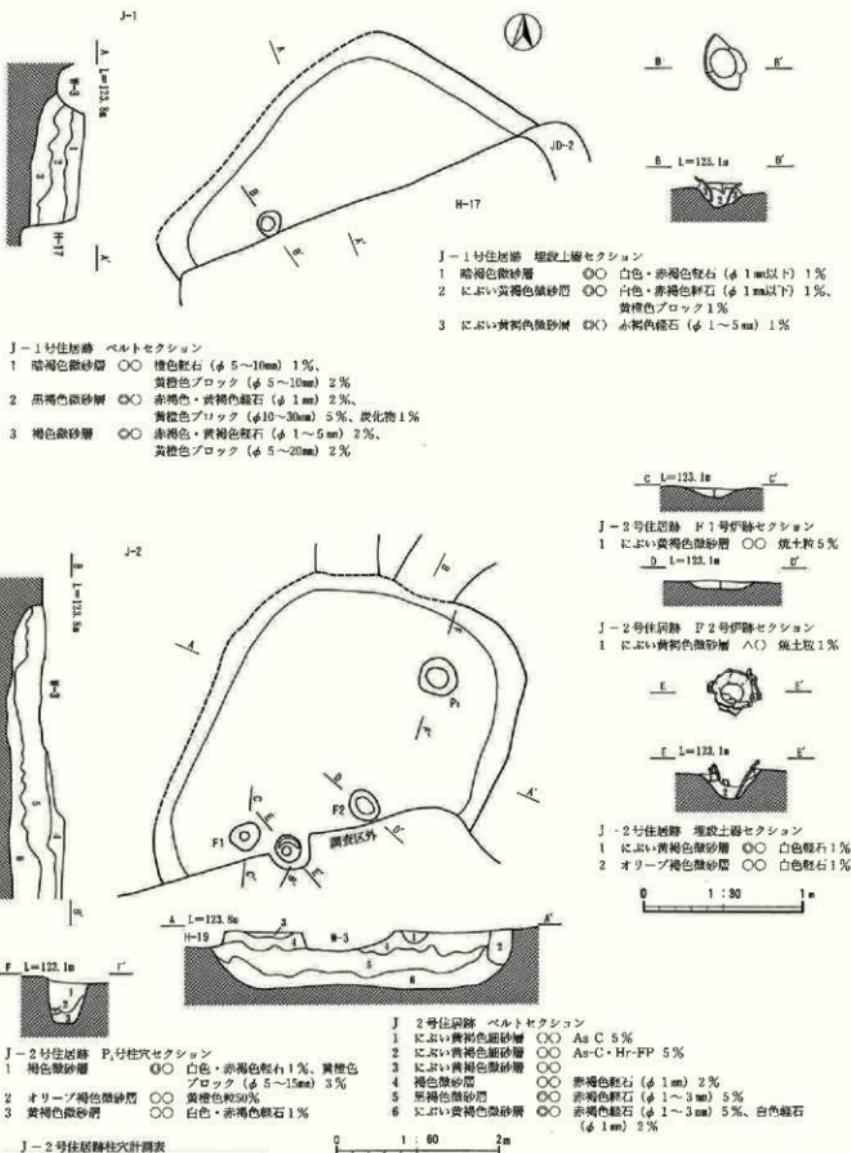


Fig. 6 J-1・2号住居跡

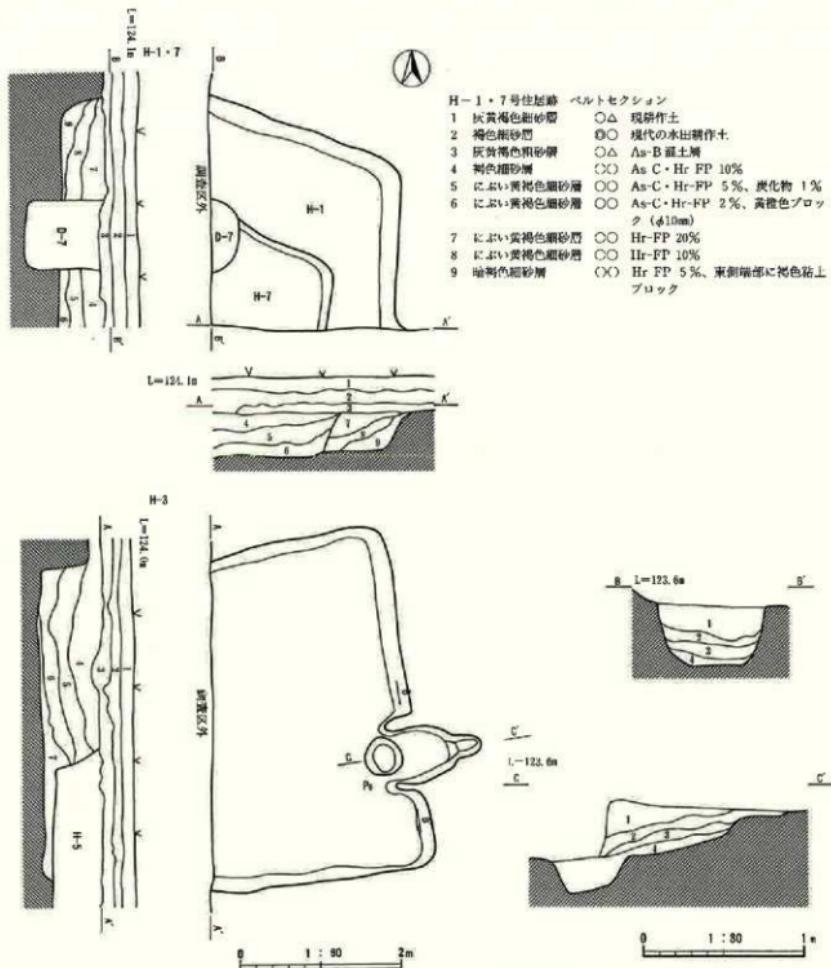


Fig. 7 H-1 + 3 + 7号住居跡

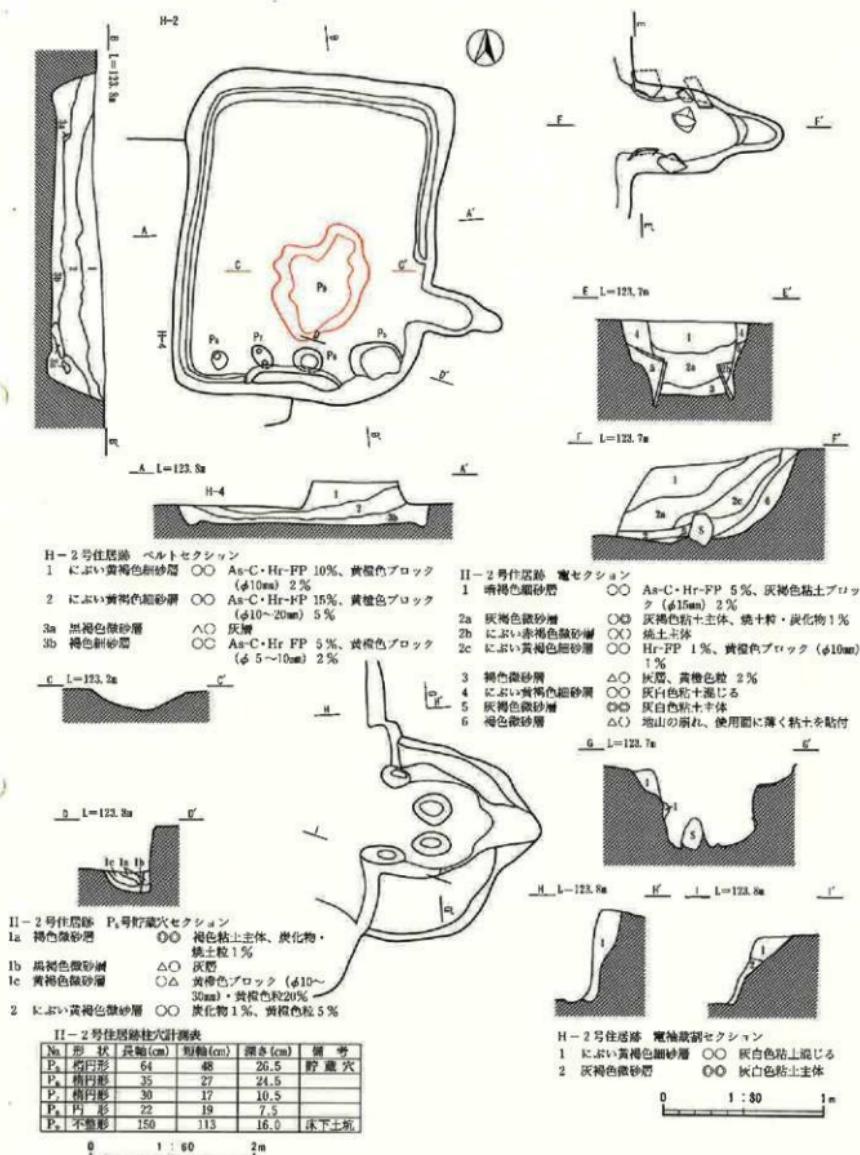


Fig. 8 H-2号住居跡

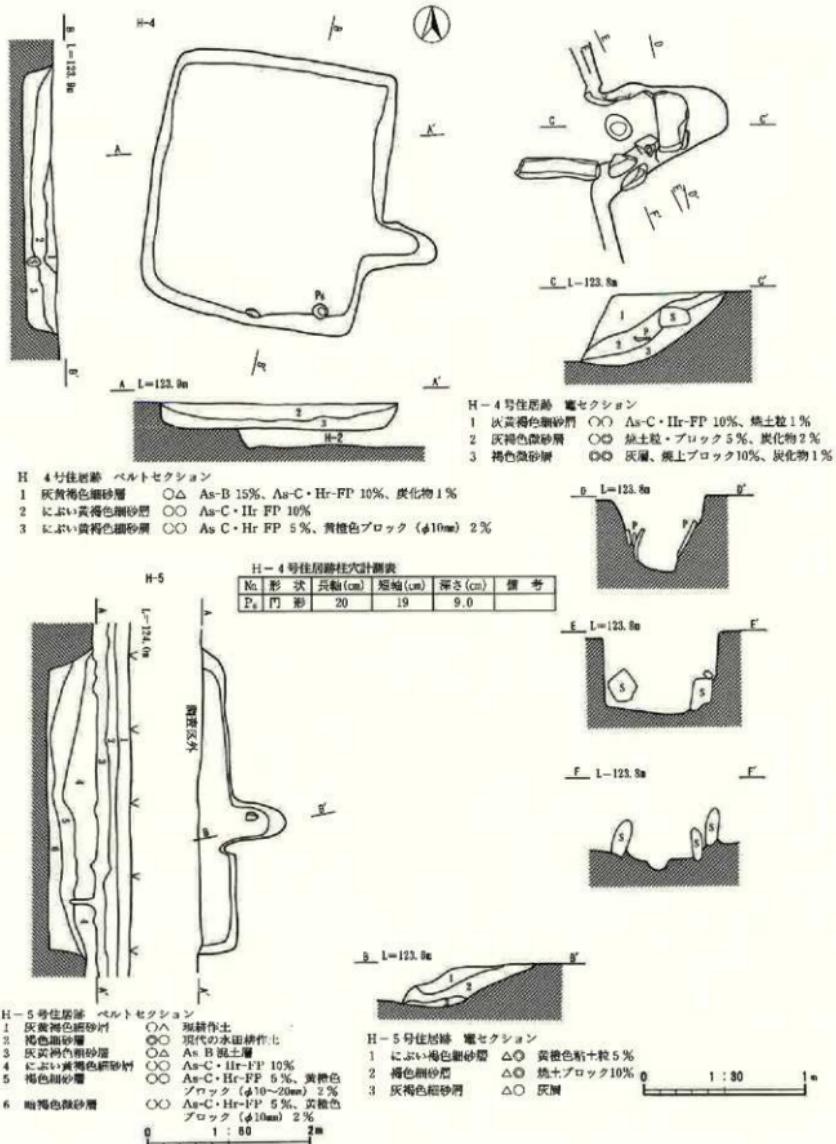


Fig. 9 11-4・5号住居跡

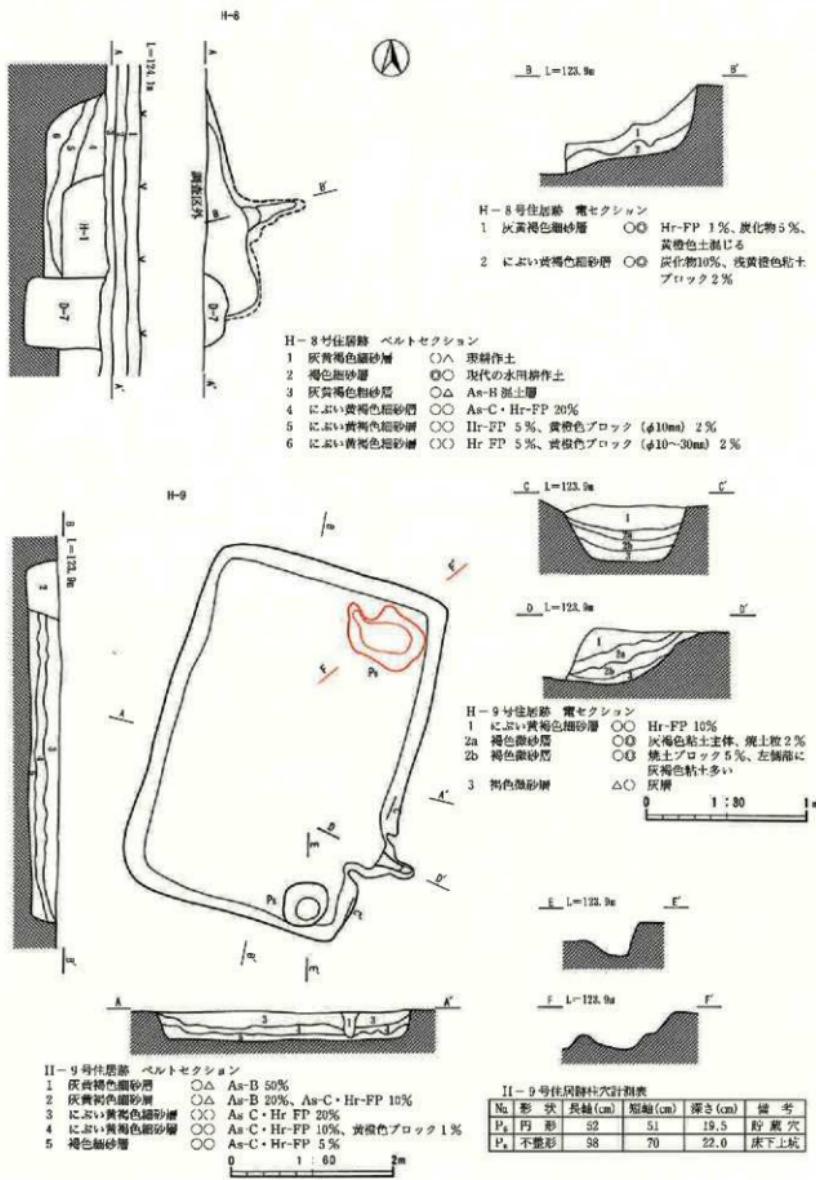


Fig.10 H-8・9号住居跡

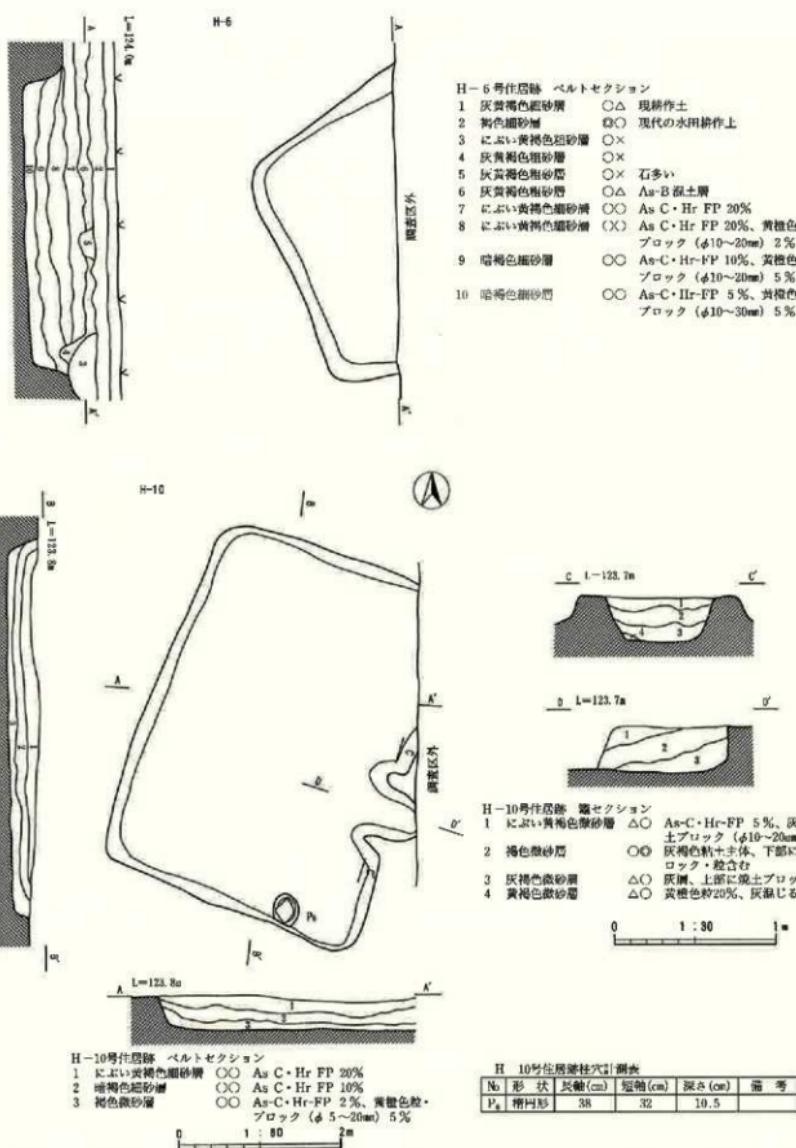


Fig.11 H-6・10号住居跡

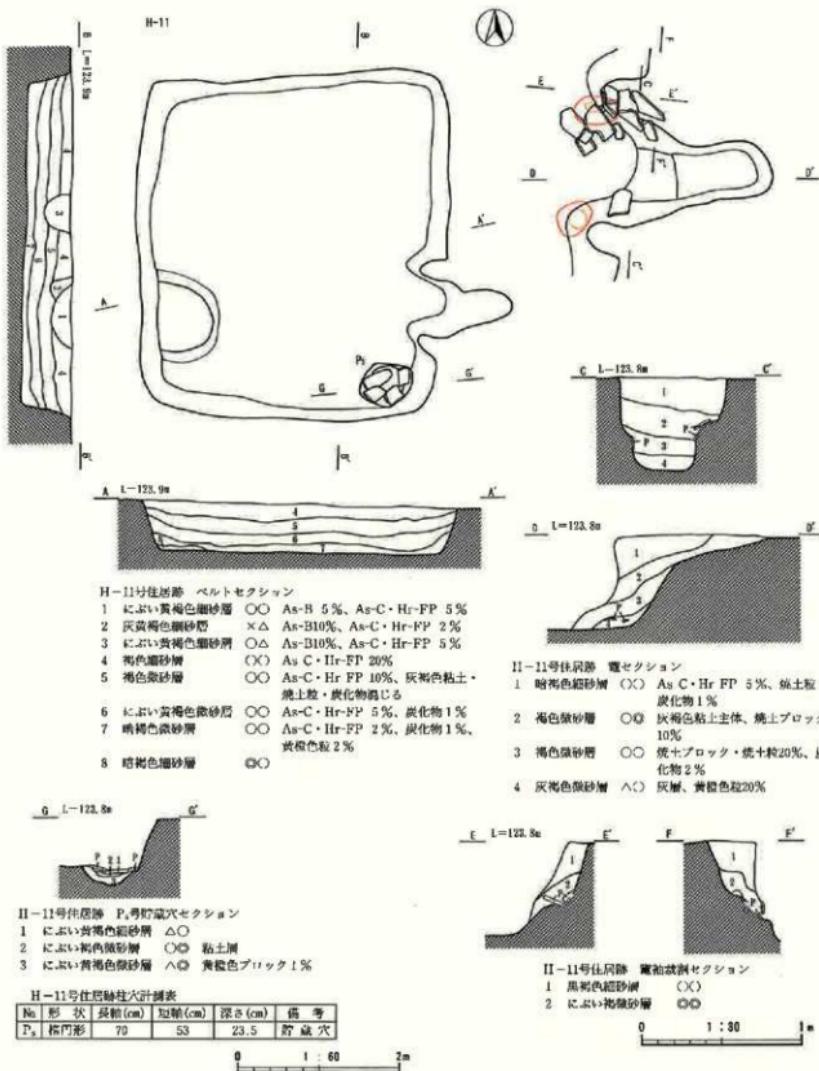
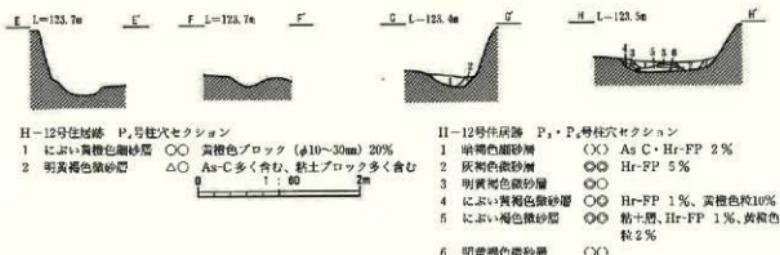
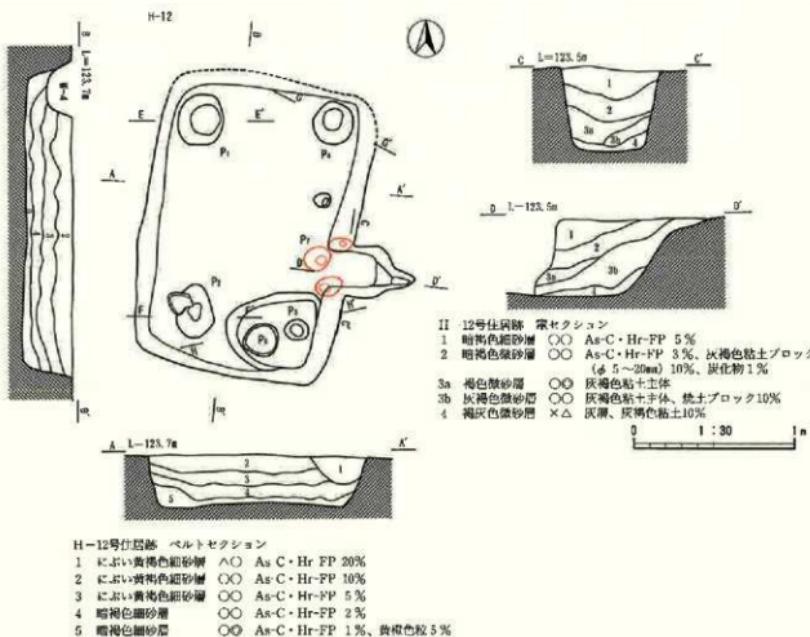


Fig. 12 II-11号住居跡



H-12号住居跡穴空調表

No	形 状	長 さ(cm)	幅 幅(cm)	深 さ(cm)	備 考
P ₁	円 形	61	55	29.0	
P ₂	扇形	65	45	26.0	
P ₃	円 形	28	26	15.0	
P ₄	円 形	52	48	22.5	
P ₅	円 形	44	40	19.0	
P ₆	円 形	16	16	25.0	灰褐色穴

Fig.13 H-12号住居跡

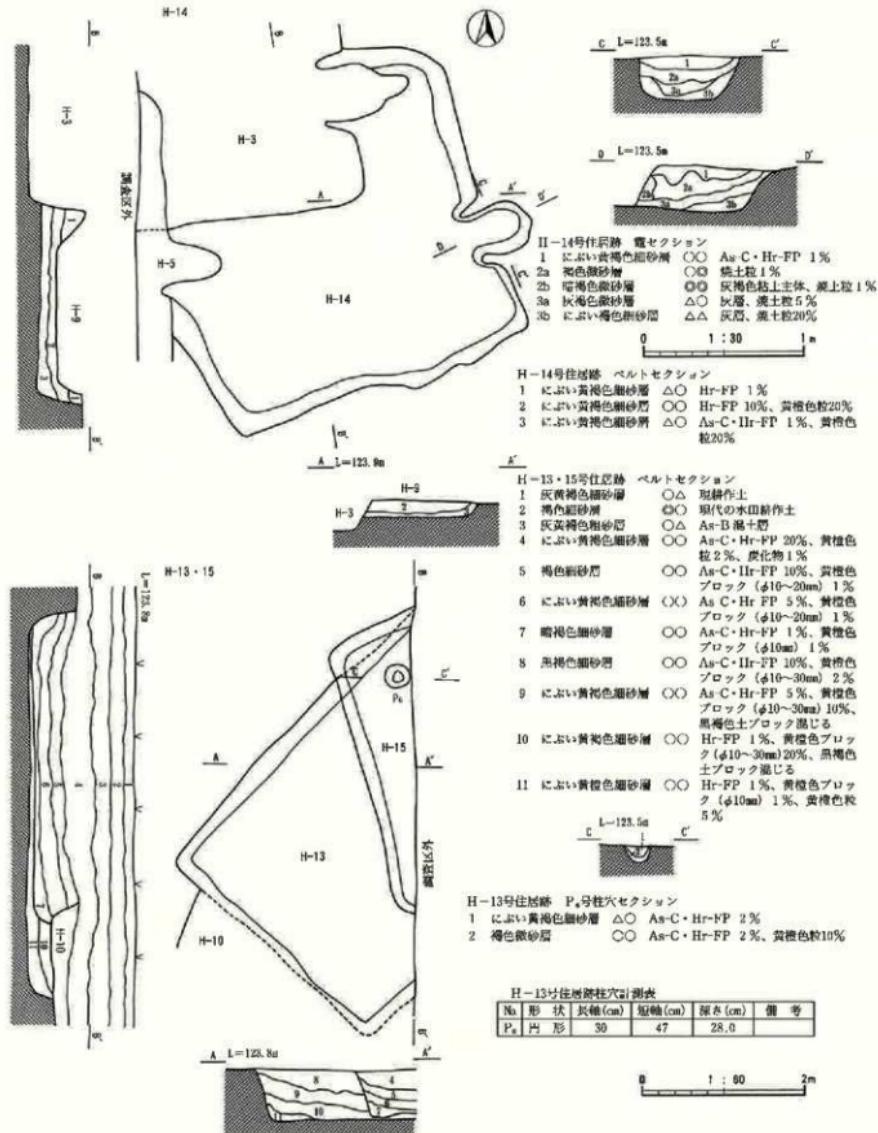


Fig.14 H-13・14・15号住居跡

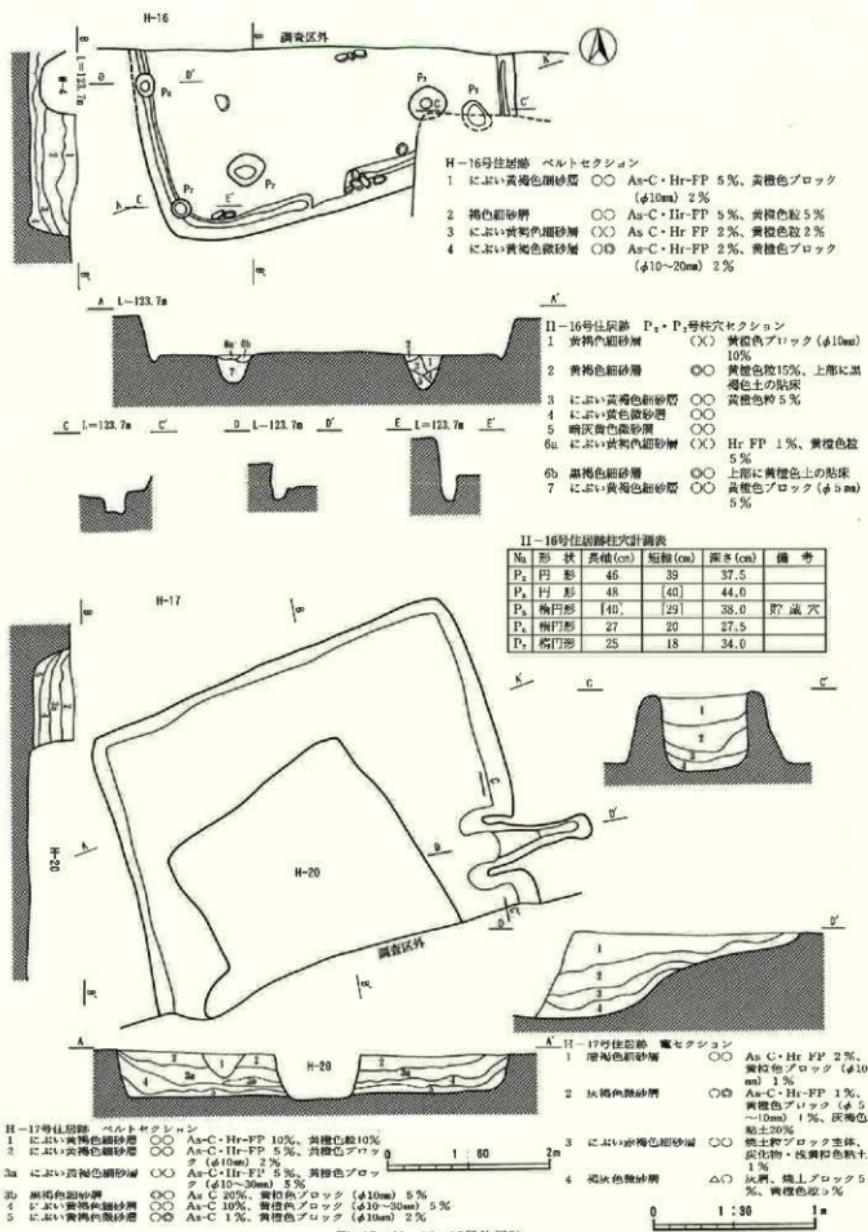
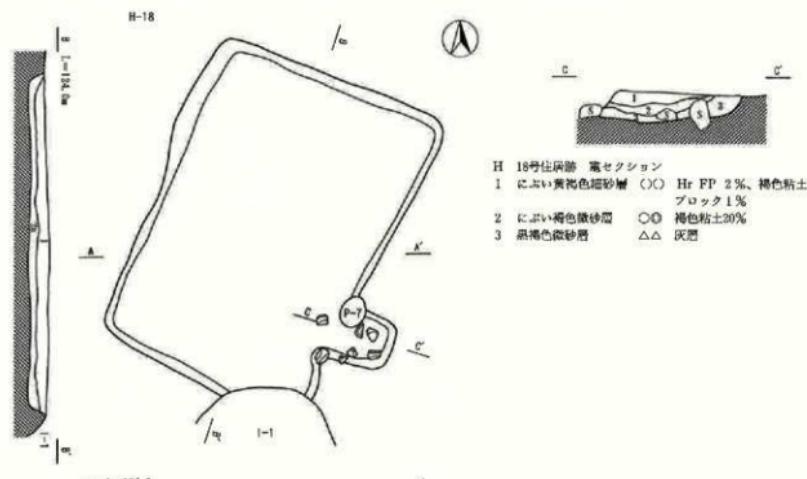
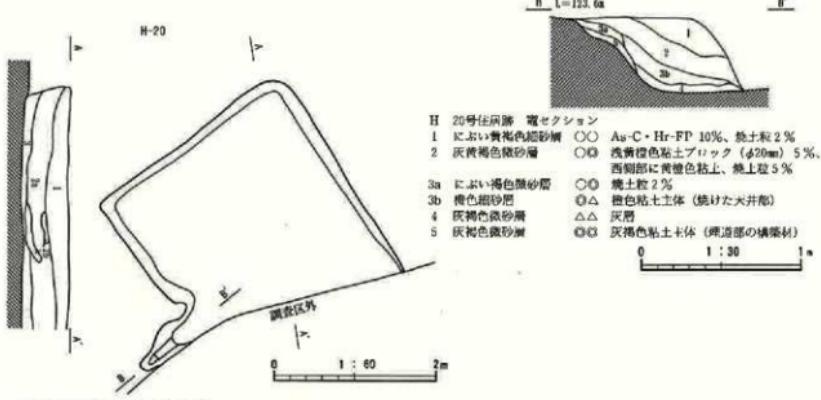


Fig.15 H-16・17号住居跡



H-18号住居跡 ベルトセクション

1 にぶい黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 2%
2a 褐色微砂層 ○○ As-C・Hr-FP 1%、黄褐色ブロック
(φ10mm) 1%
2b 暗褐色微砂層 ○○ 暗褐色粘土主体、As-C・Hr-FP 1%



H-20号住居跡 ベルトセクション

1 にぶい黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 5%、黄褐色粘土ブロック (φ10mm) 2%、
炭化物 1%
2a にぶい黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 5%、黄褐色ブロック (φ10mm) 2%
2b 黑褐色微砂層 △△ 灰層、灰土粒 5%
3 にぶい黄褐色細砂層 ○○ As-C・Hr FP 2%

Fig.16 H-18・20号住居跡

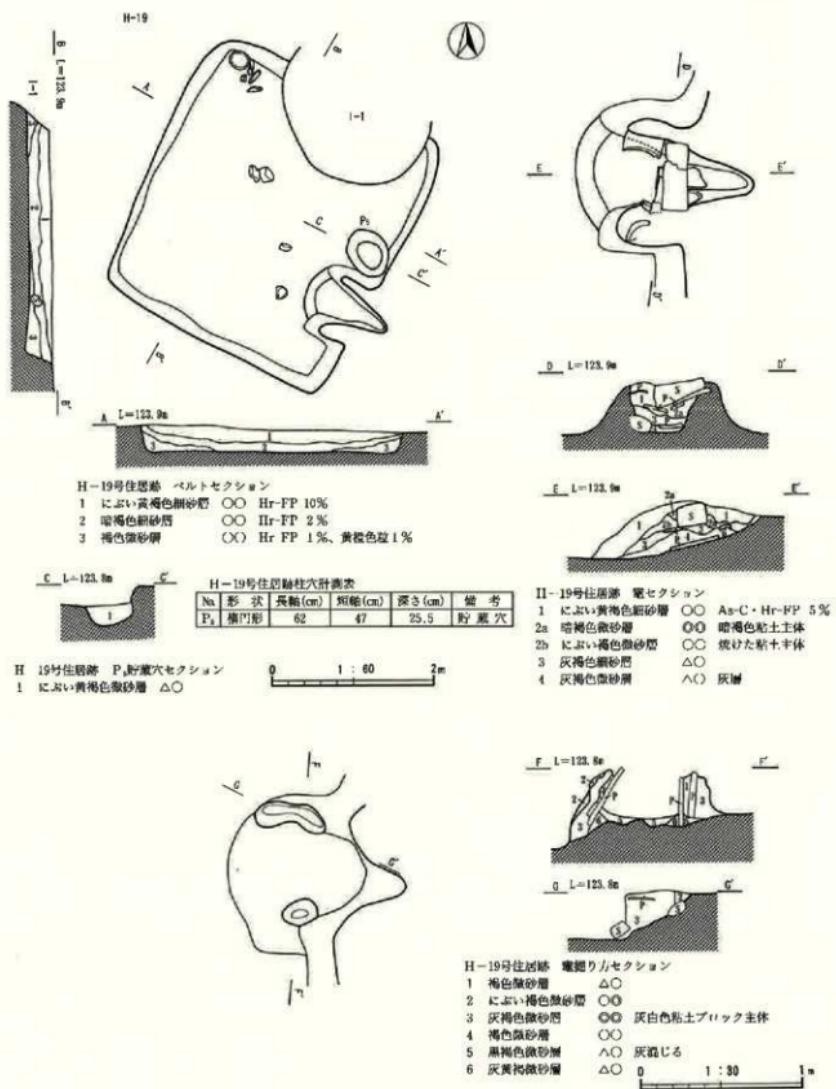


Fig.17 H-19号住居跡

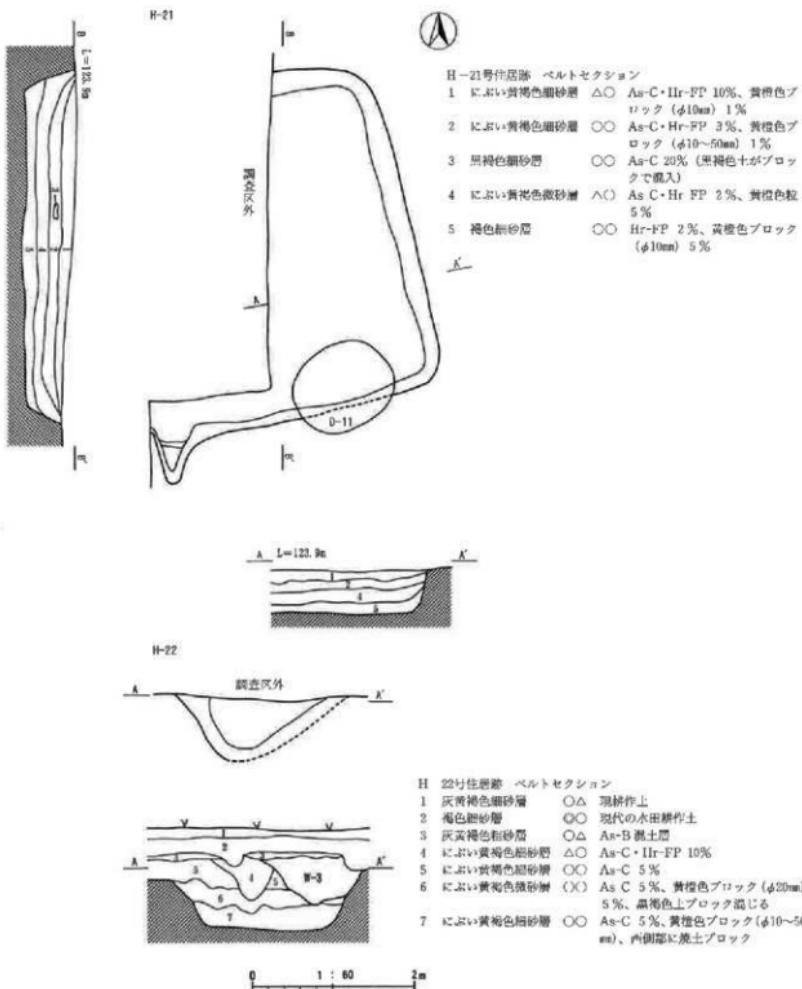


Fig.18 H-21・22号住居跡

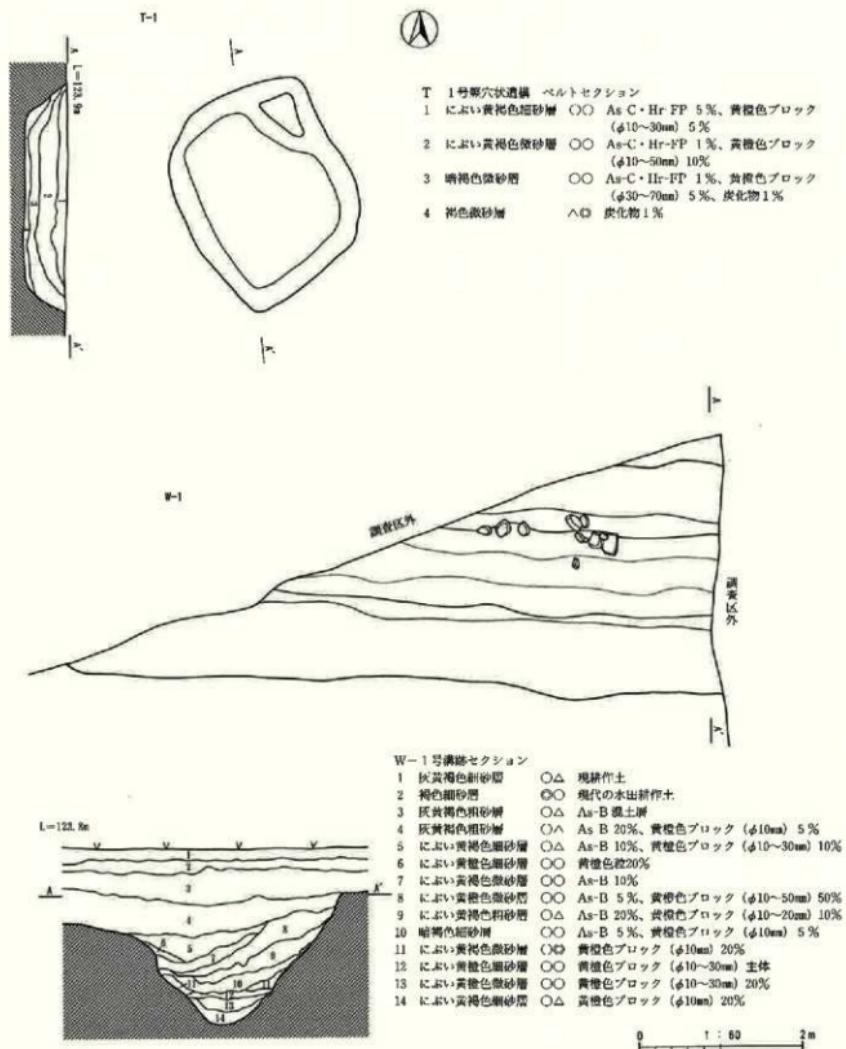


Fig.19 T-1号竪穴状遺構、W-1調査

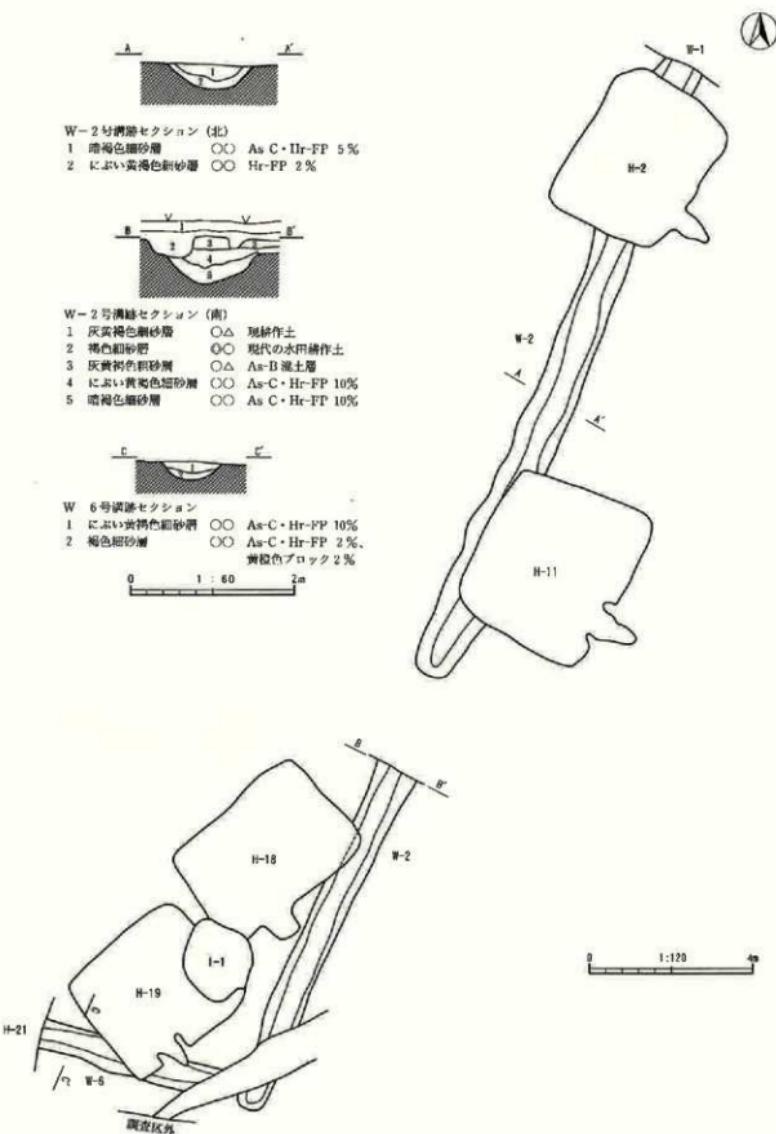


Fig.20 W-2・6号調査

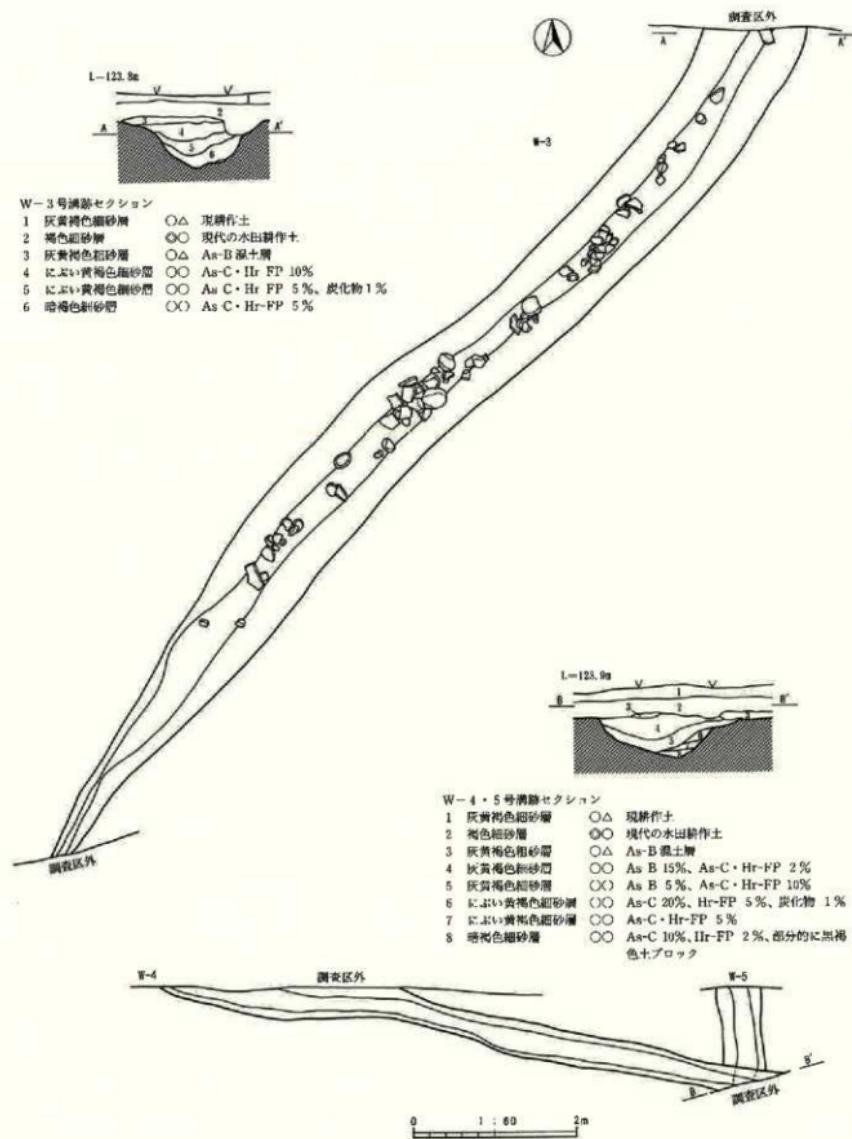
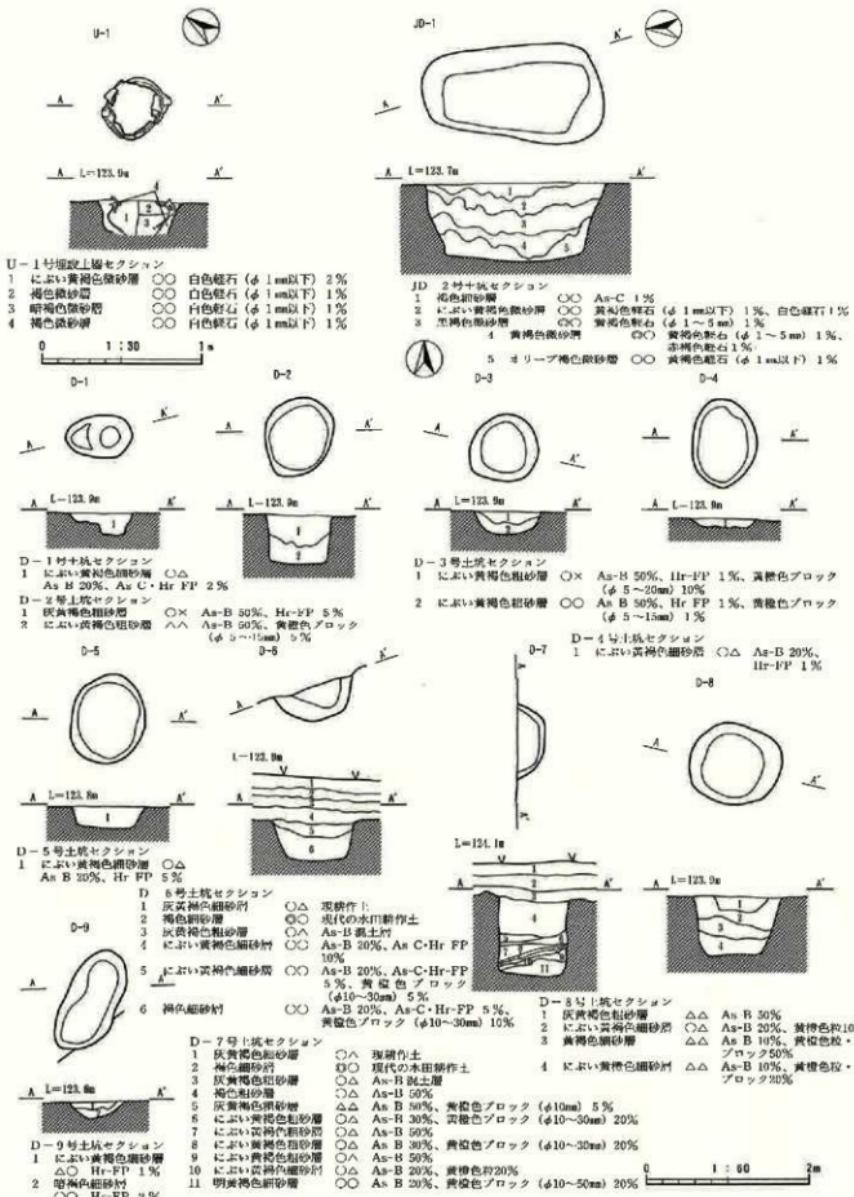


Fig.21 W-3～5号調査



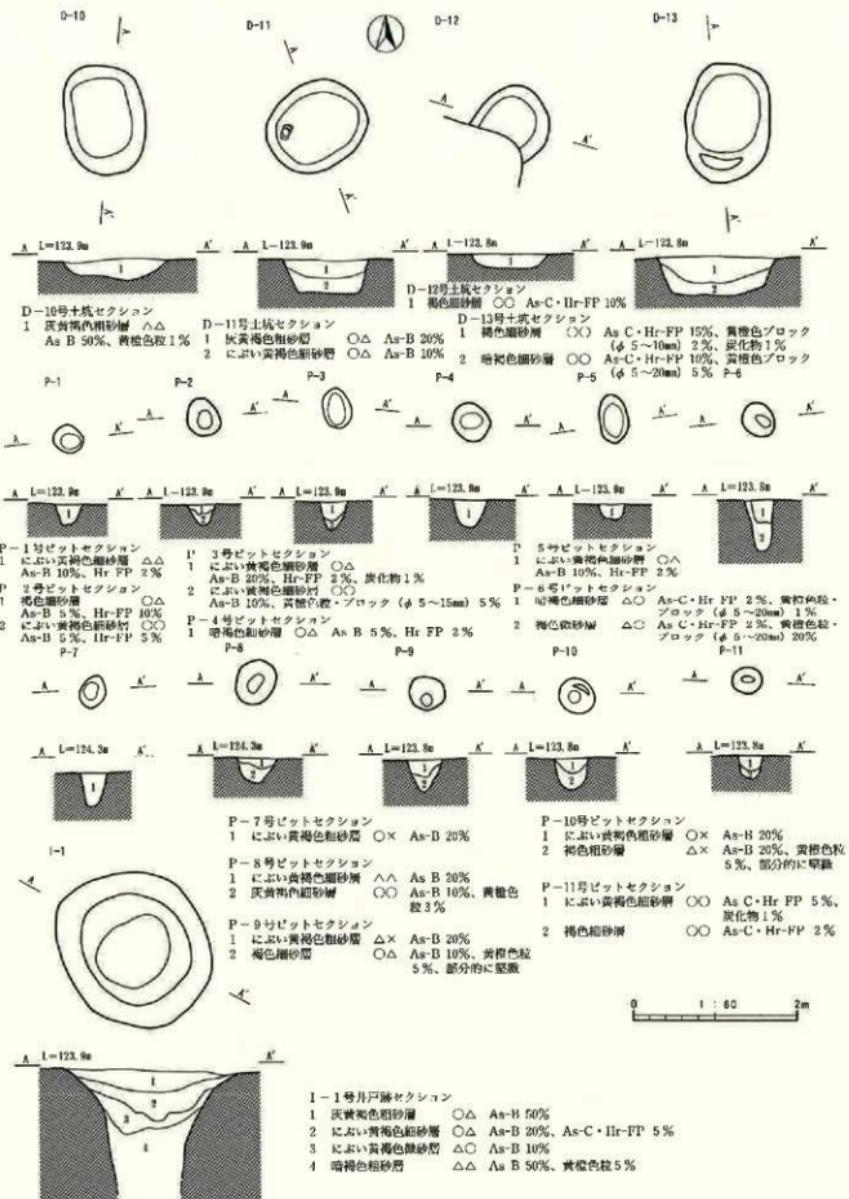
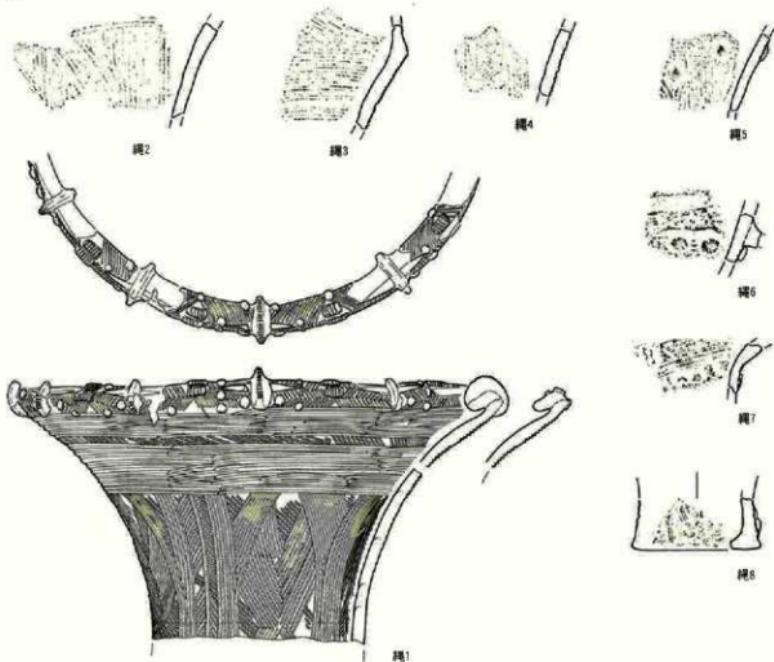


Fig.23 D-10~13号土坑、P-1~11号ピット、I-1号井戸跡

J-1



U-1



Fig.24 J-1号井居跡、U-1号上坑出土遺物

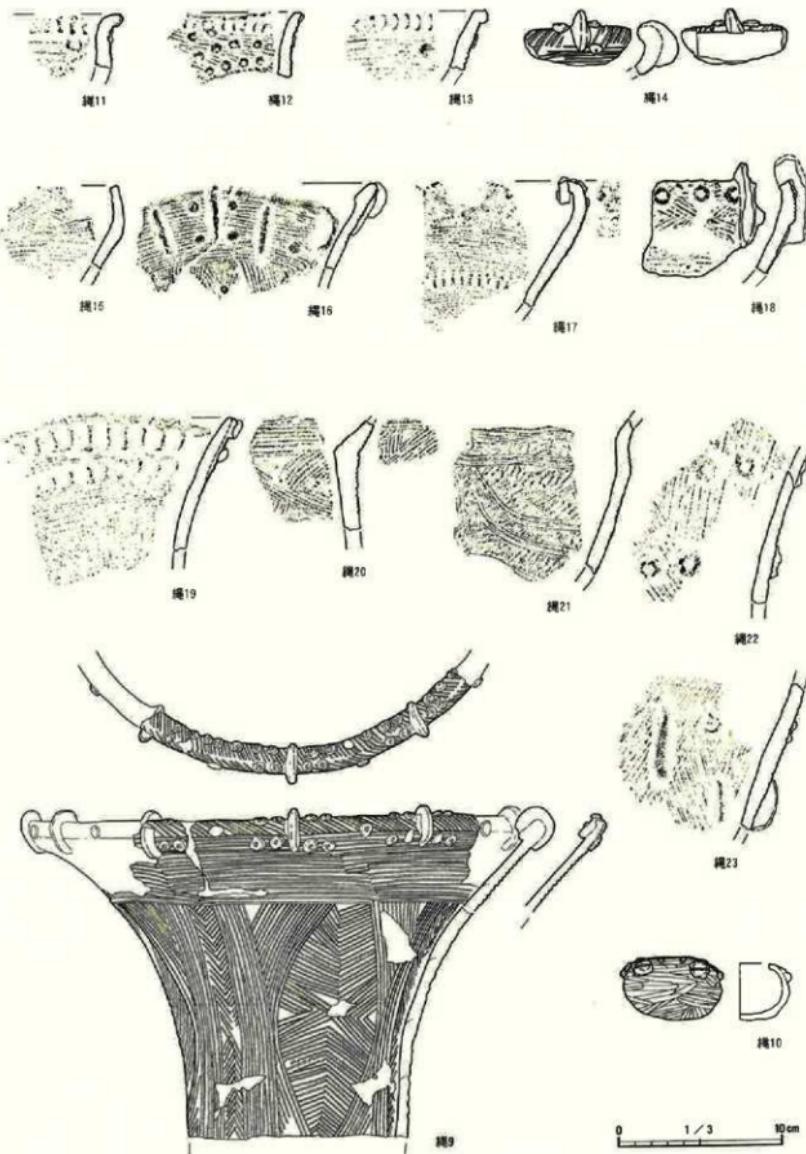


Fig. 25 J - 2 号居址出土物

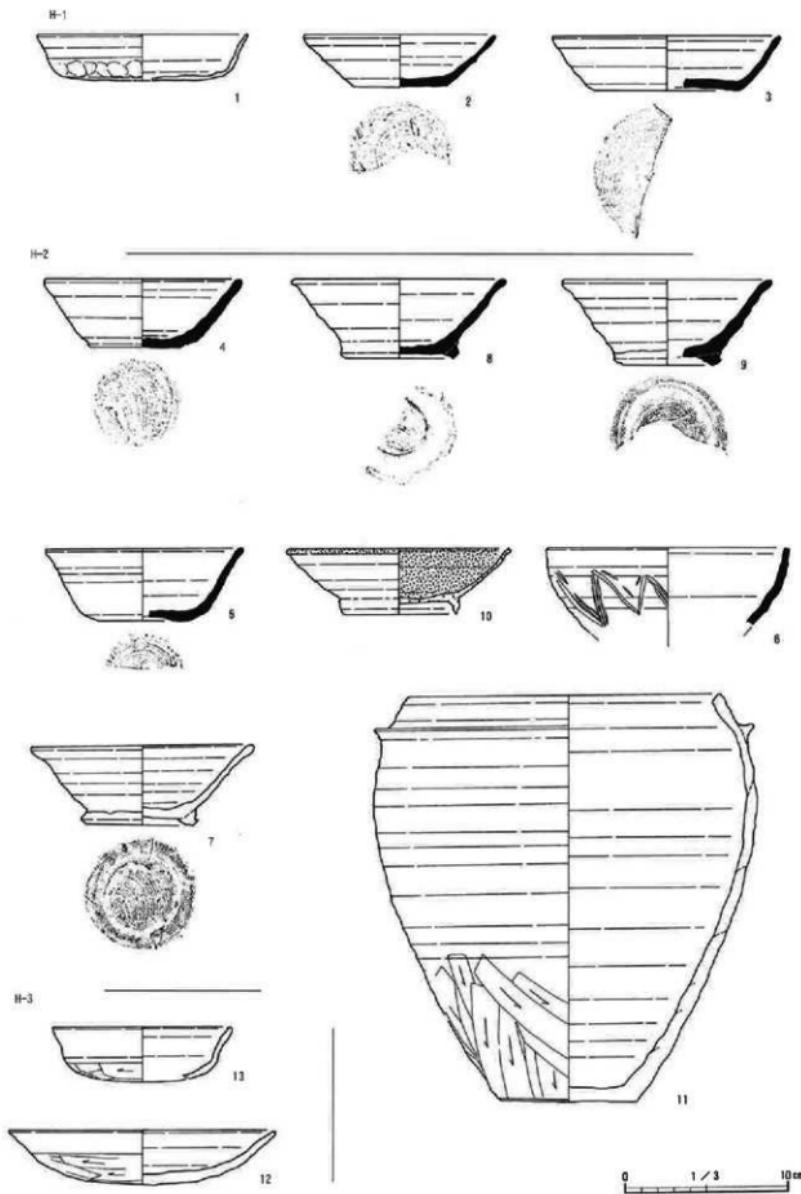


Fig.26 H-1～3号住居跡出土遺物

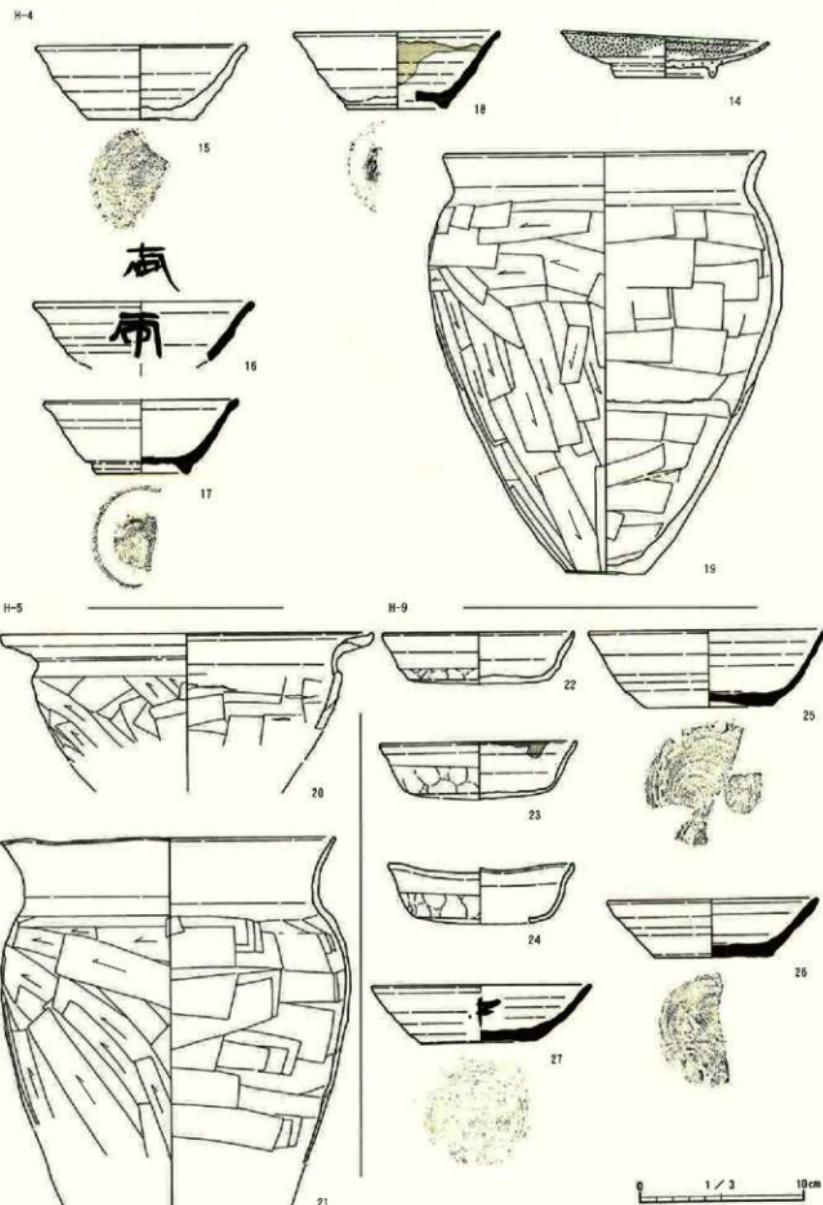


Fig.27 H-4 • 5号住居跡出土遺物

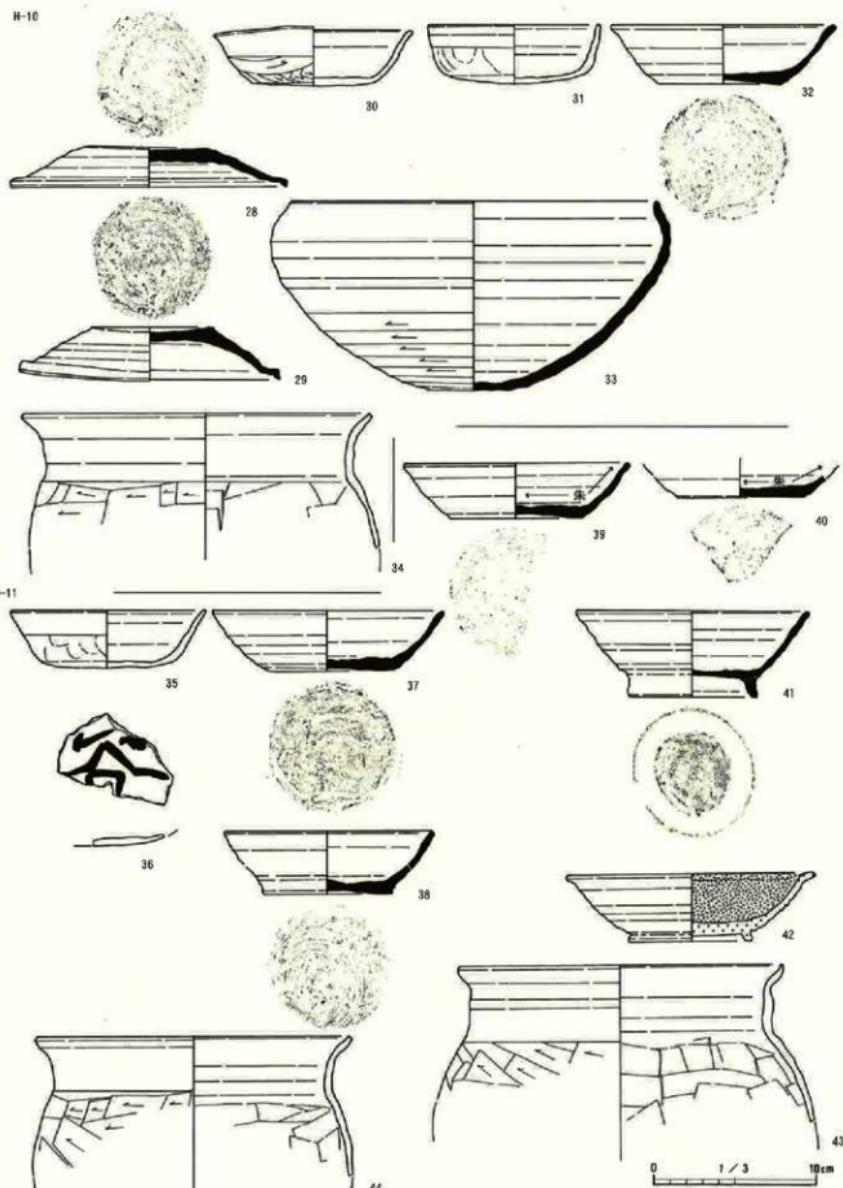
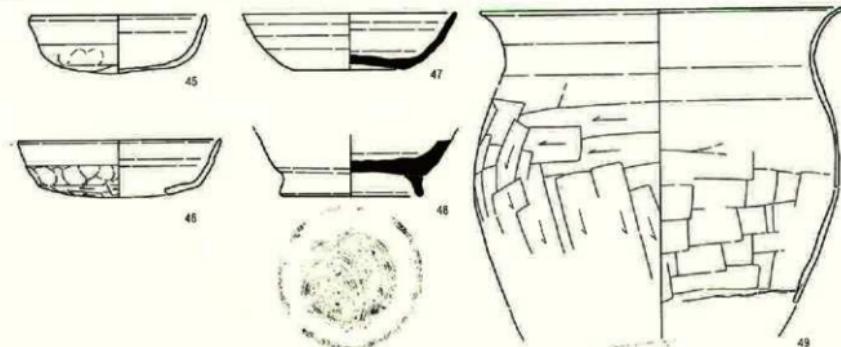
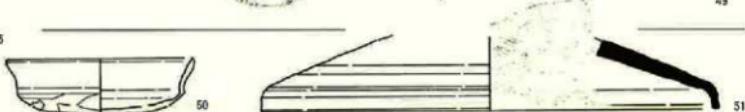


Fig.28 H-10・11号住居跡出土遺物

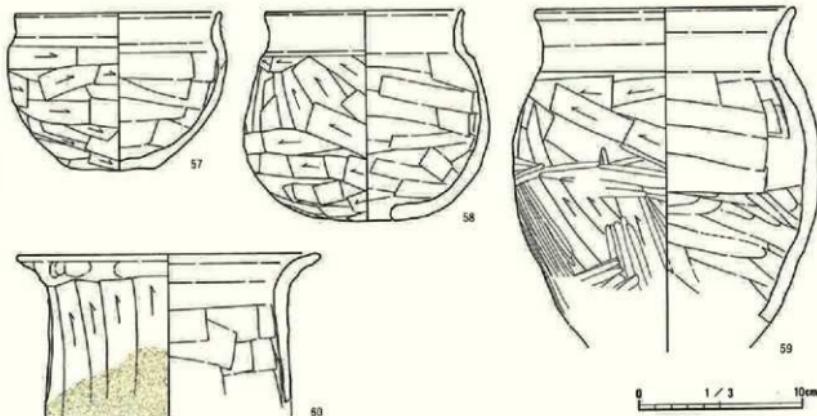
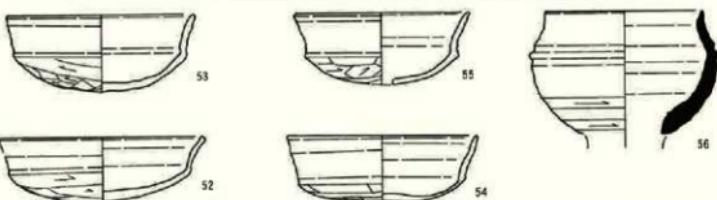
H-12



H-15



H-16



0 1 / 3 10cm

Fig.29 H-12・15・16号住居跡出土遺物

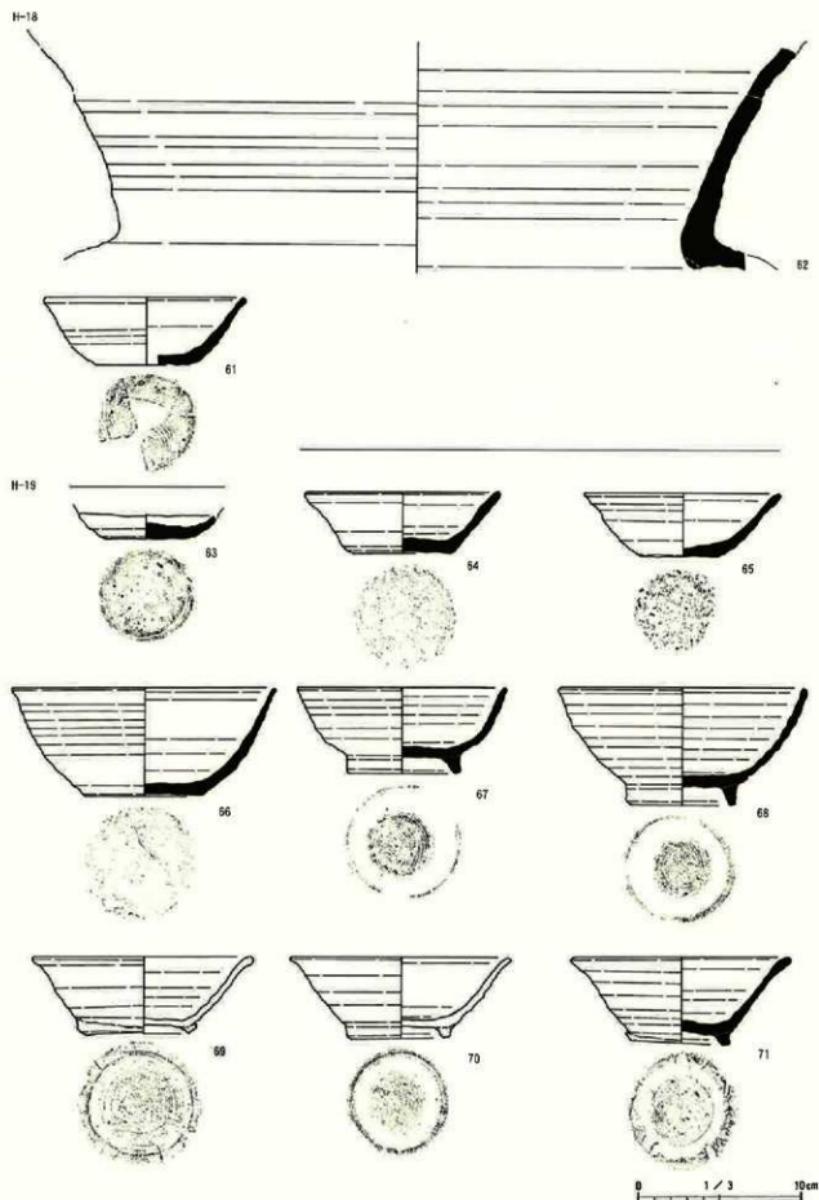


Fig.30 H-18・19号住居跡出土遺物

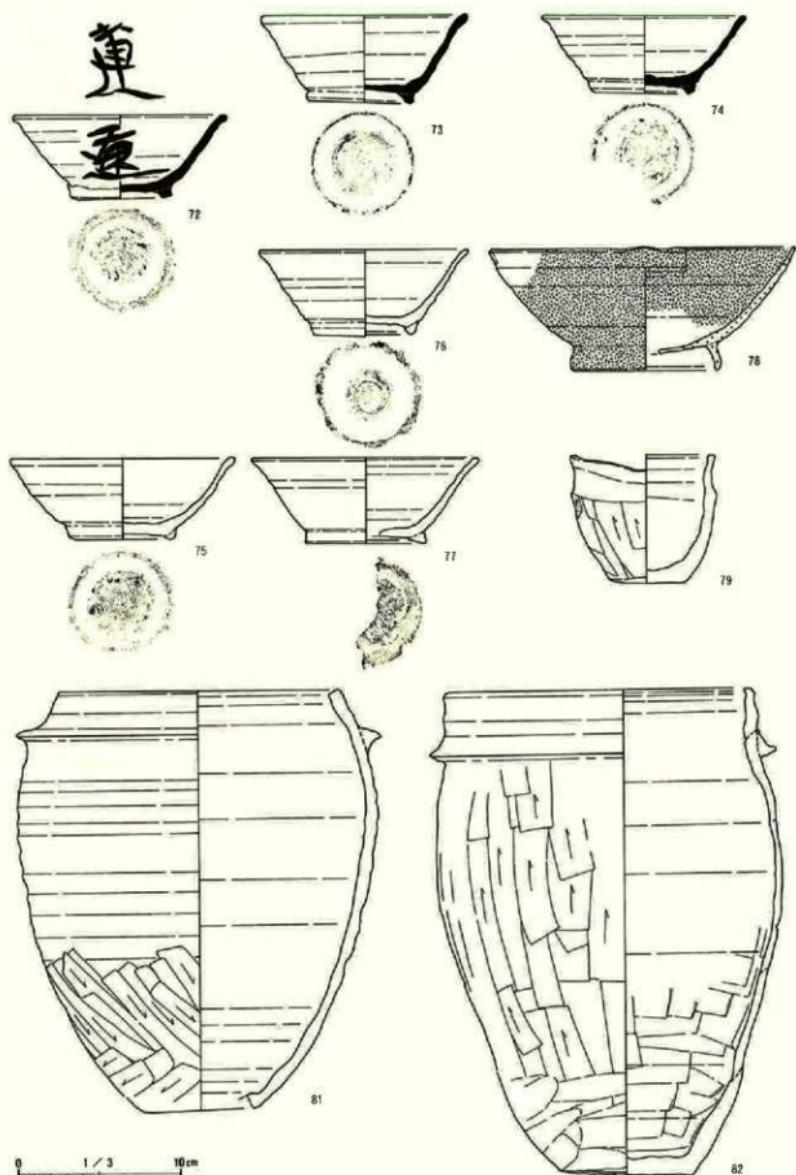


Fig.31 H 19号住居跡出土遺物

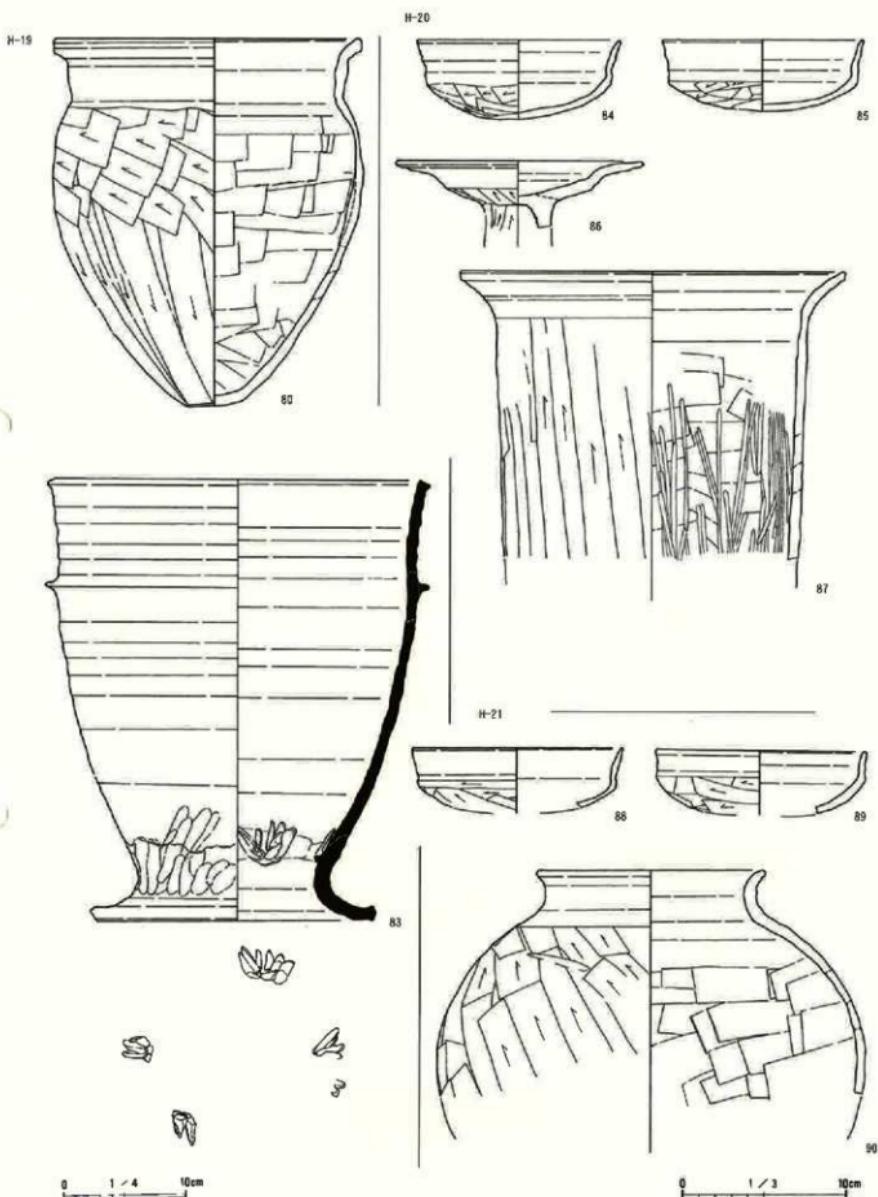


Fig.32 H-19·20·21号住居跡出土遺物

T-1

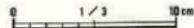
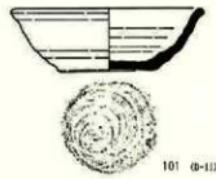
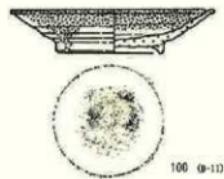
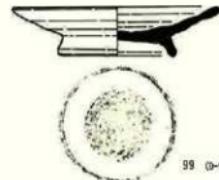
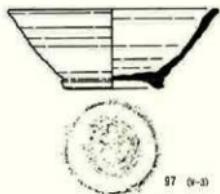
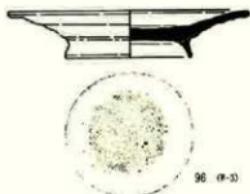
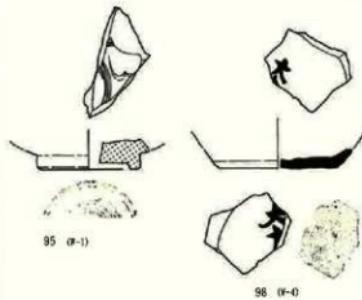
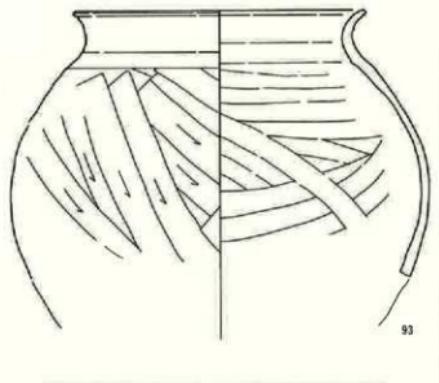


Fig.33 T-1号竖穴状遗構、溝跡、土坑出土遺物

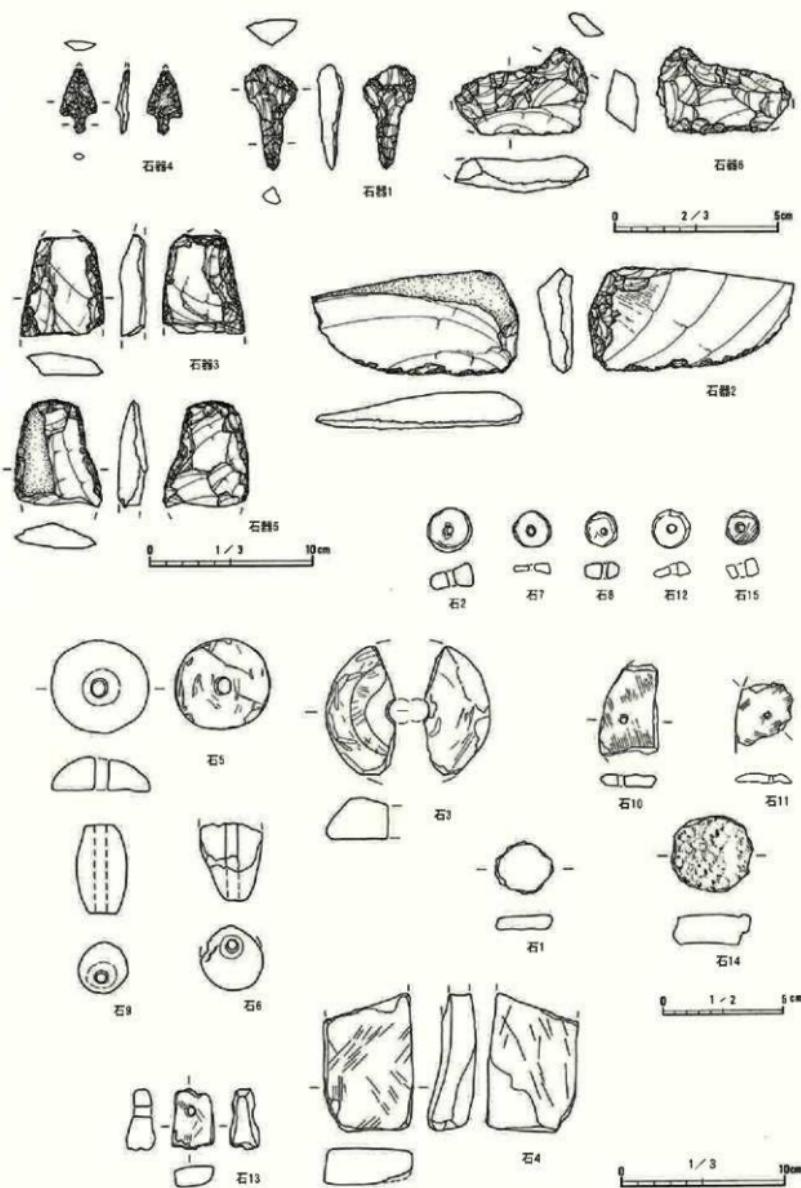


Fig.34 石器・石製品・土製品

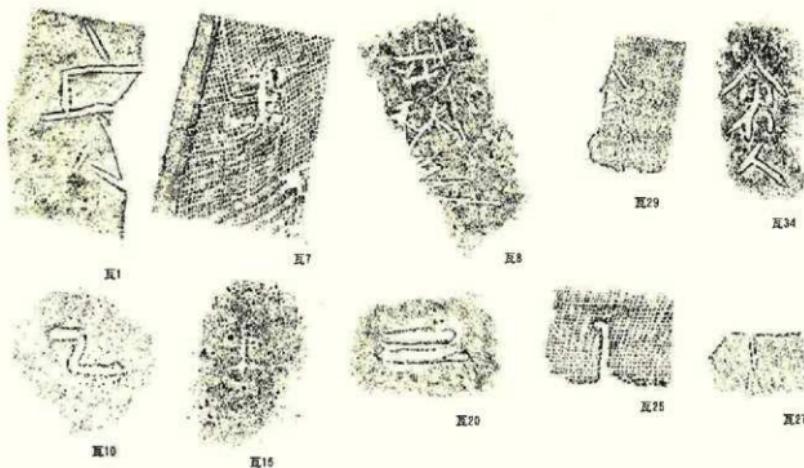
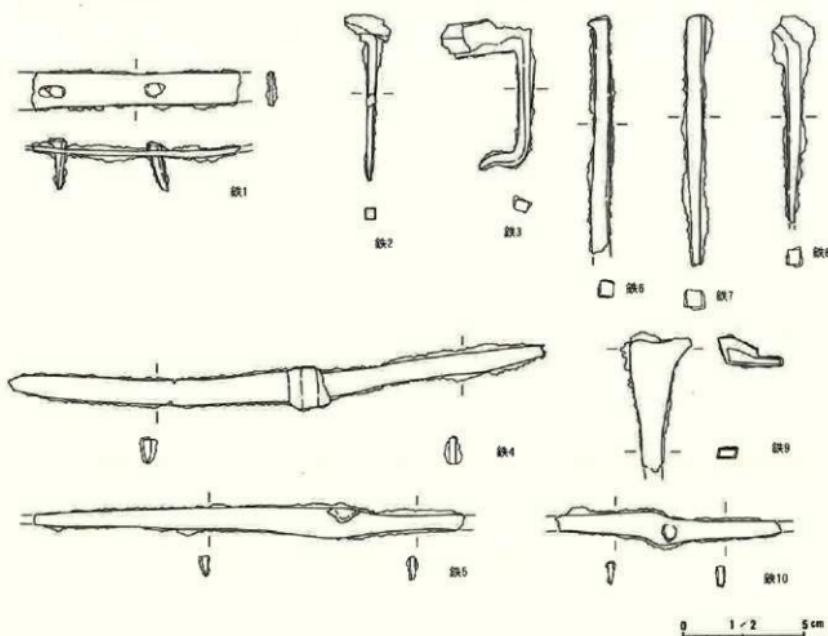
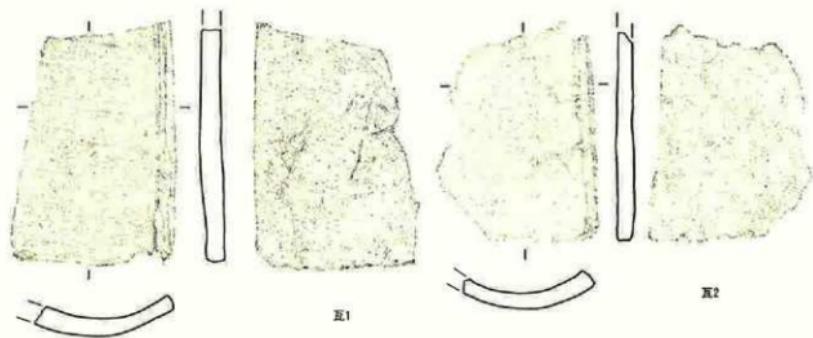


Fig.35 鉄器・鉄製品・文字瓦



0 1 / 6 20cm

Fig.36 III(1)

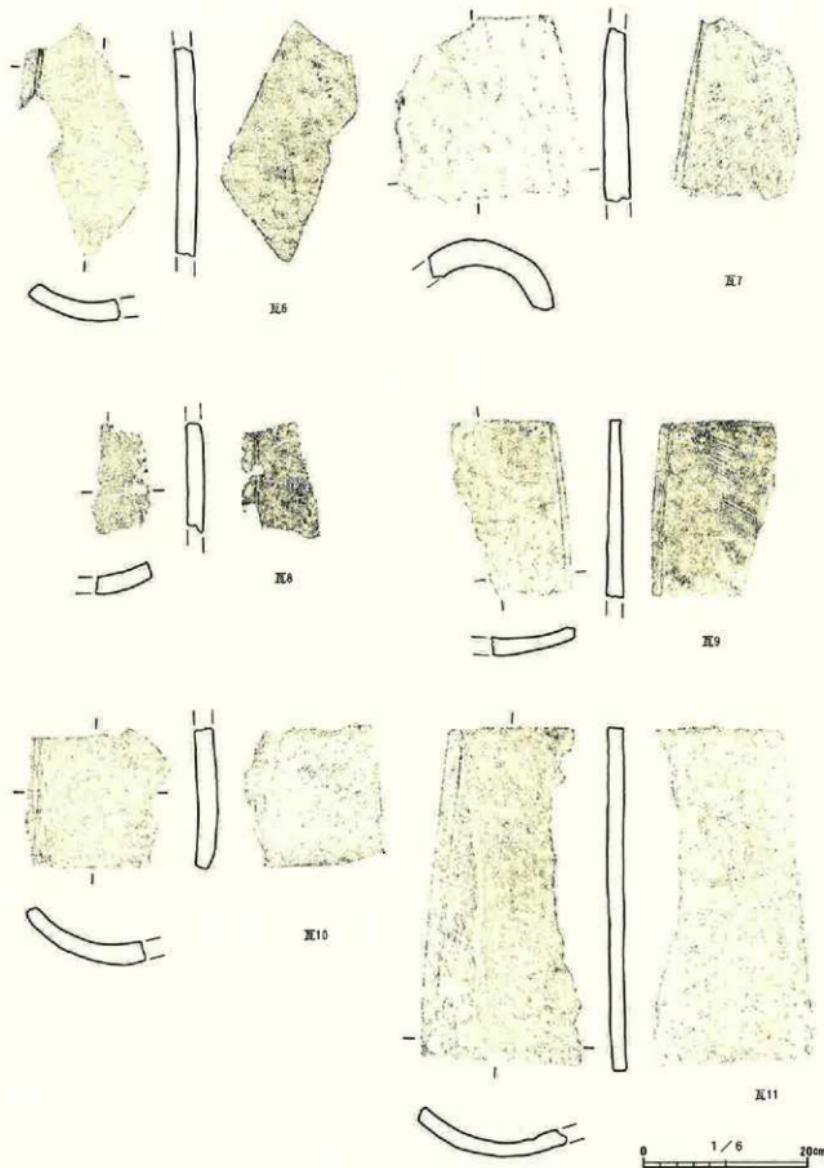


Fig.37 III(2)

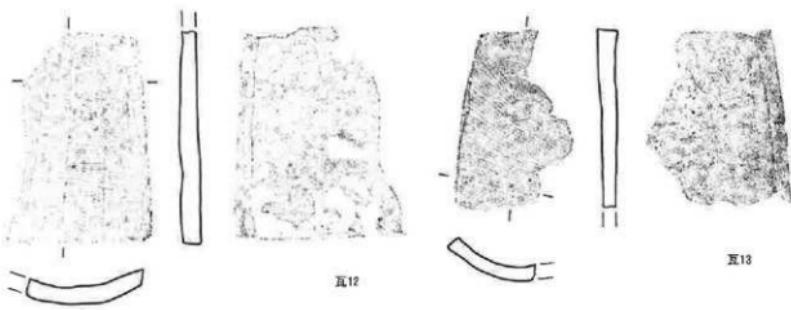


图12

图13

图14

图15

图16

图17

0 1/6 20cm

Fig.38 瓦(3)

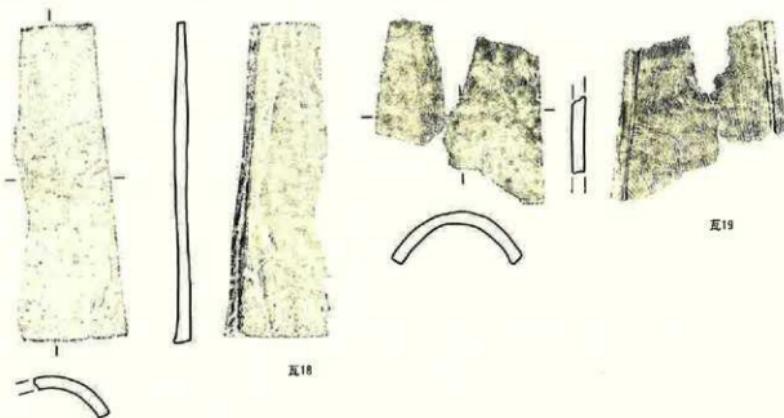


图18

图19

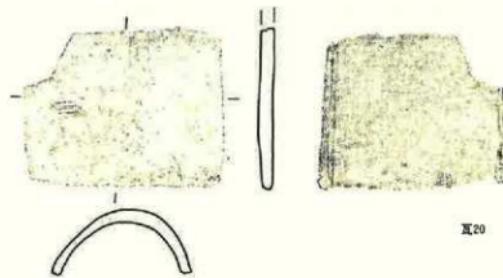


图20

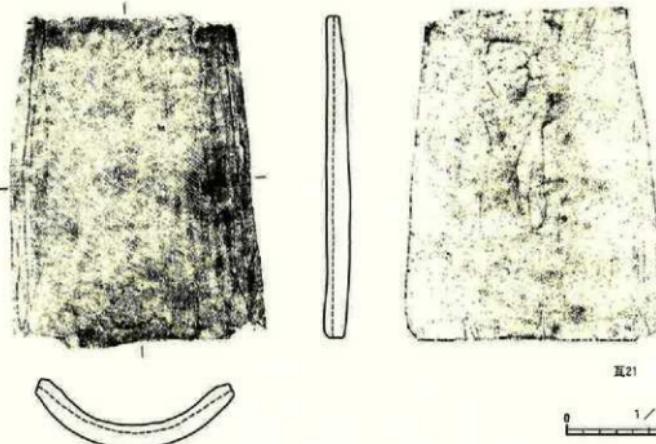
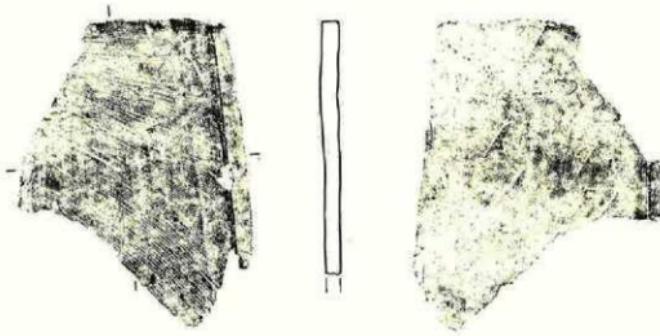


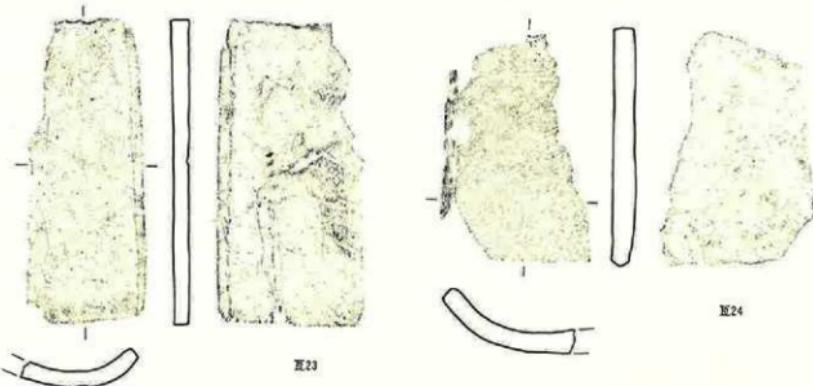
图21

0 1 / 6 20cm

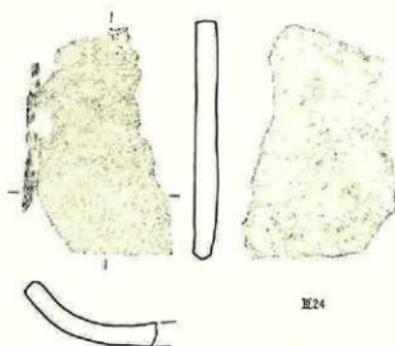
Fig.39 图(4)



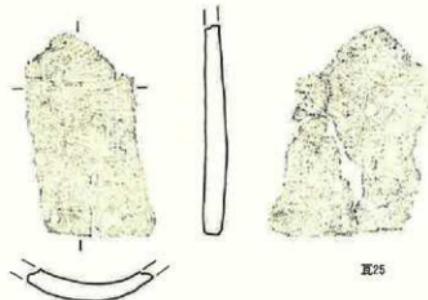
H22



H23



H24



H25

0 1 / 6 20cm

Fig.40 H(5)

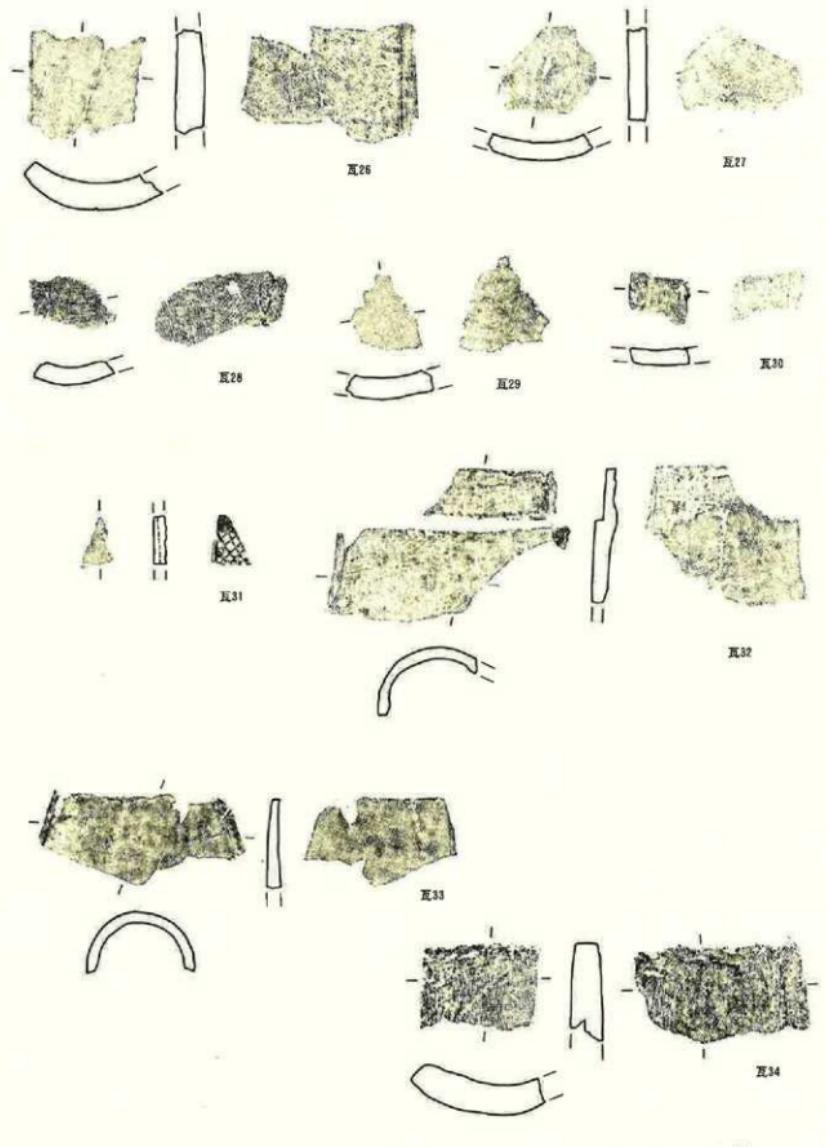


Fig.41 H(6)



J-1号住居跡全景（南から）



J-1号住居跡出土器（南から）



J-2号住居跡全景（北から）



J-2号住居跡出土物出土状況（北から）



J-2号住居跡出土器（北から）



J-2号住居跡埋設土器セクション（北から）



J-1号埋設土器上器（北から）



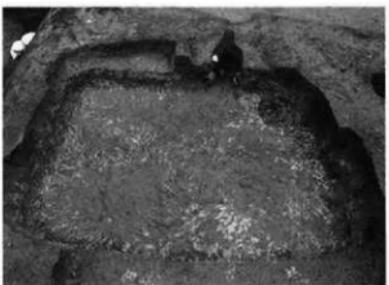
J-1号埋設土器セクション（西から）



埴塚区土塁（南から）



H-1・7号住居跡全景（西から）



H-2号住居跡全景（西から）



H-2号住居跡内出土物出土状況（西から）



H-2号住居跡全景（西から）



H-3号住居跡全景 (西から)



II-3号住居跡全景 (西から)



H-4号住居跡全景 (西から)



H-4号住居跡全景 (西から)



II-4号住居跡内遺物出土状況 (西から)



H-4号住居跡正面 (西から)



H-5号住居跡全景 (西から)



H-5号住居跡全景 (西から)



H-6号住居跡全景（北西から）



H-8号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



調査区北側遺構検出状況（南から）



H-10号住居跡全景（西から）



H-10号住居跡全景（西から）



H-11号住居跡全景（西から）



H-11号住居跡全景（西から）



H-11号住居跡左袖前遺物出土状況（西から）



H-11号住居跡P3全景



H-12号住居跡全景（西から）



H-12号住居跡全景（西から）



H-14号住居跡金景（西から）



H-14号住居跡竈全景（西から）



H-16号住居跡全景（西から）



H-16号住居跡遺物出土状況（東から）



H-17号住居跡全景（西から）



H-17号住居跡窓 (西から)



H-18号住居跡全景（西から）



H-18号住居跡竈全景（西から）



H-19号住居跡全景（西から）



H-19号住居跡概全景（西から）



H-19号住居跡遺正面（西から）



H-19号住居跡遺物出土状況（西から）



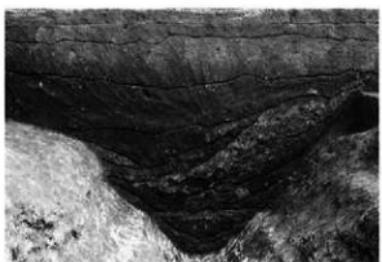
H-19号住居跡Ps遺物出土状況（北から）



H-20号住居跡全景（東から）



H-20号住居跡全景（東から）



W-1号溝跡セクション（西から）



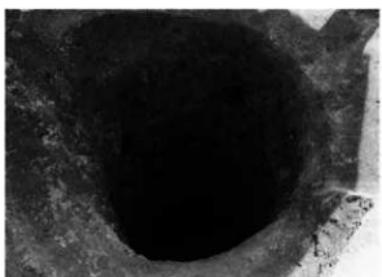
W-2号溝跡全景（南から）



W-3号溝跡全景（北から）



D-11号上坑遺物出土状況（北から）



I-1号井跡全景（北から）



発掘作業風景



図1 (J-1)



図2 (J-1)



図3 (J-1)



図5 (J-1)



図4 (J-1)



図6 (J-1)



図8 (J-1)



図7 (J-1)



図24 (U-1)



插9 (J-2)



插10 (J-2)



插11 (J-2)



插12 (J-2)



插13 (J-2)



插14 (J-2)



插15 (J-2)



插16 (J-2)



插17 (J-2)



插18 (J-2)



插19 (J-2)



插20 (J-2)



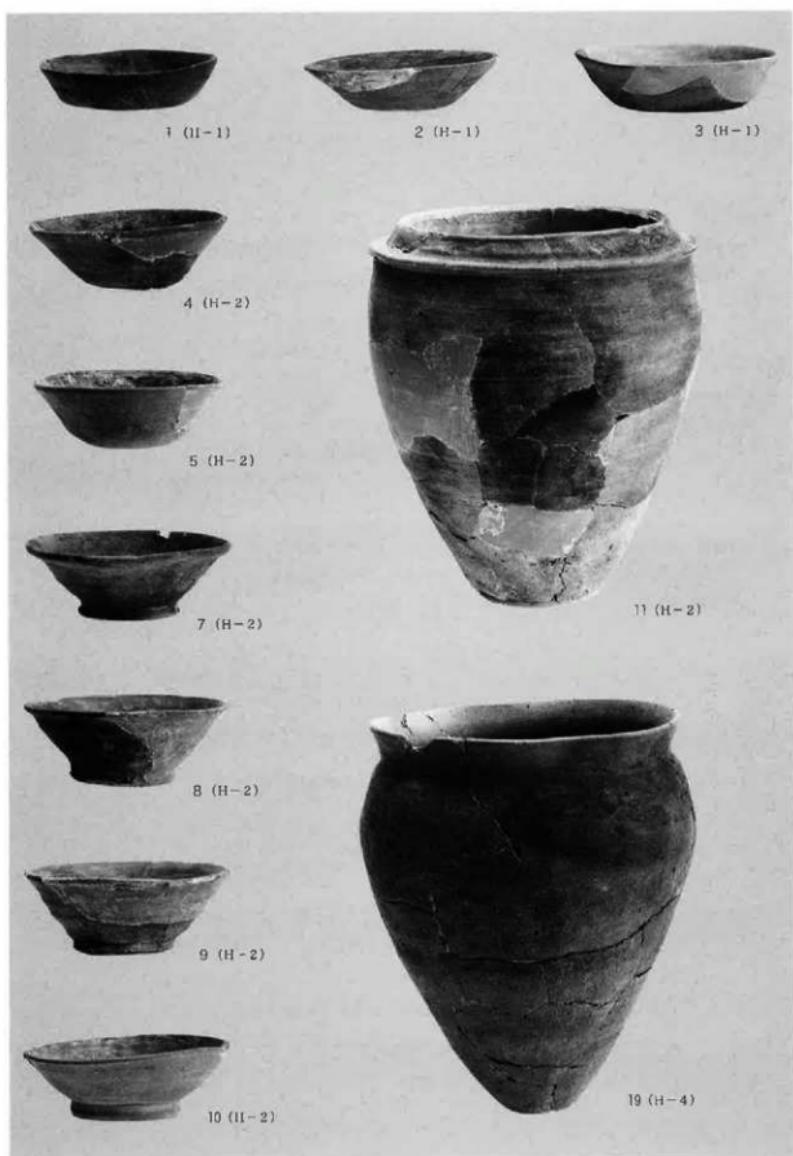
插21 (J-2)

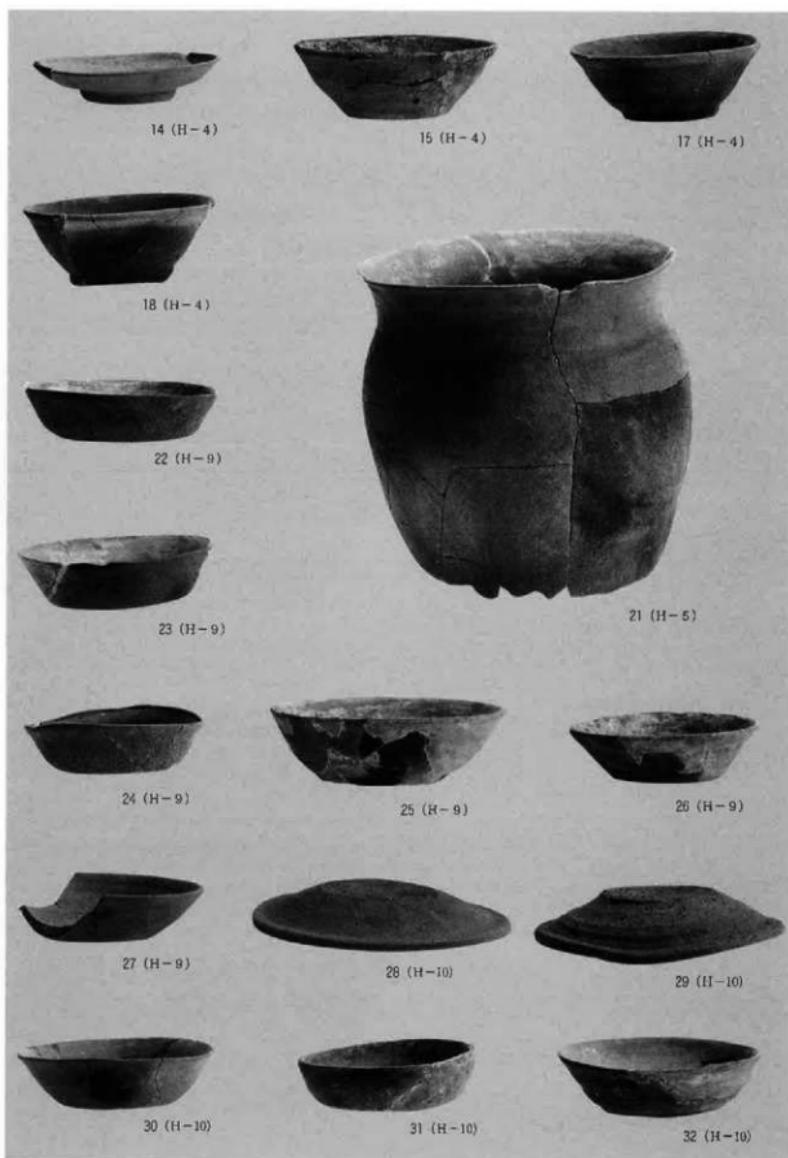


插22 (J-2)



插23 (J-2)







33 (H-10)



35 (H-11)



37 (H-11)



39 (H-11)



41 (H-11)



42 (H-11)



43 (H-11)



50 (H-15)



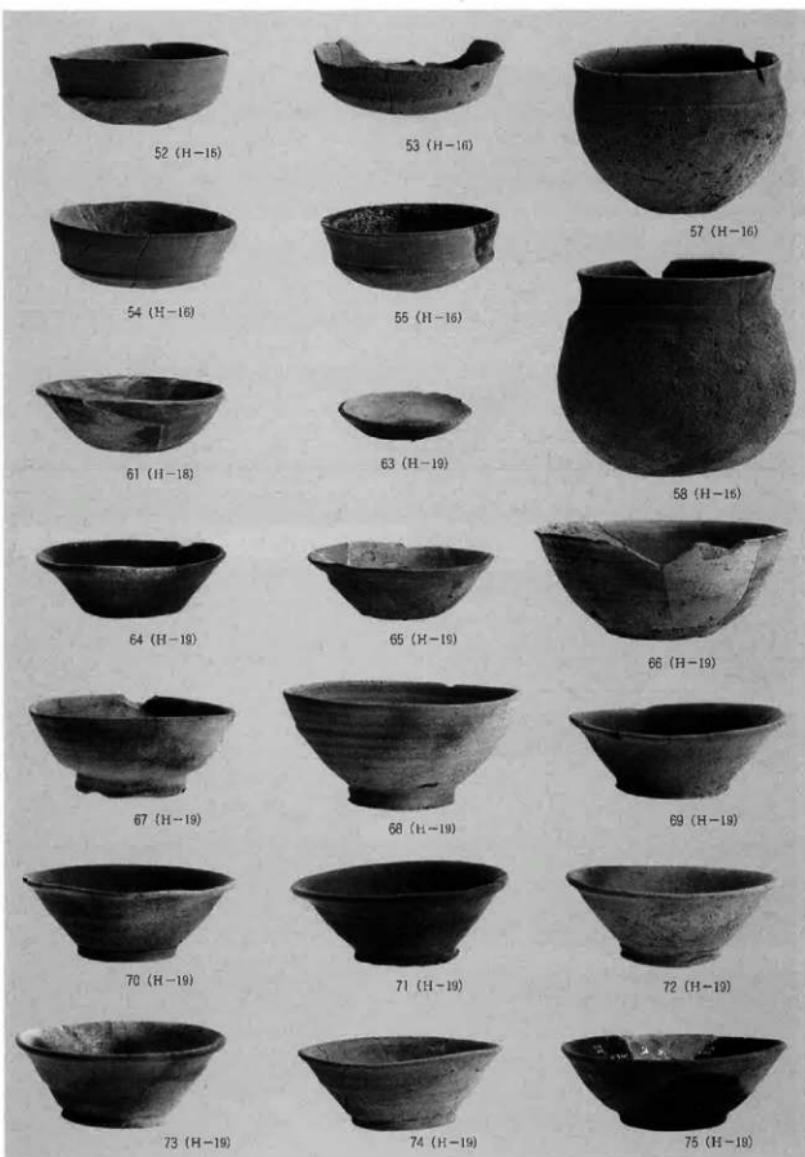
45 (H-12)



59 (H-16)



47 (H-12)





76 (H-19)



77 (H-19)



79 (H-19)



78 (H-19)



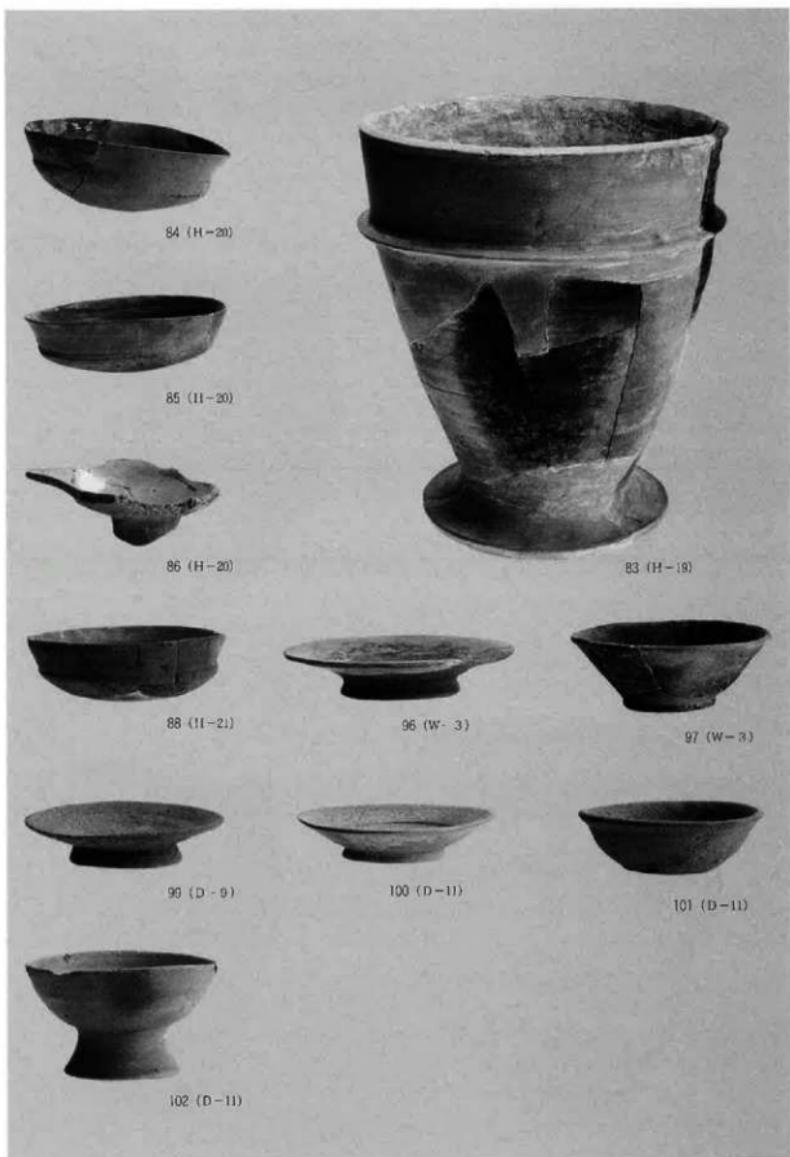
80 (H-19)



81 (H-19)



82 (H-19)



石器4 (J-2)



石器1 (J-1)



石器6 (X45, Y125)



石器3 (J-1)



石器2 (J-1)



石器5 (J-2)



石2 (H-9)



石7 (H-11)



石8 (H-11)



石12 (H-17)



石15 (H-21)



石5 (H-10)

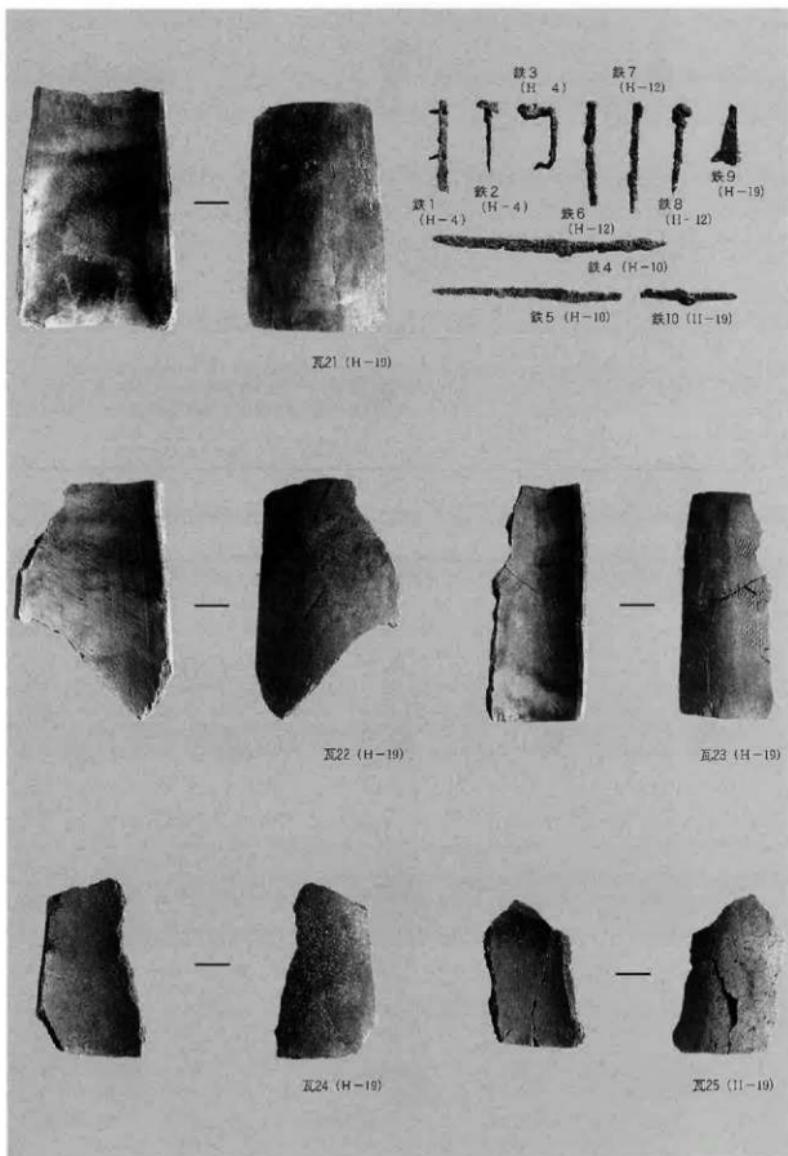


石3 (H-9)



石11 (H-16)





抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン(4)
書名	元総社蒼海遺跡群(4)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海上地区調査整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	近藤 雅順・池田 史人
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2006年3月3日

フリガナ 所取遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元総社蒼海遺跡群(4)	前橋市元総社町1713他	10201	17A130-10	36°23'33"	139°01'38"	20050909 20051125	約448m ²	前橋都市計画事業元総社蒼海上地区調査整理事業

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(4)	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡2軒、土坑2基 竪穴住居跡4軒 竪穴住居跡18軒、竪穴状遺構1、軒、溝跡4条 溝跡2条、井戸跡1基	縄文土器、石器 土師器、須恵器、石製模造品 土師器、須恵器、鉄製品 石製品・土製品、瓦	

元総社蒼海遺跡群(4)

2006年2月24日 印刷
2006年3月3日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所 朝日印刷工業株式会社

